筑波大学
ダイバーシティ

平成30年度活動報告書

国立大学法人筑波大学
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
ダイバーシティ担当

Diversity Division
Center for Diversity,
Accessibility and Career Development
University of Tsukuba

筑波大学
ダイバーシティ

平成30年度活動報告書

国立大学法人筑波大学
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
ダイバーシティ担当

Diversity Division
Center for Diversity,
Accessibility and Career Development
University of Tsukuba

CONTENTS

4 ダイバーシティの推進を目指して

5 Ⅰ 筑波大学ダイバーシティ推進 基本理念・基本方針・行動計画

6 筑波大学ダイバーシティの推進に係る基本理念・基本方針

7 筑波大学ダイバーシティの推進に係る基本理念・基本方針（英語版）

7 筑波大学ダイバーシティ推進行動計画

9 ダイバーシティ担当体制

11 Ⅱ ダイバーシティ推進事業

12 1. ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業（牽引型）

12 ①概要

13 ②シンポジウム「私たちはダイバーシティと男女共同参画をどのように実現するのか？」

16 ③TIDE Women's Award in 筑波大学

18 ④外部評価委員会

19 2. つくば女性研究者支援協議会

19 ①「つくば女性研究者支援協議会」会議

24 ②「つくば女性研究者支援ネットワーク憲章」の制定

25 ③「つくば女性研究者支援協議会」会員

26 ④「つくば女性研究者支援協議会」パンフレット

27 3. 意識啓発事業

27 ①大学執行部と共に女性研究者の研究環境について考える会

28 ②ダイバーシティリーダー育成講座

33 ③ダイバーシティセミナー

41 ④職員向けセミナー

45 ⑤子育てカフェ

49 4. 環境整備

49 ①育児等との両立のための研究・業務補助者雇用経費助成制度

50 ②ベビーシッター割引券

50 ③ライフイベントからの研究復帰支援事業

51 ④ダイバーシティ推進関連企画に対する支援事業

51 ⑤不妊治療動画の公開

52 ⑥ダイバーシティ推進のための取り組み説明会

53 ⑦学内育児スペース

54 5. 相談事業
54 ①相談室“あう”
56 ②キャリア相談
58 ③LGBT相談
60 ④アカデミック・メンター制度
61 ⑤相談窓口総覧

62 6. 裾野拡大・次世代育成事業
62 ①女子中高生向け理系進路選択支援事業
68 ②学群総合科目・大学院共通科目
72 ③イノベーション・インターンシッププログラム

75 7. LGBT等への対応

83 8. 他機関・他部局との連携
84 ①つくば男・女の集い2018
86 ②コラボレーションイベントポスター

93 Ⅲ 参考資料
94 ①ワークライフ支援ガイド（下敷き形）
95 ②育児休業制度利用の手引き
97 ③ロールモデル集
98 ④掲載記事
99 ⑤プレスリリース 「輝く女性の活躍を加速する 男性リーダーの会」行動宣言の賛同

ダイバーシティの推進を目指して

筑波大学のダイバーシティ推進への取り組みは、平成９年に女性教員有志による「筑波大学女性教官懇話会」から始まり、平成20年に「男女共同参画室」が設置されました。平成27年には、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターが発足し、障がいをもつ学生の支援、学生のキャリア形成を担う部門と連携してダイバーシティの推進に取り組めるようになりました。そして、平成28年には、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に採択され、日本IBMと産業技術総合研究所と連携し、女性研究者・技術者の活躍を加速するための「３つの土台（環境支援・意識啓発・研究力向上）」と「３つの柱（次世代キャリア支援・上位層育成・研究活動再開支援）」となる取り組みを実施し、産学官の多様な視点に基づいて女性研究者・技術者を牽引することで、イノベーション創出を目指す取り組みを進めています。

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」事業として、昨年度は異なる組織の女性たちが抱えている課題や進んで行くべき方向性について３回のリーダー育成講座とシンポジウムにてワークを行い、４回目には各組織の意思決定者に向けて報告プレゼンテーション及び提言しました。平成30年度はこれを受け、抽出された課題について学内・学外で更に協議を重ね、４回目には執行部（学長、副学長、学系長）を交えたワークを行いました。執行部からは自らが取り組むべき課題について、「チャレンジ宣言」を発信しました。宣言された内容は、女性に限らず、現代社会が抱えている課題でもあり、女性からの問題提起が、男女を問わず人が輝く社会をつくることに寄与するであろうことを改めて実感できました。

平成25年度から採択された科学技術振興機構の「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」では、例年全国から100名以上の中高生が筑波大学に集まり、理系の研究者や大学生、仲間と交流を深めて参りました。今年度は茨城県と共催で、初日にシンポジウムを取り入れる等、内容の充実を図り、子供たちの夢に向かう背中を押すようなイベントを行いました。

また、ダイバーシティ基本理念に基づき、平成27年度よりLGBT等（Lesbian・Gay・Bisexual・Transgender及び他のセクシュアリティを含む）の学生および教職員への支援体制の構築を進め、本学におけるLGBT等に関する基本理念及び対応ガイドラインを作成し、公表しました。今年度は、企業などのLGBT施策を評価し、表彰などを行う「work with Pride 2018」において２年連続でゴールドを受賞することができました。教職員や学生を含む全員を対象にLGBTに対する差別の禁止や解消を明文化したことが高く評価されました。

ダイバーシティへの取り組みは、一歩ずつ着実に進んでいるという思いと同時に、思うように進まない焦燥感が交錯しますが、様々な事業を通じて出会う人たちのエネルギーと強い思いに力をいただいています。平昌オリンピック・パラリンピックではアスリートたちの活躍に思わず背筋を伸ばしました。結果が全てではありませんが、結果を出すことが圧倒的な説得力を持つことも間違いありません。今後もスタッフ一同、ダイバーシティの実現に向けて努めてまいりますので皆様にもご協力、ご支援を賜りますようにお願いを申し上げます。

ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
業務推進マネージャー
山口　香

I

筑波大学ダイバーシティ推進
基本理念・基本方針・行動計画

Ⅰ 筑波大学ダイバーシティ推進 基本理念・基本方針・行動計画

筑波大学では平成20年に「筑波大学男女共同参画の推進に係る基本理念・基本方針」を策定し、同理念・方針に則って男女共同参画室を中心に本学におけるダイバーシティ推進を行ってきた。平成24年には、それまでの男女共同参画を更に拡充するため、「ダイバーシティ基本理念・基本方針」を策定し、「男女共同参画推進室」から「ダイバーシティ推進室」と名称を改め、平成25年には「筑波大学ダイバーシティ推進行動計画」を策定した。更に平成27年には、「筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター」※ へと再編され、包括的な視点から本学のダイバーシティ推進に取り組んでいる。

※筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターは、従来のダイバーシティ推進室、障害学生支援室、キャリア支援室を有機的に統合し、多様化する学生及び教職員への包括的な支援を目的として設置されたセンターである。性別、国籍、年齢及び障がいの有無等にかかわらない、幅広いダイバーシティの推進を目指し、活動に取り組んでいる。

筑波大学ダイバーシティの推進に係る基本理念・基本方針

【基本理念】

筑波大学は、性別、国籍、年齢及び障がいの有無にかかわらず人間の可能性と多様性を尊重し、ダイバーシティ文化の醸成に努めるとともに、すべての構成員が働くことに誇りと喜びを実感できる大学を作りあげるため、以下の理念のもとに、男女共同参画社会及びダイバーシティ社会の形成に積極的に寄与する。

1．性別、国籍、年齢及び障がいの有無にかかわらず、すべての人の人権の尊重、個人の尊厳の確立
2．性別、国籍、年齢及び障がいの有無にかかわりなく個人としての個性と能力発揮の機会の確保
3．あらゆる分野における諸施策の企画・立案及び決定において、性別、国籍、年齢及び障がいの有無にかかわりない対等な参画の推進
4．男女共同参画社会、及びダイバーシティ社会の実現に向けた国際協力の推進

【基本方針】

基本理念に基づき、次に示す基本方針に沿って行動する。

1．男女共同参画、及びダイバーシティの視点に立った教育・研究・就業の確立
2．教育・研究・就業と家庭生活との両立支援
3．若手、女性、外国人等（注）増加のための施策の推進
4．若手、女性、外国人等の役職、及び施策決定に関与する委員会への登用の促進
5．教職員・学生への啓発活動の推進
6．地域社会・国際社会との連携を通じての男女共同参画、及びダイバーシティの推進

（注）「若手、女性、外国人等」とは、左記に掲げた人々のみならず、性別、年齢、国籍や障がいの有無を超えた多種多様な人々を指す。

筑波大学ダイバーシティの推進に係る基本理念・基本方針　英語版

Basic Principles

University of Tsukuba commits itself to actively contributing to the formation of a society founded on human equality and gender equality in accordance with the following principles, thereby becoming a university where human potential and diversity are respected and all stakeholders can experience pride and joy in their work:

1. Respect of the human rights regardless of age, gender, nationality, or disability and the stablishment of the dignity of the individual
2. Creation of opportunities for all people to realize their full individuality and potential regardless of age, gender, nationality, or disability
3. Promotion of equal participation regardless of age, gender, nationality, or disability in planning, development, and decision-making for policies in every area of campus life and administration
4. Promotion of international cooperation in the service of achieving a society founded on gender equality and diversity

Basic Policies

The University of Tsukuba shall act in accordance with the following Basic Policies, which embody the Basic Principles described above:

1. Pursuit of education, research, or work from the perspective of gender equality and diversity
2. Offering of assistance in the balancing of education, research, or work with family life
3. Expansion of an open recruitment system in order to increase the number of young, female, or foreign faculty members
4. Promotion of young, female, or foreign faculty members to administrative positions
5. Pursuit of awareness-raising activities targeting faculty members and students
6. Pursuit of gender equality and diversity through partnerships with the local community and international society

Note: The term “young, female, or foreign” refers to individuals regardless of age, gender, nationality, or disability.

筑波大学ダイバーシティ推進行動計画

筑波大学は、性別、国籍、年齢及び障がいの有無にかかわらず人間の可能性と多様性を尊重し、男女共同参画社会などのダイバーシティ社会の形成に努めるとともに、すべての構成員が働くことに誇りと喜びを実感できる大学を作りあげるため、「国立大学法人筑波大学中期目標・中期計画」、及び「筑波大学ダイバーシティの推進に係る基本理念・基本方針」に基づき、その具体化に向けて、「筑波大学ダイバーシティ推進行動計画」を策定する。

本行動計画の実施期間は、2013（平成25）年度から2018（平成30）年度までの６年間とし、年度ごとに進捗状況を精査しながら以下の施策に取り組む。

筑波大学ダイバーシティ推進行動計画

１．大学運営におけるダイバーシティの推進

（1）大学の施策決定に関与する役職者や委員会におけるダイバーシティ・バランスの配慮

（2）若手・女性・外国人等の積極的登用・昇進

（3）各系における女性、外国人、障がい者等の採用数値目標と採用計画の策定支援

2．教育・研究・就業と家庭生活との両立支援

(1) ライフステージに対応した勤務制度の拡充
(2) 出産、育児環境の拡充
(3) 介護環境の充実
(4) 相談窓口の拡充
(5) インターネットによる在宅研究支援の拡充
(6) 両立支援のための経費助成の拡充
(7) 両立支援のための情報交換の推進

3．ダイバーシティ実現のための裾野拡大

(1) 女性研究者等の裾野拡大施策の拡充
(2) 外国人等の裾野拡大施策の導入
(3) 障がいをもつ方の裾野拡大施策の導入
(4) ダイバーシティの視点からの学内設備・建物の見直し
(5) アカデミック・メンター制度の拡充

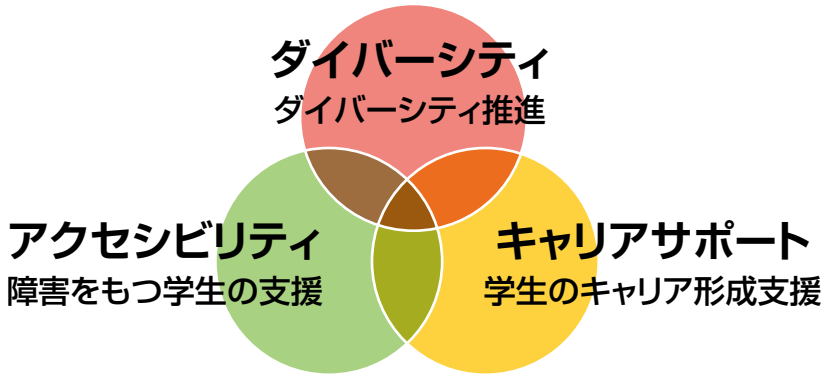
4．教職員・学生への啓発活動の推進

(1) 教職員を対象とした啓発活動
(2) 学群生・大学院生等への啓発活動
(3) 定期的なニーズアンケート調査の実施
(4) ダイバーシティを推進するための広報活動（ウェブサイト、リーフレット等）の拡充
(5) 就業・修学環境の悪化へと繋がるハラスメントの防止対策
(6) ダイバーシティの視点を取り入れた災害対策

5．地域社会・国際社会との連携を通じたダイバーシティの推進

(1) 筑波研究学園都市内の研究機関、及びダイバーシティを推進する他大学との連携
(2) 茨城県やつくば市をはじめとする地方自治体との連携
(3) 企業との連携
(4) 初等中等教育機関との連携
(5) 国際社会の取組との連携
(6) ダイバーシティ推進を率先して実施している大学として、ダイバーシティ教育・研究の充実を行う

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター



ダイバーシティ担当体制

平成30年度

氏名	所属	職名
山口　香（ヤマグチ　カオリ）	体育系／ダイバーシティ･アクセシビリティ･キャリアセンター（以下DACセンター）	教授・業務推進マネージャー
河野　禎之（カワノ　ヨシユキ）	DACセンター	助教
秋保　さやか（アキホ）	DACセンター	助教
大園　裕香（オオゾノ　ユカ）	学生部就職課　DACセンター（ダイバーシティ担当）	係長
三浦　博子（ミウラ　ヒロコ）	学生部就職課　DACセンター（ダイバーシティ担当）	一般職員
松島　尚子（マツシマ　ナオコ）	学生部就職課　DACセンター（ダイバーシティ担当）	コーディネーター
石井　万里子（イシイ　マリコ）	学生部就職課　DACセンター（ダイバーシティ担当）	一般係員
福田　千里（フクダ　チサト）	学生部就職課　DACセンター（ダイバーシティ担当）	事務補佐員
黒木　教子（クロキ　ノリコ）	学生部就職課　DACセンター（ダイバーシティ担当）	事務補佐員
平田　しのぶ（ヒラタ）	学生部就職課　DACセンター（ダイバーシティ担当）	キャリアカウンセラー
片岡　友子（カタオカ　トモコ）	学生部就職課　DACセンター（ダイバーシティ担当）	事務補佐員

アドバイザー

吉瀬　章子（ヨシセ　アキコ）	システム情報系	教授・学長補佐
庄司　一子（ショウジ　イチコ）	人間系	教授・学長特別補佐
溝上　智恵子（ミゾウエ　チエコ）	図書館情報メディア系	教授・図書館情報メディア系長

Ⅱ

ダイバーシティ推進事業

Ⅱ ダイバーシティ推進事業

1. ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業（牽引型）

①概要

筑波大学、日本IBM、産業技術総合研究所の３機関は、産学官の多様な視点に基づく女性研究者・技術者支援を牽引するため、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に協働して取り組みます。本事業を通して産学官の３機関が協働することにより、各機関及び地域や分野における女性研究者・技術者の一層の活躍を推進します。

－「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」－

研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究成果の創出につなげるため、各機関・地域の特色を踏まえた、女性研究者の活躍推進に向けた機関としての目標・行動計画を設定・公表することを要件とし、女性研究者のライフイベント及びワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備や女性研究者の研究力向上のための取組及び女性研究者の積極採用や上位職への積極登用に向けた取組を支援する、文部科学省科学技術人材育成費補助事業です[1]。

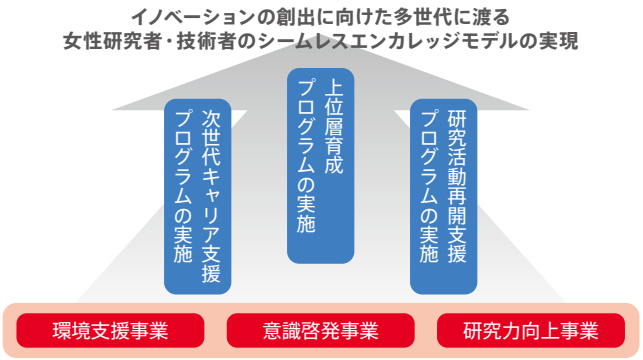
特に「牽引型」は、大学や研究機関が企業等と連携し、連携する各機関はもとより、その他の機関を含めた地域や分野における女性研究者の活躍促進を牽引する取組です[1]。

[1] 文部科学省・科学技術振興機構「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」HP 参照
（http://www.jst.go.jp/shincho/josei_shien/index.html）

実施目的

筑波大・日本IBM・産総研が連携して女性研究者･技術者の採用や活躍を加速するための「３つの柱」と「３つの土台」となる取組を実施し、産学官の多様な視点に基づく女性研究者・技術者支援を牽引することで、イノベーション創出に向けた「多世代に渡る女性研究者・技術者のシームレスエンカレッジモデルの実現」を目指します。

取組の全体像（３つの土台と柱）



本事業のロゴマーク

TIDE

TIDE：Tsukuba Advancing Initiatives for Diversity and the Environmentとは、筑波大学、日本アイ・ビー・エム株式会社、産業技術総合研究所による平成28年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の活動名「多世代に渡る女性研究者・技術者のシームレスエンカレッジモデルの実現を目指して」の略称です。

②シンポジウム「私たちはダイバーシティと男女共同参画をどのように実現するのか？」

シンポジウム実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	平成30年度TIDEシンポジウム 「私たちはダイバーシティと男女共同参画をどのように実現するのか？」
実施日	2018年９月22日（土）10:00～12:00
場所	つくば国際会議場　202A
形式	一般公開・(シンポジウム)・セミナー・講演会・ワークショップ・その他（　　） 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））　無
対象者	(一般)(研究者)(学生)(その他（職員）)
来場者	人数：90名（内訳　学生41名　教員９名　職員９名　その他31名）
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース (HP)(メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター 業務推進マネージャー　山口　香
内容	【概要】 ダイバーシティと男女共同参画について、特に学術/研究分野で実現させるためには何が必要なのかを理解するべく、国内の動きを牽引する女性トップ（高橋 裕子津田塾大学長）による基調講演と、国内のグッドプラクティスとして筑波大学や連携機関での取組（TIDEの取組）を紹介したうえで、国内外の女性研究者/技術者によるパネルディスカッションを行い、今後の展望を拓きます。 【当日の内容】 基調講演は「大学におけるトップマネジメントとダイバーシティ推進」と題し、筑波大学大学院のOGでもある高橋先生から、日本の歴史における女性の社会進出を牽引してきた女性を数多く輩出し、女性管理職の登用を積極的に進めてきた津田塾大学の歩みをご紹介いただきました。特別な機会だけではなく、日常から女子学生・教員に豊富なロールモデルを提供し、彼女らが自信と実力を身につけられる環境づくりの重要性を再確認しました。 本シンポジウムでは、【TIDE Women's Award in 筑波大学】の表彰式も併せて行われました。 パネルディスカッションでは、「意思決定プロセスへの女性の参画」と題し、モデレーターには柳沢 裕美氏（筑波大学 教授）、登壇者にはJennifer Preece氏（University of Maryland, Professor and dean emerita）、倉島 菜つ美氏（日本アイ・ビー・エム株式会社 技術理事）、奈良崎 愛子氏（産業総合技術研究所 主任研究員）の４名をお迎えしました。ご自身の経験などを踏まえながら、ダイバーシティ推進のための組織・環境づくり、そこで生きる女性たちのモチベーション形成についてヒントを頂き、会場からは「周囲の理解をどのように得ているのか」「家族や配偶者間において期待することは何か」といった質問を受けながら、ディスカッションが進行しました。

	閉会後のアンケートでは、 ・様々な現場の最前線で活躍する女性のお話が聞け、刺激的だった ・当たり前のことを万難に排して当たり前に続けている事は非常に強いと感じた ・企業や大学、日本から海外といった幅広い事情が聞けて参考になった ・コンフォートゾーンを一歩出て関わっていくことが大切だと思った など、本シンポジウムで知った様々な事例をもとに、各々の環境・組織でもダイバーシティ推進を加速させたいという思いに溢れたコメントをいただきました。
効果、問題点	・本シンポジウムでの内容が理想で留ませることなく、日常生活における小さなことの見直しから実現につなげていこうというメッセージを強く発信することができ、来場者の多くが自分ごととして実践に移していく姿勢を感じられました。
反省事項	・今回は遠方からの参加者を考慮し、開始時間を遅めに設定しましたが、２時間では充分なディスカッションを行うことができませんでした。
特記事項	・例年に比べ男性の参加者が多く、本シンポジウムで指摘したダイバーシティに大きく前進した形となり、これを来年度以降も続けていく方法を検討する必要があります。 ・更に、来年度からは「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」が４年目という折り返しに入るため、次回以降は前半３年間の取り組みや実績について振り返り、比較することを重要視したく思います。

TSUKUBA GLOBAL SCIENCE WEEK

TIDE

TIDE：Tsukuba Advancing Initiatives for Diversity and the Environmentとは、
筑波大学、産業技術総合研究所、日本アイ・ビー・エム株式会社による
平成28年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の
活動名「多世代に渡る女性研究者・技術者のシームレスエンカレッジモデルの実現を目指して」の略称です。

平成28～33年度 文部科学省 科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

Beyond the border:

私たちはダイバーシティと男女共同参画をどのように実現するのか？

how we realize the diversity and gender equality in the future?

日時 平成30年9月22日（土） 10:00～12:00

場所 つくば国際会議場 202A

基調講演 高橋 裕子氏（津田塾大学長）
「大学におけるトップマネジメントとダイバーシティ推進」

パネルディスカッション
「意思決定プロセスへの女性の参画」

パネリスト：柳沢 裕美氏（筑波大学）
Jennifer Preece氏（University of Maryland）
奈良崎 愛子氏（産業技術総合研究所）
倉島 菜つ美氏（日本アイ・ビー・エム株式会社）

TIDE Women's Award in 筑波大学 表彰式 ほか

オーガナイザー：五十嵐浩也氏（筑波大学）/ 庄司一子氏（筑波大学）

教育/研究/開発分野でダイバーシティと男女共同参画を実現させるためには何が必要なのか？そのために、国内外ではどのようなグッドプラクティスがあるのか？
国内の動きを牽引する女性トップによる基調講演と、国内外の女性研究者/技術者によるパネルディスカッションを通して、グローバルな視点から今後の展望を拓きます。

使用言語 日本語

申込み
参加費無料。下記URLから事前登録をお願いします。当日参加も可能です。
https://peatix.com/event/386078
※本シンポジウムはTsukuba Global Science Week（TGSW）2018と同時開催します。上記URLはTGSW2018の申込みフォームとなり、本シンポジウムへの参加登録を兼ねますのでご理解ください。

託児（無料）
事前のお申込みが必要です。
以下の「お問い合わせ」にあるE-mailアドレスにご連絡下さい。
締切：9月10日（月）

お問い合わせ
国立大学法人 筑波大学
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（ダイバーシティ担当）
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
TEL：029-853-8504 FAX：029-853-8505
URL：http://diversity.tsukuba.ac.jp/
E-mail：diversity@un.tsukuba.ac.jp

つくば駅A3出口を出て、バスロータリーに沿って右に進み、階段を上り、遊歩道を直進およそ800m。

主催 国立大学法人 筑波大学、国立研究開発法人 産業技術総合研究所、日本アイ・ビー・エム株式会社

共催 つくば女性研究者支援協議会

③TIDE Women's Award in 筑波大学

本顕彰は、研究のみならず教育や地域貢献、学内外のダイバーシティ推進に尽力している若手の女性研究者を顕彰することにより、当該優秀女性研究者自身及びこれに続く多くの若手研究者の励みとし、ステップアップに繋がるよう研究意欲を高め、学術研究の将来を担う優れた人材の育成に資することを目的としています。

各分野における優れた研究論文・業績をはじめ、後進の教育・指導、地域貢献、育児・家族と研究とのバランス、ダイバーシティ推進活動への貢献といった項目を総合的に評価したうえで、本年度は14名の女性研究者の受賞が決定しました。

	氏名	所属
大賞	涌水　理恵	医学医療系
特別奨励賞	木下　奈都子	生命環境系
IBM賞	金子　暁子	システム情報系
奨励賞	安藤　　梢	体育系
TIDE Women's Award	浅野　眞希	生命環境系
	叶　　少瑜	図書館情報メディア系
	沖山　奈緒子	医学医療系
	小曽根　早知子	医学医療系
	小田　ちぐさ	医学医療系
	柴　　綾	医学医療系
	Nguyen Bich Tran	医学医療系
	野中　由紀	体育系
	本城　咲季子	国際統合睡眠医科学研究機構
	尹　　之恩	体育系

■授賞式

9月22日（土）TIDEシンポジウム会場において、表彰式が行われました。当日は代表して大賞・特別奨励賞・IBM賞を受賞された3名が永田学長より表彰状、トロフィーを授与されました。

大賞を受賞した湧水 理恵氏（医学医療系）による表彰者代表挨拶では、「ダイバーシティ推進に伴う支援のおかげで、研究活動における自身の目標を達成できている。今後も研究に邁進するとともに、教育活動やダイバーシティの推進活動にも注力していきたい」と力強いお言葉をいただきました。受賞されました皆様の今後の更なるご活躍に期待します。

【大賞】
涌水　理恵（医学医療系）

【特別奨励賞】
木下　奈都子（生命環境系）

【IBM賞】
金子　暁子（システム情報系）

TIDE Women's Award in University of Tsukuba

若手女性研究者の優れた研究成果を讃える
優秀女性研究者賞

本顕彰は、研究成果のみならず、教育や地域貢献、学内外のダイバーシティ推進に尽力している筑波大学所属の若手女性研究者を顕彰することにより、該当若手女性研究者自身およびこれに続く多くの若手研究者の励みとし、研究意欲を高め、学術研究、技術開発の将来を担う優れた人材の育成に資することを目的としています。

対象者：筑波大学所属の若手女性研究者
（准教授、講師、助教、研究員）

顕　彰：大賞（１名）　正賞：賞状　副賞：賞金２０万円
IBM賞、特別奨励賞（各１名）
正賞：賞状　副賞：賞金１０万円

申請方法：申請書・推薦書・論文等　を提出
応募締切：平成３０年８月24日（金）
詳　　細：https://diversity.tsukuba.ac.jp/?page_id=16957

応募要領、お問い合わせ
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
ダイバーシティ担当
大園　裕香　/ 松島　尚子
TEL：029-853-5948 / 6418
E-Mail：diversity@un.tsukuba.ac.jp
URL：https://diversity.tsukuba.ac.jp/

④外部評価委員会

第１回会議実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	平成30年度外部評価委員会
実施日	2019年３月14日（木）10:00～10:50
場所	筑波大学　スチューデントプラザ　２階
出席者	【アサヒビール】山岸裕美　【森林研究・整備機構】柳田真一郎 【産業技術総合研究所】井出ゆかり　【日本IBM】梅田恵 【筑波大学】山口香、河野禎之、秋葉重実、大園裕香、松島尚子
議事	・ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の取組の報告と評価
1.報告事項	・代表実施機関及び共同実施機関における平成30年度の取組状況 ・代表実施機関及び共同実施機関における今後の予定
2.審議事項	・各種取組に関する課題点、評価点の確認 課題点　・女性が少ない世代をどのように補っていくのか。 ・女性管理職の数値目標を達成するには、時間が必要であり、短期間で結果を出すのは難しい。 評価点　・異なる３機関で、世代を超えた環境で影響を与え合っている所が良い。 ・一般に「制度を作るのは容易だが意識を変えていくのは困難である」と言われる中で、具体的な施策が未来に繋がる良いプログラムではないか。 ・管理職は、突然任せられるものではないため、育てるプロセスが必要である。この点の取組は大変評価できる。
3.決定事項	・平成30年度の取組に関する課題点について外部評価委員から指摘があり、今後の取組に随時反映させていくことが確認された。 ・平成30年度の取組について、外部評価委員より高い評価を受けるとともに、引き続き３機関による産学官の視点を生かした取組を継続・発展させることが確認された。
4.今後の進め方	・今年度で補助金が終了し、平成31年度からは自走するため、各機関の得意分野を活かしつつ、少ない資金で工夫を凝らして活動を進めて行く。引き続き３機関で情報共有を図りながら、１つの取組で複数の目的が達成できるよう効率的に取組を進めていく。

2. つくば女性研究者支援協議会

①「つくば女性研究者支援協議会」会議

第１回会議実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	第１回つくば女性研究者支援協議会
実施日	2018年６月４日（月）15:00～16:30
場所	筑波学院大学　１階　第６会議室
出席者	【農研機構】兼松聡子　【森林研究・整備機構】高山範理 【つくば市】久保田博之、前田由紀子　【小野薬品】田島依子 【筑波学院大学】古家晴美　【筑波技術大学】山末真一　【茨城県】田中恵美子 【茨城県立医療大学】桜井直美、永野愛、中山順子 【物質・材料研究機構】岩澤明美、今西裕子　【産業総合技術研究所】井出ゆかり 【筑波大学】五十嵐浩也、秋葉重実、山口香、河野禎之、秋保さやか、大園裕香、松島尚子
議事	（１）議事次第確認 （２）「平成30年度女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の説明と協力のお願い （３）各機関からの審議事項 （４）オープンセッション「多様な人材の評価」の紹介 （５）その他
1.報告事項	（１）TIDEシンポジウムの開催について報告があった （２）平成29年度事業実施報告があった （３）今年度の連携プログラムについて説明があった （４）各参加機関のこれまでの取り組み報告と周知があった（特記事項参照） （５）その他
2.審議事項	（１）議事次第確認をした （２）「平成30年度女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の説明と協力のお願いがあった （３）各機関からの審議事項　特になし （４）その他
3.決定事項	例年「リケジョサイエンス合宿」と「リケジョサイエンスカフェ」を別々に行なってきたが、今年度は茨城県と合同で、夏休みに合宿およびシンポジウムを行うことで同意された
4.今後の進め方	各機関と連携をはかる

特記事項	オープンセッション「多様な人材評価」 15:35～16:30 1. 筑波大学より企画の趣旨説明があった 2. 各機関の取り組み紹介 ①筑波大学より、資料をもとに、現在行っている取り組み、目標達成に向けた新しい取り組みについて紹介があった。 ②茨城県より、資料をもとに、女性職員活躍推進プランの紹介があった。管理職については女性がまだ少ないが、９種類のフレックスタイムを導入するなど、急速に改革が進んでいる事の紹介があった。 ③NIMSより、資料をもとに、女性活躍推進法に基づく計画について説明があった。特に管理職に女性が少ない問題に対する取り組みとして、客観評価、上長評価の２本立て他に、特別評価を設けているなど、独自の取り組みについて紹介があった。女性研究者採用０％を機に、女性のみ採用枠を設けた（2014年）以降、女性採用も徐々に増えている。 ④森林総研より、資料に基づき具体的な取り組みについて紹介があった。６か月以上の休暇を取った場合の業務評価や、退職金、定期表彰について、紹介があった。 ⑤産総研より、全体が理工系に偏っているため、女性の研究者が少ない。採用比率の向上（18%）を目指しているが、（大学、大学院で女性が14%）難しい。在職比率は伸びている。産総研の職員比率は、3000全職員中、2300人が研究者。 引き続き女性管理職が少ないことが問題。人事・評価制度については、産休・育休がマイナスにならない評価を行っている。年度目標に対して、step １自己評価 ⇒step ２　２人から評価 ⑥筑波学院大学より、昇任人事の審査のやりかたについて説明があった。自己申告のポイント制を導入した。論文・著書・学会発表・教育・学外での学生活動を指導・学内業務のポイント制度・学会の役員・地域協力等がポイントになる。ポイントの正当性について客観視する委員会もある。管理職については外部から呼ぶ場合もある。 ⑦日本IBMより、資料をもとに個人業績の評価と処遇の連動等について、山口先生より紹介があった。 質疑応答 ・着手要件について 茨城県立医療大学：任期満了時、ポストが空かないと学外で研究職を探すことになる。教育業績、地域貢献業績も評価の対象になる。公募で行う場合と、所属内部で優先する場合もある。 筑波大学：各系に任されている（系長の裁量）。研究業績、教育業績、その他の業績（対外的な物など）をどう評価するかも系長に任されている。 ・産休、育休が手当てにどう影響するのか。 同期で差が出る（筑波大学）周知の必要がある。 ・柳沢先生より 女性枠での採用された方の業績は？ ⇒女性歓迎のメッセージを出すことで、女性が活性師、人数も、受賞も増えている。

第２回会議実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	第２回つくば女性研究者支援協議会
実施日	2018年10月15日（月）15:00～16:30
場所	つくば市庁舎　202会議室
出席者	【茨城県立医療大学】永野愛、伊藤文香　【小野薬品】岸川勝哉 【エーザイ株式会社】戒能真人　【株式会社生体分子計測研究所】高野光彦 【アサヒビール株式会社】山岸裕美　【つくば市】五十嵐立青、久保田博之、 前田由紀子、横田裕子、木村真理、岡野渡　【茨城県】田中恵美子 【森林研究・整備機構】高山範理　【物質・材料研究機構】竹内孝夫、岩澤明美 【産業総合技術研究所】佐藤縁、井出ゆかり　【農研機構】兼松聡子 【筑波大学】五十嵐浩也、秋葉重実、山口香、河野禎之、秋保さやか、松島尚子
議事	（１）議事次第確認 （２）つくば女性研究者支援協議会の今後の展望について （３）DSOとの連携協定について （４）各機関からの上半期実施報告 （５）オープンセッション「各機関における、働き方改革」の紹介 （６）その他
1.報告事項	（１）DSOとの連携協定について報告があった （２）各機関からの上半期実施報告があった （３）オープンセッション「各機関における、働き方改革」の紹介が行われた （４）その他
2.審議事項	（１）議事次第を確認した （２）つくば女性研究者支援協議会の今後の展望について意見交換が行われた
3.決定事項	特になし
4.今後の進め方	引き続き各機関で連携を図りながら女性研究者支援を進めて行く 次回の会議は２月または３月頃を予定している

特記事項	1. つくば女性研究者支援協議会の今後の展開について まず、一つの機関では中々果たせないことを、協力しながら連携を図りたいという趣旨で始まったが、行政とも協力することで、研究者のニーズに答えられるのではないかという意見があった。行政サイドは、つくば市よりも進んでいる行政のやり方から学ぶことに注力し、どのようにニーズに答えられるか追求していくことが必要であるという認識が提示された。また、民間サイドからは海外の進んだ取り組みとも比較して、何ができるのか。一企業、一大学だけではできないことを行政と協力して進めていきたいという要望があった。 また、どうやって支援を集めるのかも、具体的にこの協議会で進めて行ってはどうだろうか、という意見があった。 つくば市に関して、研究者の多さは特出しているので、その特徴を活かした恩恵を受けており、その部分をサポートできるようにすると良いのではないかという提案が挙がった。 また、リケジョの卵と一緒に活動するイベントがあるのがとても良いところだという評価を得た。 今後は情報共有だけでは足りなくなってきているため、職場だけではなく、住環境にも注目していくことで、（茨城県では）つくば市が待機児童の数が一番多いという現状にも対応していくとよいのでは、という意見があった。 2. 各機関の取り組み紹介 ①森林総合研究所より、男性の育児休暇取得10％を目指して、40名に聞き取り調査を行った際の結果について説明があった。育児休暇を取らない理由として、家庭における収入源としての役割を担っていること、査定や昇進に関する不安、退職金への影響への懸念が挙がった。そのため、育休男子プロジェクトで、金額や手順に関する情報提供を行うほか、育休を取得した人からの体験コラムを共有し、育休取得率アップに努めている。 ②つくば市ワークライフバランス推進室より、職員への意識改革・業務改善・環境整備に関して説明があった。ノー残業デーは、１年経ち90％を超える達成率となるなど、定着してきた。今後は男性育休２週間以上100％を目指すべく、対象者と１人１人所属長と一緒に制度説明を行っている。 ③茨城県では電子決済化が進んでおり、100％を目指して現在移行中である。

第３回会議実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	第３回つくば女性研究者支援協議会
実施日	2019年３月14日（木）11:00～12:20
場所	筑波大学　スチューデントプラザ　２階
出席者	【茨城県立医療大学】永野愛、桜井直美　【小野薬品】岸川勝哉 【茨城県】田中恵美子　【アサヒビール株式会社】山岸裕美 【つくば市】久保田博之　【森林研究・整備機構】高山範理 【筑波大学】山口香、河野禎之、秋葉重実、大園裕香、松島尚子
議事	（１）議事要旨確認 （２）平成31年度女子中高生理系進路支援プログラムについて （３）全国ダイバーシティネットワーク組織（文科省）について （４）つくば女性研究者支援協議会の今後の展望について
1.報告事項	リケジョニュースレターを配布
2.審議事項	（１）第２回つくば女性研究者支援協議会議事要旨確認 （２）平成31年度女子中高生理系進路支援プログラムについて協力して進めることが確認された。 （３）全国ダイバーシティネットワーク組織について簡単な報告があった。 （４）つくば女性研究者支援協議会の今後の展望についてワークを行った。
3.決定事項	平成31年度女子中高生理系進路支援プログラムについて、開催日程の提案があった。内容については今後各機関の協力を得ながら検討を進めて行くことで同意された。
4.今後の進め方	来年度初めに、協議会の目的を明確にした上で、引き続き、各機関と連携を図って進めて行く。
特記事項	今年度の協議会の活動を振り返り、協議会に対するメンバーそれぞれの考えを全員で共有して来年度につなげる為に、ワークを行い、以下のような考えを共有した。 良い点　・多様な機関や立場から成るネットワーク自体に価値がある ・他機関との情報交換が勉強になる ・イベント等を共同で開催することで、刺激し合って共に向上している ・組織のトップが参加することで機関の中での意識が共有できる 課題　・目的が明確でない ・具体化の為の時間が足りない ・対象者が狭い ・企業に対するメリットが少ないのではと心配になる ・協議会だからこそできることがあったはず これらを受けて来年度取り組みたい事として協議した結果、まず協議会の目的を明確にしたうえで、その目的を達成する為に共同でイベント等を開催していく。という方向で合意され、意識の共有がされた。

②「つくば女性研究者支援ネットワーク憲章」の制定

つくば女性研究者支援ネットワーク憲章

2015年11月10日

つくば女性研究者支援協議会（以下「本協議会」という。）は、筑波研究学園都市及びその近隣等にある国及び独立行政法人の研究機関、大学、大学共同利用機関法人、地方自治体、公益法人、民間の研究機関や企業等又はそれらの内部組織（以下「機関等」という。）の女性研究者が、出産・子育て等のライフイベントと研究の両立を図りながら、その能力を最大限発揮できるよう、女性研究者のワーク・ライフ・バランス支援環境のさらなる向上にむけた普及啓発・推進活動の連携を図ることを目的としている。

この憲章は、男女共同参画社会基本法（平成11年法律第78号）に基づく男女共同参画及びダイバーシティ推進の精神に基づき、本協議会が女性研究者の支援に関するネットワーク（つくば女性研究者支援ネットワーク）を構築し、関係する全ての女性研究者支援の向上・充実を図るための基本的な理念を共有するためのものである。

1. 女性研究者が性別を理由に教育・研究及び就業上の制限を受けることがないよう、これらの機会の確保に向けた支援のための連携を図る。

2. 女性研究者が教育・研究及び就業と家庭生活を両立できるよう、積極的な支援のための連携を図る。

3. 女性研究者及び女性研究リーダー増加のための施策や、女性研究者のスキルアップのための施策の推進に向けた連携を図る。

4. 女性研究者支援を通じ、性別、国籍、年齢および障がいの有無にかかわらず、人間の可能性と多様性を尊重したダイバーシティ推進に向けた連携を図る。

③「つくば女性研究者支援協議会」会員

つくば女性研究者支援協議会

所属機関名	氏名
筑波技術大学	安達　理佳
筑波技術大学	山末　進一
筑波学院大学	古家　晴美
茨城県立医療大学	永野　　愛
茨城県立医療大学	桜井　直美
茨城県立医療大学	中山　順子
小野薬品工業株式会社	岸川　勝哉
小野薬品工業株式会社	田島　依子
エーザイ株式会社	戒能　真人
大鵬薬品工業株式会社	桐井　利夫
大鵬薬品工業株式会社	石田　史明
大鵬薬品工業株式会社	清水　晶子
アステラス製薬株式会社	鈴木　恵子
株式会社生体分子計測研究所	岡田　孝夫
株式会社生体分子計測研究所	杉山　幸宏
株式会社生体分子計測研究所	高野　光彦
日本IBM株式会社	梅田　　恵
アサヒビール株式会社	山岸　裕美
インテル株式会社	白川　　篤
つくば市役所	久保田　博之
つくば市役所	前田　由紀子
茨城県庁	廣瀬　史明
茨城県庁	田中　恵美子
筑波大学	稲垣　敏之
筑波大学	五十嵐　浩也
筑波大学	山口　　香
筑波大学	河野　禎之
筑波大学	秋保　さやか

【アドバイザー】

所属機関名	氏名
森林研究・整備機構	高山　範理
物質・材料研究機構	竹内　孝夫
物質・材料研究機構	今西　祐子
物質・材料研究機構	岩澤　明美
産業技術総合研究所	佐藤　　縁
産業技術総合研究所	井出　ゆかり
産業技術総合研究所	中村　真紀
農業・食品産業技術総合研究機構	兼松　聡子

（敬称略）

④「つくば女性研究者支援協議会」パンフレット

つくば女性研究者支援協議会をご活用ください。

- 女性にもっともっと活躍して欲しい
- 女性研究者やリーダーを育てたい
- 女性研究者のワーク・ライフ・バランスをさらに支援したい
- 女性研究者のモチベーションを高めるノウハウが知りたい

くるみんマーク　トモニンマーク

仕事と介護の両立支援

For Supporting Women Researchers

みなさまのご入会をお待ちしております。

入会は企業、団体、機関全体として入会いただくことも可能ですし、一部署、機関の一部（企業の中の研究所のみ等）でも可能です。

［入会のお申し込み先］

つくば女性研究者支援協議会

つくば市天王台1-1-1

筑波大学ダイバーシティ推進室内

Tel＆Fax：029-853-8504/8505

会　員

astellas　IND

RIBM ライフイベント支援企業
株式会社生体分子計測研究所

★輝け！女性研究者★
～子育てしやすい職場づくり～

Eisai エーザイ株式会社

茨城県立医療大学 IBARAKI PREFECTURAL UNIVERSITY OF HEALTH SCIENCES
保健・医療に女性パワーを！
地域の保健医療を担い活躍する人材育成

Women's Empowerment
筑波学院大学 TSUKUBA GAKUIN UNIVERSITY

筑波技術大学

IBM

小野薬品工業株式会社

DIVERSITY MANAGEMENT SELECTION 100 アサヒビール株式会社

茨城県　TSUKUBA

筑波大学 University of Tsukuba
持続的・包括的な女性研究者支援
～人間の可能性と多様性の尊重～

連携機関

DIVERSITY SUPPORT OFFICE
DSOでは、全国の研究教育機関が連携して
ダイバーシティ・男女共同参画を推進しています。

平成25年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(拠点型)」

For Supporting Women Researchers

世界で活躍する女性研究者を
つくば地域から

つくば女性研究者支援協議会

活動内容

本協議会は、上記の目的を達成するために、下記に掲げる女性研究者の研究活動を支援するための事業を行っています。

1. 参加機関の連絡提携、情報交換
2. 女性研究者のワーク・ライフ・バランス支援活動
3. 女性研究者のキャリア形成支援活動
4. 各機関及び社会に向けた男女共同参画とダイバーシティ推進啓発活動
5. その他

主な活動実績

・意識啓発シンポジウムの開催
　平成26年2月19日、10月3日筑波大学において開催
・セミナー/勉強会の開催
　女性のためのリーダー研修、外部資金獲得セミナー、アサーティブコミュニケーションセミナー等の開催
・ロールモデル集の作成
・協議会の開催と情報交換
・ワークライフバランスガイドの作成

参加機関（平成27年3月現在）

筑波大学、アステラス製薬、日本IBM、エーザイ、筑波技術大学、筑波学院大学、茨城県立医療大学、生体分子計測研究所、小野薬品工業、アサヒビール　ほか

連携機関

ダイバーシティ・サポート・オフィス（DSO）

会　則

（名称）
第１条　本会は、つくば女性研究者支援協議会（以下「本協議会」という。）と称する。

（目的）
第２条　本協議会は、筑波研究学園都市及びその近隣等にある国及び独立行政法人の研究機関、大学、大学共同利用機関法人、地方自治体、公益法人、民間の研究機関や企業等又はそれらの内部組織（以下「機関等」という。）の女性研究者が、出産・子育て等のライフイベントと研究の両立を図りながら、その能力を最大限発揮できるよう、女性研究者のワーク・ライフ・バランス支援環境のさらなる向上にむけた普及啓発・推進活動の連携を図ることを目的とする。

（用語の定義）
第３条　本会則において、「女性研究者」とは、学問分野を問わず、事物・機能・現象等について新しい知識を得るために、又は既存の知識の新しい活用の道を開くために、特定の研究テーマをもって創造的な努力及び探求を行う女性を指すものとする。

（事業）
第４条　本協議会は、第2条の目的を達成するために、次の各号に掲げる女性研究者研究活動を支援するための事業（以下「本事業」という。）を行う。
(1)　機関等の連絡提携、情報交換
(2)　女性研究者のワーク・ライフ・バランス支援活動
(3)　女性研究者のキャリア形成支援活動
(4)　機関等及び社会に向けた男女共同参画とダイバーシティ推進啓発活動
(5)　その他本協議会の目的達成に必要な事業

（構成員）
第５条　本協議会の構成員は、第2条の目的に賛同して入会手続きを行い、入会の承認を受けた機関等（以下「会員」という。）とする。

（会員の入退会）
第６条　本協議会の入退会については、次の各号のとおりとする。
(1)　本協議会に入会を希望する機関等は、所定の様式により会長宛に届出し、承認を得るものとする。
(2)　本協議会を退会する際には、理由を付した退会届を会長宛に提出し、当該退会届を受理した上で、会長がこれを承認するものとする。

（会員の権利・義務）
第７条　会員は次の各号の権利及び義務を有する。
(1)　会員は、本協議会が実施する各種活動に構成員として参加することができる。
(2)　会員は、会議への参加及び議決権を行使することができる。
(3)　会員は、それぞれ一個の議決権を有し、その議決権を行使し、本協議会の事業について説明を求めることができる。
(4)　会員は、本会則及び会議の議決を遵守する。
(5)　会員は、本協議会の目的を達成するために、本協議会の活動に積極的に参加する。
(6)　会員は、本協議会の入会時に届出た内容に変更が生じたときは、本協議会事務局へ通知しなければならない。

（会長）
第８条　本協議会の会長は、原則として筑波大学ダイバーシティ担当副学長がその任に就く。

（事務局）
第９条　本協議会の事務局は、筑波大学ダイバーシティ推進室内に置く。
2　事務局は、本協議会の運営実務を行う。

（会議）
第10条　本協議会の会議は会長が招集し、毎年定期的に開催する。
2　会議では、事業報告、事業計画、本会則の改正、本協議会の事業に関する提案・情報提供など、協議会の事業内容について審議し決定する。
3　会議における議決は、本会則に別段の定めのある場合のほか、会議に出席した会員の議決権の過半数で議決する。

（その他）
第11条　本会則に定めるもののほか、協議会の運営及び運営経費について必要な事項は別に定める。

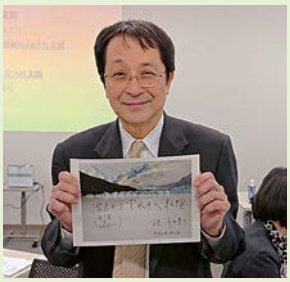
附則
本会則は、平成26年12月12日から施行する。

3. 意識啓発事業

①大学執行部と共に女性研究者の研究環境について考える会

実施報告書

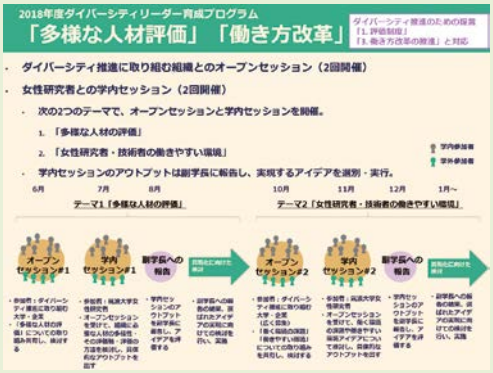
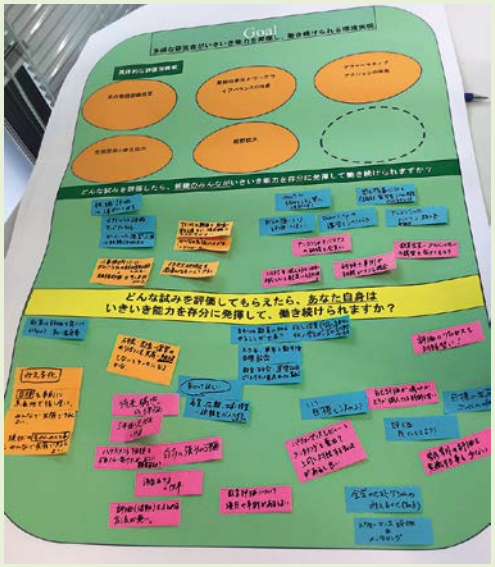
プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	大学執行部と共に女性研究者の研究環境について考える会
実施日	2019年１月21日（月）
場所	筑波大学　本部アネックス棟１F　会議室
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・(その他（討論会）)
	展示物：(有)（機器・設備　(パネル)　ビデオ上映　体験型　その他（　　））　無
来場者	人数：49名（内訳　執行部12名・女性研究者およびライフイベント中の男性研究者15名・系長10名・事務局12名）
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　HP　(メール発信)
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター 業務推進マネージャー　山口　香
内容	筑波大学にて、大学執行部と共に女性研究者の研究環境について考える会が開催されました。 女性研究者の研究環境向上には女性・男性両方が協働することが必要であるという学長の希望の下、今年度は男性研究者や系長を招いての開催となりました。 様々な立場・役職の先生方が混ざりながらテーブルを囲んだグループワークでは「①本学の支援制度」「②多様な働き方」という２つのテーマを設定し、個人・系・大学全体の課題について議論を行いました。６つのテーブルにおいて共通し確認できた意見や提案として、「制度の周知徹底」「若手/女性/ライフイベント中の研究者とそれをサポートする補助者のマッチング制度づくり」「他大学等における先進事例を本学に導入するうえでの勉強（検討）会の開催」などが挙がりました。 最後に執行部（学長・副学長・学系長）には「チャレンジ宣言」をしていただき、それぞれの立場からダイバーシティ推進・男女共同参画を行っていくことを確認しました。 ※「チャレンジ宣言」の詳細については、 DACセンターのHPをご覧ください。 https://diversity.tsukuba.ac.jp/?p=18753



②ダイバーシティリーダー育成講座

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	ダイバーシティリーダー育成講座Ⅰ 「多様な人材の評価」
実施日	2018年７月23日（月）13:45～15:00
場所	筑波大学　3B棟213（プレゼンテーションルーム）
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・(ワークショップ)・その他（　　）
	展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））　無
対象者	一般　(研究者)　学生　(その他（職員）)
来場者	人数：20名（内訳　教員５名　職員15名）
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　(HP)　(メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター 業務推進マネージャー　山口　香
内容	【概要】 学内の教職員に参加していただき、ダイバーシティに配慮した評価づくりに関するセッションを実施しました。教員自らが自身の活動を客観的に分析し、活動の改善・質の向上を図ること目的としており、これは教員の活動に対する正当かつ積極的な評価による処遇への反映やインセンティブの付与に資すると考えられます。また、評価結果の分析を通し大学全体や各組織における施策へ反映させることが期待されます。 【当日の内容】 まず、企画の趣旨説明を行った後、昨年度のダイバーシティリーダー育成講座にて積み上げた内容と提言について振り返りを行いました。これに基づき、本年度は「多様な人材の評価」「女性研究者・技術者の働きやすい環境」の２つのテーマで、オープンセッションと学内セッションをそれぞれ２回ずつ行う旨を参加者に理解いただきました。 参加者によるセッションでは、多様な研究者がいきいきと能力を発揮し、働き続けられる研究環境の実現のため、「どんな試みを評価したら、いきいきと能力を存分に発揮して働き続けられますか？」という問いに対し、まずは「あなた自身」という主語に基づいて考え、その後「組織のみんな」というスケールに広げて議論を行いました。 まず、「あなた自身」というスケールでは、各研究者が持つ仕事を研究・教育・運営の３要素から割合を示し、教員同士で比較・共有するなど、業務の「見える化」を所望する声が多く挙がりました。業務の可視化が具体的な将来構想や目標設定につながり、これらに基づいた評価のほうがプロセスもわかりやすく、上司との対話も充実したものになると考えているようでした。

	これに対し、「組織のみんな」というスケールでは、イクボス研修会やアンコンシャスバイアス講習といった機会の必須化によるダイバーシティ理解の底上げが大前提である、という意見が多く挙がりました。また現段階において、すでにダイバーシティ推進に対応している教員の活動や業務は大きく評価されるべきである、という理解も一致していました。  2018年度ダイバーシティリーダー育成プログラム 「多様な人材評価」「働き方改革」 ダイバーシティ推進のための提言 「1. 評価制度」 「3. 働き方改革の推進」と対応 ・ダイバーシティ推進に取り組む組織とのオープンセッション（2回開催） ・女性研究者との学内セッション（2回開催） ・次の2つのテーマで、オープンセッションと学内セッションを開催。 1.「多様な人材の評価」 2.「女性研究者・技術者の働きやすい環境」 ・学内セッションのアウトプットは副学長に報告し、実現するアイデアを選別・実行。 6月 7月 8月 10月 11月 12月 1月～ テーマ1「多様な人材の評価」 テーマ2「女性研究者・技術者の働きやすい環境」 オープンセッション#1 学内セッション#1 副学長への報告 オープンセッション#2 学内セッション#2 副学長への報告  Goal どんな試みを評価してもらえたら、あなた自身は いきいき能力を存分に発揮して、働き続けられますか？
効果、問題点	・日々の業務のどれもが該当し、重要な立ち位置を占める「人材評価」の観点から、良質な研究環境づくりに向けた具体的な課題の発見・解決プロセスを議論することで、教員自らが自身の活動を客観的に分析することができました。 ・ダイバーシティ推進が単なる「理想」ではなく、良質な研究環境の達成において必要不可欠な要素であり、戦略であることを明らかにすることができました。
反省事項	特になし
特記事項	・本講座の前に行われたオープンセッションでは、学外のダイバーシティ推進従事者が同じテーマで議論を行っています。オープンセッションでの内容と本講座での内容を比較検討し、大学ならではの課題や改善案を抽出することが今後期待されます。 ・上記の内容を本講座の参加者はじめ広く学内に還元し、多様な人材評価に関して啓発を行っていくことが必要とされます。 ・今回は初めて東京キャンパスの教員にもオンラインでワークショップに参加してもらい、スムーズにディスカッションを行うことに成功しました。今後もこの形式を推奨して行きたいと考えています。

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	ダイバーシティリーダー育成講座Ⅱ 「多様な働き方」（兼女性研究者の研究環境について考える会）
実施日	2019年１月21日（月）9:30～12:00
場所	筑波大学　本部アネックス棟　１Ｆ会議室
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・(その他（討論会）)
	展示物：(有)（機器・設備　(パネル)　ビデオ上映　体験型　その他（　　））　無
対象者	一般　(研究者)　学生（大学院生）　その他（　　）
来場者	人数：49名 （内訳　執行部12名・女性研究者およびライフイベント中の男性研究者15名・ 系長10名・事務局12名）
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　HP　(メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター 業務推進マネージャー　山口　香
内容	【概要】 学内の教職員に参加していただき、ダイバーシティに配慮した多様な働き方に関するセッションを実施しました。研究者自らが自身の活動を客観的に分析し、研究活動の改善・質の向上を図ること目的としており、どういったサポートがあれば、ライフイベントの最中にあっても、研究を中断することなく活動が続けられるのかについて、当事者や執行部など、それぞれの立場から意見を抽出することで、より具体的な施策として実現する事が期待されます。 【当日の内容】 女性研究者の研究活動のさらなる推進をめざし、昨年度から続けてきた「ダイバーシティリーダー育成講座」から抽出された課題の一つに、「女性研究者の働きやすい環境作り」が挙げられました。今回はライフイベント中の男女研究者に加え、学長、副学長、執行役員、系長にもご参加いただき、具体的にどんなことに取り組んでいけばよいのか、ワークライフバランス、キャリア等に関する現状と課題について、グループワーク形式での議論・意見交換を行いました。それぞれの立場や各系の特徴や抱えている問題を互いに理解することによって、共に取り組んでいける新たな仕組みについて議論が行われていました。

	６つのグループからは、「会議開催時間の工夫」「若手/女性/ライフイベント中の研究者とそれをサポートする補助者のマッチング制度づくり」「オンライン会議システム導入」などの具体的な施策案があがり、今後の活動の指針を得ることができました。 最後に執行部と各系長には、チャレンジ宣言を行っていただき、それぞれの立場からダイバーシティ推進・男女共同参画を行っていくことを確認しました。
効果、問題点	・執行部・女性研究者・ライフイベント中の男性研究者・系長と多様な役職や立場の先生方が混ざりながらテーブルを囲んだことにより、これまで実施した懇談会のなかで最も活発な意見交換が行われました。 ・会の終盤に執行部による「チャレンジ宣言」を行っていただいたことにより、本会で議論された内容をそれぞれの所属部署に持ち帰り、実践して行くことが期待されます。
反省事項	・各支援制度の具体的な改善案などが得られた一方で、牽引型による資金提供が終了した来年度以降の方向性や運営方法について、資金確保について執行部と協議するまでには至りませんでした。 ・チャレンジ宣言のアフターフォローについては、今後検討していきます。

＜ダイバーシティリーダー育成講座の取り組みと成果＞

ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターでは、昨年度より女性研究者の上位層育成を目的としたプログラムである「ダイバーシティリーダー育成講座」を実施して参りました。筑波大学と産総研そして日本IBMの女性研究者・技術者が4回のワークショップへの参加を通し、どのように働きたいのか、リーダーとして挑戦していくための課題はどういったことかといった点について議論を重ね、最終回では大学執行部への提言を行いました。提言の内容は、次の3つになります。「評価制度」、「人的交流の促進」そして、「働き方改革の推進」です。

今年度は、それらの提言を具体的な施策に落としていくための試みとして、民間企業や他大学、他研究所における様々な試みを共有していただく「オープンセッション」、そしてそれをもとに学内でどういった施策や制度づくりを行っていけばよいかを議論する「学内セッション」を「評価制度」と「働き方改革」のそれぞれのテーマごとに実施しました。

「評価制度」のセッションでは、大学という組織において、誰からどのように評価されるのか、といった点が不明瞭であることや、それぞれの教職員が抱えている研究、授業、教育、学外の社会貢献活動等の全体像を把握して評価して欲しい、といった要望があがりました。

つづく「働き方改革」のセッションでは、可能な範囲でオンラインでの会議開催を広めていく必要性に関する意見や、他大学等における先進事例を本学に導入するうえでの勉強（検討）会の開催を実施する提案があがりました。

同じ大学組織でも、各系によって研究の進め方、評価、働き方が大きく異なってくるため、今後は、各系において今回のような議論が継続的に実施されることが望まれます。同時に、各系に共通し全学的に取り組むべき課題については、横の連携をいかしながら、執行部とも協働し全学的な施策、制度づくりの実現へとつなげていくことが重要になってくると考えます。そこで今年度は各系で議論や検討が進め易いような新しい仕組みを提案し、次年度から開始することが承認されました。今後は学内の横のつながりにも注力していく予定でおります。

③ダイバーシティセミナー

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	伝わるプレゼンデザインセミナー
実施日	2018年７月17日（火）15:15～16:30
場所	筑波大学　総合研究棟Ａ　110公開講義室
形式	一般公開・シンポジウム・(セミナー)・講演会・ワークショップ・その他（　　） 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））　無
対象者	一般　(研究者)　(学生)　(その他（職員）)
来場者	人数：110名（内訳　学生16名　教員44名　職員44名　その他６名）
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　(HP)　(メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター 業務推進マネージャー　山口　香 URA研究戦略推進室
内容	Adobe Creative Cloudは、筑波大学との契約により、教職員が自由に使用できる状況であるにもかかわらず、実際には難易度が高く、あまり活用されていないという状況がありました。説得力のあるプレゼン資料の作成は、外部資金獲得にもつながるという効果を期待し、教職員・学生を対象に本セミナーを企画しました。当日は定員を上回る110名の参加があり、学内の興味、関心が高いことが伺えました。 講師は、アドビシステムズから名久井舞子さんをお招きし、スライドやポスターなどを例に、「あたま一つ抜け出した圧倒的な印象を残すデザイン」、「わかりやすく伝えるためのコツ」などを講義いただきました。色使いや配置、フォントや写真の加工、人物を浮かび上がらせる方法など、同じ内容でも見せ方一つで大きく印象が違ってくることを、具体例を示しながら、わかり易く解説していただきました。 アンケートからは、98%の参加者が大変良かった、良かったという高評価を示し、97%の参加者が、デザインスキルの必要性を強く感じた、と答えています。
効果、問題点	当日参加も可能としていたため、補助席を出しての対応となりました。
反省事項	特になし
特記事項	・定員を上回る参加者となり、会場設定を今後どのように決定するか、検討する必要がありそうです。 ・更に、もう少し実践的な利用方法を学びたいという声もあり、グレードアップしたセミナーの開催も検討していきたいと思います。

伝わるプレゼンデザイン

教職員＆学生向けセミナー

わかりやすく説得力があるデザインのヒントとコツ

アタマひとつ抜け出すプレゼンをするには？
圧倒的な印象を残すには？
実は、自分の考えやメッセージを聴衆にわかりやすく伝えるためには、
デザインの「コツ」があるのです！

このセミナーでは、プレゼンスライドやポスターなどを例に、
「情報デザインのコツ」をお伝えします。
世界中で使われているクリエイティブツール
Adobe Creative Cloudの実践的な使い方を学ぶ絶好の機会です。
ぜひご参加ください。

開催日時：2018年 7月17日（火）15:15〜16:30　　**開催場所：総合研究棟A 110公開講義室**

セミナー内容

- **心を動かすデザインの力：**デザインの基本と教員・学生の実践例
- **実践！伝わるテクニック：**具体的な例
- **クリエイティブツールの活用：**色使い、配置、フォント、写真の加工など

セミナー講師

アドビ システムズ 株式会社
インストラクター
名久井 舞子

※参加費無料・下記からお申込みください。申込なしでの当日参加も可能ですが、事前登録にご協力お願いいたします。

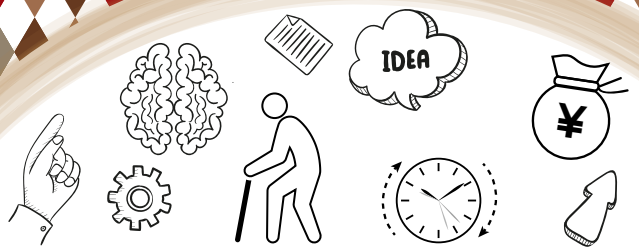
http://bit.ly/TsukubaUniv-D

主 催｜筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター、URA研究戦略推進室
協 賛｜アドビ システムズ 株式会社

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	ダイバーシティセミナーⅡ 「親の介護という「プロジェクト」に向けて」
実施日	2018年10月15日（月）13:30～15:30
場所	筑波大学　総合研究棟　３Ｂ棟213（プレゼンテーションルーム）
形式	一般公開・シンポジウム・(セミナー)・講演会・ワークショップ・その他（　　） 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））(無)
対象者	(一般) (研究者) (学生) その他（　　）
来場者	人数：30名（内訳　研究者・学生・教職員）
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース (HP) (メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター 業務推進マネージャー　山口　香
内容	筑波大学３Ｂ棟213において、セミナー「親の介護という「プロジェクト」に向けて」を開催しました。 男性の対人関係にフォーカスした社会学・ジェンダー論を専門とする平山 亮 氏（東京健康長寿医療センター）を講師としてお招きし、親の介護を取り巻く現状について、統計を用いて理解するところから、男性が親を介護するときに起こりやすいトラブルの詳細な傾向まで、幅広い事例を紹介しながら講演をいただきました。 「既婚の息子介護は夫婦関係の総決算」という合言葉のもと、普段埋もれてしまいがちな介護におけるジェンダー非対称に参加者一同が何度も気づかされ、驚きと発見が絶えない講演となりました。 学内外から集った30名の参加者からは、「これまでの親の介護の概念が違っていたと思った」「はっとさせられる内容が多くたくさんの気づきがあった」「身近な親子、夫婦の日常に当てはめながら、色々な謎が解けるような気がした」といった声が寄せられ、介護という「プロジェクト」におけるダイバーシティ推進の課題と可能性を併せて実感することができました。

平成28年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター主催
ダイバーシティセミナーⅡ



親の介護という「プロジェクト」に向けて

～ジェンダーと人間関係の視点で考える～

親の介護に備えると聞くと、制度やサービスの情報集めを思い浮かべる人も多いでしょう。しかし、「いま親が倒れたら、夫婦で、きょうだいで、どう対処していけるだろう？」と想像してみることも、準備の1つです。この講演が目指すのは、そういう想像＝準備のきっかけづくりです。講演では、男性が親の介護に直面する場合を中心に、男性のあなたがやってしまいがちなこと、女性のあなたが夫や兄弟との間で経験しそうなことを、さまざまな研究をもとにお話しします。
親の介護の前に、我が家には何が必要か―男と女、人間関係の「あるある」から考えてみませんか。

講師プロフィール:
1979年、神奈川県生まれ。2011年、オレゴン州立大学大学院博士課程修了(Ph. D.)。2016年より、東京都健康長寿医療センター研究所、福祉と生活ケア研究チーム研究員。専門は社会学、ジェンダー論。主な著書に『迫りくる「息子介護」の時代: 28人の現場から』(光文社新書、2014年、共著)、『きょうだいリスク: 無職の弟、非婚の姉の将来は誰がみる？』(朝日新書、2016年、共著)、『介護する息子たち: 男性性の死角とケアのジェンダー分析』(勁草書房、2017年)。

日時：平成 30 年 10 月 15 日（月）13：30－15：30

会場：筑波大学　3B 棟 213（プレゼンテーションルーム）

講師：**平山　亮**　東京健康長寿医療センター研究所

参加費無料

相談　：　① 平山先生との個別相談 15:00-15:30（事前予約制 10 分 / 人 x 3 名）※応募者多数の場合は抽選
② 介護支援専門員（DAC センター野口代先生）、及びつくば市からの担当者様との個別相談 15:00-15:30

対象　：　筑波大学の教職員、研究員、大学院生、学類生、
つくば女性研究者支援協議会関係者、関連機関の方

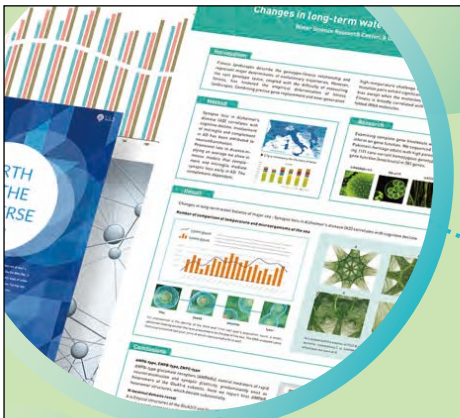
申込　：　下記 URL 又は QR コードよりお申し込みください（当日参加可能）相談は要予約
https://docs.google.com/forms/d/1KpS-FtTJqgocMwyZuLBaGCCNdbllhNi-MaM2UY9xKu8/edit

お問い合わせ / 主催

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
TEL：029-853-8504　FAX：029-853-8505　E-mail：diversity@un.tsukuba.ac.jp
URL：http://diversity.tsukuba.ac.jp　または「筑波大学　ダイバーシティ」で検索
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	ダイバーシティセミナーⅢ 「よりよく伝わるデザインのすすめ」
実施日	2019年２月18日（月）13:30～17:00
場所	筑波大学　学術情報メディアセンターA203
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・(ワークショップ)・その他（　　） 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））(無)
対象者	(職員) (研究者)　学生　その他（　　）
来場者	人数：50名（内訳　研究者・教職員）
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　(HP) (メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター 業務推進マネージャー　山口　香
内容	アドビシステムズ株式会社より名久井 舞子氏を講師としてお招きし、研究者や職員が、研究や業務のアイデアやイメージ、データを聴衆にわかりやすく提示し、印象に残るポスター作製や、プレゼンを行うためのテクニックや具体例をレクチャーしていただきました。 レクチャーでは、基本操作はもちろんのこと、利用ガイドには記載されていないような「裏ワザ」まで幅広く紹介がされました。Adobe Creative Cloudを初めて利用する参加者にとっては、これからのスライド作成等にIllustratorやPhotoshopを用いる第１歩となったほか、これまで利用の経験がある参加者にとっては、基礎事項のおさらいとより発展した操作の体得に役立ちました。 参加者からは、「使い慣れていると思っていたが、知らない機能がたくさんあった」、「今までもどかしいと感じていた作業のショートカットを教わった」といった実践に役立つことを実感された声や、「動画制作について知りたい」、「レイヤーの効果的な使い方を教わりたかった」といった更に高いスキルを求める声が寄せられました。 Adobe Creative Cloudをはじめ、PCスキルを実践的に学ぶハンズオンセミナーは毎回好評をいただいています。今後は連続型セミナーとしての開催や、詳細なターゲット設定やレベル分けを行った少人数セミナーでの開催も検討していく予定です。



教職員セミナー

よりよく伝わるデザインのすすめ

日時
2月18日（月）
13:30〜17:00

場所
学術情報メディアセンター
A203

見やすくわかりやすい伝わるデザインには
秘密があります。

本セミナーでは、Illustratorの基本操作と
デザインの「コツ」やテクニックを
PCを操作して覚えていただける
ハンズオンセミナーです。
Illustratorを初めて使用する方も
ご参加いただけます。

Photoshopを使用した基本的な画像加工も
ご紹介します。

■ **Illustratorの基本操作**
作図/カラーリング/文字入力

■ **Photoshopの操作**
基本的な画像加工

■ **ポスター制作実践**
イベントポスター制作によるデザイン
テクニックの習得

セミナー講師

アドビ システムズ 株式会社
インストラクター
名久井 舞子

※定員50名を予定しております。受講をご希望の方は下記からお申込みください（教職員限定）。

http://bit.ly/Tsukuba-D

主 催｜筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター、URA研究戦略推進室　協 賛｜アドビ システムズ 株式会社

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	ダイバーシティセミナーⅣ 「知識と支援の共同創造」（筑波大学 第15回全学FD研修会）
実施日	2019年２月20日（水）10:30～12:30
場所	筑波大学　大学会館　特別会議室
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・(講演会)・ワークショップ・その他（　　） 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））(無)
対象者	(一般) (研究者) (学生) その他（　　）
来場者	人数：67名（内訳　研究者・学生・教職員）
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース (HP) (メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター 業務推進マネージャー　山口　香
内容	当事者研究の第一人者である、東京大学 先端科学技術研究センター准教授および同大バリアフリー支援室長の熊谷晋一郎先生を講師としてお招きし、当事者との共同研究が拓く新たな領域や具体的な取り組み例にもとづくダイバーシティ推進への示唆についてお話しいただきました。 社会のあらゆるサービスや事業を「提供者」と「利用者」が共に作っていく協働創造。講演を通し、熊谷先生はその出発点である当事者研究において、医学モデルに基づいた「インペアメント」と社会モデルに基づいた「ディスアビリティ」という２種類の考え方が存在することをご指摘されました。そのなかで、特にディスアビリティ（環境の障害）に注目し、内側からの理解と共感を創造していくプロセスについて触れられ、「失敗する権利」の重要性について強調されました。そして、障害を理解するという一方的な矢印だけにコミュニケーションをとどめるのではなく、両者の相互理解を進めて行く必要がある、とご指摘され、本学におけるダイバーシティ推進へ重要な示唆をいただきました。 本講演を通し、誰もが何かの“当事者”である、という事実に参加者が改めて気づくことができました。共同創造における２つの立場・側面をよく理解し、積極的に関わっていく意識作りが達成され、盛会となりました。 アンケートには、新たな気づきや、深い感銘を受けた部分などについて、沢山の感想が具体的に記入されており、参加者の満足度の高さがよくわかりました。

筑波大学第15回全学FD研修会

第４回

ダイバーシティセミナー

大学の未来を考える

知識と支援の共同創造

参加費無料

近年、障害や病気の当事者がグループで経験を分かち合い、自身の困りごとを研究対象とする「当事者研究」が注目されています。
第15回全学FD／ダイバーシティセミナーⅣでは、研究の第一人者でご自身も脳性まひの当事者である、小児科医の熊谷晋一郎氏より“当事者が拓く新たな研究領域とそれによって生み出される新たな支援”についてご講演いただきます。
多様化する社会の中で、大学がいかなる組織文化を生み出していけるか、いかなる役割を担えるのか、といった大学の未来についても多くの示唆をいただけるご講演です。
一緒に、ダイバーシティと大学の未来について考えてみませんか？

日　時

2019年2月20日（水）

10:30−12:30

定　員　先着100名

対　象　筑波大学の教職員、研究員、院生、学類生、つくば女性研究者支援協議会関係者、関連機関の方

会　場　筑波大学大学会館特別会議室
（茨城県つくば市天王台1-1-1）

お問い合わせ・お申し込みは

ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ担当

URL　https://diversity.tsukuba.ac.jp/　MAIL　diversity@un.tsukuba.ac.jp

TEL：029-853-6418

講　師：熊谷晋一郎 先生

（東京大学 先端科学技術研究センター准教授
東京大学バリアフリー支援室長）

1977年山口県生まれ。新生児仮死の後遺症で、脳性まひに。以後車いすでの生活となる。東京大学医学部医学科卒業後、千葉西病院小児科、埼玉医科大学小児心臓科での勤務、東京大学大学院医学系研究科博士課程での研究生活を経て、現職。主な著作に、『リハビリの夜』（医学書院、2009年）、共著『発達障害当事者研究』（医学書院、2008年）、共著『つながりの作法』（NHK出版、2010年）、共著『痛みの哲学』（青土社、2013年）、編著『みんなの当事者研究』（金剛出版、2017年）、編著『当事者研究と専門知』（金剛出版、2018年）など。

お申込みはこちらから！

④職員向けセミナー

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	女性職員活躍セミナー 「管理職・魅力と面白さ」
実施日	第１回　2018年７月20日（金）10:30～12:10 第２回　2018年８月27日（月）13:30～15:10
場所	本部アネックス棟１階会議室１～３
形式	一般公開・シンポジウム・(セミナー)・講演会・ワークショップ・(その他（交流会）)
	展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））　無
対象者	一般　研究者　学生　(その他（事務系女性職員）)
来場者	人数：71名
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　(HP)　(メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター 業務推進マネージャー　山口　香
内容 効果	本セミナーは事務系女性職員を対象に、女性職員が管理職という職をポジティブに捉え、自身のキャリアの延長線上に位置づけられるよう、「管理職・魅力と面白さ」をテーマに開催しました。 本学女性管理職よりご講話をいただき、その後、管理職経験者との意見交換を通じ、大学運営の中核として女性が活躍することの意義と期待を共有し、女性職員が自らのキャリアデザインを考え、モチベーションを高める機会としました。 管理職経験者との意見交換会はグループに分かれ、管理職経験者を中心として活発な意見交換が行われました。アンケートでは、「管理職になることへのプレッシャーを拭うことが出来た」や「直接、管理職の方とお話をして普段の仕事の先にあるものを感じることができた」など前向きな意見をいただくことが出来ました。制度見直しのアイディアもたくさんいただき、今後に活かすことができるセミナーとなりました。

平成30年度
女性職員活躍セミナー

＜日時＞

1回目　平成30年7月20日（金）　10:30～12:10
2回目　平成30年8月27日（月）　13:30～15:10
※第1回と第2回の内容は同じです。

＜場所＞

本部アネックス棟1階会議室1～3
※テレビ会議システムの接続は第2回（8/27）のみ
（東京キャンパス文京校舎　337会議室）

＜対象者＞

事務系女性職員（年俸制職員、非常勤職員を除く）
※各回40名程度　**※事前申込制**

＜内容＞

- ﾀﾞｲﾊﾞｰｼﾃｨ・ｱｸｾｼﾋﾞﾘﾃｨ・ｷｬﾘｱｾﾝﾀｰ長挨拶
- 講話「管理職・魅力と面白さ」
  施設部　齋藤　禎美　部長
- 管理職との交流　※管理職　5～6名
  （グループに分かれて意見交換：2セッション）
- 全体共有

＜問い合わせ先＞
学生部就職課／ﾀﾞｲﾊﾞｰｼﾃｨ・ｱｸｾｼﾋﾞﾘﾃｨ・ｷｬﾘｱｾﾝﾀｰ
TEL：　029-853-5706
Email：　dac_office@un.tsukuba.ac.jp

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	事務職員向け　ランチ懇談会
実施日	第１回　2018年９月７日（金）12:25～13:05 第２回　2018年10月18日（木）12:25～13:05
場所	就職課会議室（スチューデントプラザ２階）
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・ （その他（ランチ懇談会））
	展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））　無
対象者	一般　研究者　学生　（その他（事務職員））
来場者	人数：30名
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　（HP）　（メール発信） その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター 業務推進マネージャー　山口　香
内容 効果	女性職員活躍セミナーを開催した際に「仕事と育児や介護等の両立やワークバランス」についての意見も多く、悩みの共有とネットワークの形成等を目的とし、ランチの時間を活用し、各自昼食をとりながら気軽に参加できる事務職員向けランチ懇談会を開催いたしました。 第１回はキックオフとして、参加者の自己紹介や置かれている環境等について共有し、第２回はDACセンター　アクセシビリティ担当の教員及びダイバーシティ担当の教員からそれぞれに介護と育児についての制度説明を実施し、近隣地域の制度等についても触れ、参加者同士の情報交換の場となりました。 育児中の職員からは、ベビーシッター券の活用等、本学の制度についての質問もあったことから、ベビーシッター券を活用いただいている方の声を集め、懇談会で紹介するとともにホームページへ掲載することにも繋がりました。 アンケートでは「今後は、実際に育児・介護制度を利用されている方の詳しい経験談を知りたい」や「育児経験中や経験者の方との交流をしたい。時間のやりくりなど工夫点を共有化したい」という意見があり、今後の課題として見出すことに繋がりました。

事務職員向け

ランチ持参

ランチ懇談会

申込不要！

平成29年度女性職員活躍セミナーで実施したアンケート結果から、「仕事と育児や介護等の両立などワークライフバランス」に関する意見も多かったことから、今回は、悩みの共有、年齢や役職を越えた職場内でのネットワークの形成などを目的に、事務職員向けのランチ懇談会を開催いたします。ぜひご参加ください。

◆対象者：事務職員（常勤職員・非常勤職員問わず）、男女問わず

途中入退室OK！

第１回

キックオフ！

日時：平成30年9月7日（金）12:25～13:05

場所：就職課会議室（スチューデントプラザ2階）

第２回

日時：平成30年10月18日（木）12:25～13:05

場所：就職課会議室（スチューデントプラザ2階）

※育児や介護に関する制度説明の予定です。

育児中の職員とのつながりが欲しい。

ベビーシッター券は利用できる？

部署や年齢を超えた先輩方からの経験談を聞きたい！

介護中の職員とのつながりが欲しい。

イクメン仲間募集！

制度を知りたい！

＜問い合わせ先＞
学生部就職課／ﾀﾞｲﾊﾞｰｼﾃｨ・ｱｸｾｼﾋﾞﾘﾃｨ・ｷｬﾘｱｾﾝﾀｰ
TEL：　029-853-5706
Email：　dac_office@un.tsukuba.ac.jp

⑤子育てカフェ

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	第１回子育てカフェ
実施日	2018年９月25日（火）11:45～12:45
場所	筑波大学　スチューデント・コモンズ
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・(その他（意見交換会）) 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））(無)
対象者	(一般)(研究者)　学生　その他（　　）
来場者	人数：13名（内訳　教職員・一般）
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　(HP)(メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター 業務推進マネージャー　山口　香
内容	第１回目となる「子育てカフェ」は、育児に携わっている（今後携わる予定の）教員・研究者を対象に、子育てに関する情報の共有や、育児の疑問や不安を解消できる場として開催されました。当日は13名の方々にご参加いただきました。 まず、本講座の趣旨と流れの説明を行い、その後簡単に全員の自己紹介と参加の動機を話していただいたうえで、ダイバーシティ担当から情報提供およびシッター利用と家事代行利用についての現状をお話ししました。 その後のフリートーク＆各自の悩みへのアドバイスタイムでは、まず各自相談したいことを書き出してもらい、それを共有しながらアドバイスを行うという流れで進行しました。 具体的には、「家事代行サービスやシッターの上手な活用方法」「幼稚園や保育所、学童保育の情報」「出張の時にどうするか」といった話題が挙がっており、活発な意見交換や質疑応答が行われました。 参加されたほとんどの方が「大変満足できた」「本日得た情報は大変役に立つと思う」といった感想を述べていました。

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
Tel：029-853-6418 Mail：diversity@un.tsukubai.ac.jp HP：https://diversity.tsukuba.ac.jp/wordpress2017/
平成28年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（索引型）」

第１回 —研究者のための—

子育てカフェ
Parenting cafe

育児に携わっている教員・研究者等で
子育てに関する情報の共有、育児の疑問や
不安を解消できる場として開催します！

どなたでも安心して
何でも話し合える場です
お誘いあわせの上
皆様のご参加を
お待ちしております

９月25日（火）

１１：４５～１２：４５

参加費無料
お茶菓子をご用意します。ランチ持参可能。

場所：１A棟２階
スチューデント・コモンズ
対象：育児に携わっている（今後携わる予定の）教員・研究者
興味関心のある方々、老若男女問わず大歓迎です

第２回はゲスト参加予定！育児スペース９月中旬オープン予定！
詳細が決定次第HPにてご案内いたします♪

お申込みはこちらから（当日参加も可能です）＞＞＞

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	第２回子育てカフェ
実施日	2018年12月３日（月）11:30～13:30
場所	筑波大学　総合会館　ラウンジ（大学会館内）
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・(その他（意見交換会）) 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））(無)
対象者	(一般)(研究者)　学生　その他（　　）
来場者	人数：13名（内訳　研究者）
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　(HP)(メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター 業務推進マネージャー　山口　香
内容	第２回となった子育てカフェは、講師として山口理栄氏（育休後コンサルタント、本学OG）をお招きし、「育休後の働き方を考える～当事者・同僚・上司・組織がそれぞれできること～」をテーマにご講演をいただきました。 近年は、女性が出産後に職場復帰率の増加や、男性の育児に対する意識変化などが社会全体で見られる傾向にあり、仕事と育児の両立をとりまく環境は大きく変化しています。それとともに、育休後の仕事における不安や問題点も多様化しています。ご講演では、育休や時短といった両立支援制度は「休みたい人が長く休めるための制度」ではなく「働きたい人が長く働き続けるための制度」であることを理解したうえで、会社やパートナー、保育園といった周囲の人々とのコミュニケーション方法についてお話しいただきました。 また、仕事がある１日のタイムテーブルを書き出し、夫婦間の連携に無理・ムラ・無駄がないかチェックしたり、職場復帰面談シートを使い、育休明けに明らかにしておきたいことをまとめたり、参加者が各々の生活に落とし込んで考えるという時間も設けられました。 仕事と子育ての両立のために「(出産前と同じように働けなくても）あせらない・(予期せぬことが起きても）あわてない・(将来の夢を）あきらめない」という「３つの“あ”」を参加者のみなさんで共有することができ、大変盛会となりました。

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
Tel：029-853-6418 Mail：diversity@un.tsukubai.ac.jp HP：https://diversity.tsukuba.ac.jp/wordpress2017/
平成28年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（索引型）」

—研究者のための—

第2回 子育てカフェ
Parenting cafe

育休後の働き方を考える
~当事者・同僚・上司・組織がそれぞれできること~

講師　山口 理栄 氏（育休後コンサルタント、本学OG）

両立に関する最近の動向を知り、それぞれの立場から
育休後の仕事で気を付けることを学ぶことで、一人ひとりの
キャリアや人材育成について一緒に考えてみませんか？

今回は講師の方を
お招きします。
お誘いあわせの上
ご参加ください♪

12月3日（月）

１１：３０～１３：３０

参加費無料

場所：総合交流会館ラウンジ
（筑波大学会館内）
対象：子育てと仕事の両立に関して興味関心のある教職員
子育て中の部下がいる管理職の方など
備考：出入り自由、昼食持参OK

お申込みはこちらから（当日参加も可能です）＞＞＞

4. 環境整備

①育児等との両立のための研究・業務補助者雇用経費助成制度

筑波大学では平成23年度より、出産・育児等で研究が中断しやすい女性研究者等の研究継続支援事業として、「育児等との両立のための研究補助者雇用経費助成制度」を実施している。また、平成22年度より、管理運営業務等に携わる男女格差の是正のため、「管理企画業務等の大学運営に参画する女性研究者に対する補助者派遣事業」を実施し、24年度からは、対象者に外国人等を加え、「管理運営業務を行っている女性・外国人等への業務補助者雇用経費助成制度」を実施している。

平成30年は研究補助者雇用経費助成として31名の研究者への助成を実施し、管理企画業務等の大学運営に参画する女性研究者に対する業務補助者雇用経費助成として８名の研究者への助成を実施した。本助成を受けた研究者の所属・職階級は下記の通りである。

育児等との両立のための研究補助者雇用経費助成制度

所属	職名
人文社会系	准教授
ビジネスサイエンス系	准教授
ビジネスサイエンス系	講師
システム情報系	講師
システム情報系	助教
システム情報系	助教
生命環境系 山岳科学センター菅平高原実験所	准教授
生命環境系	助教
生命環境系	助教
人間系	准教授
人間系	准教授
体育系	准教授
体育系	助教
芸術系	准教授
芸術系	助教
芸術系	研究員

所属	職名
医学医療系	准教授
医学医療系	准教授
医学医療系	講師
医学医療系	助教
医学医療系	助教
医学医療系	助教
医学医療系	助教
医学医療系	助教
医学医療系	研究員
図書館情報メディア系	助教
TARAセンター	助教
TARAセンター	助教
TARAセンター	研究員
国際統合睡眠医科学研究機構	助教
DACセンター	准教授

管理運営業務を行っている女性・外国人等への業務補助者雇用経費助成制度

所属	職名
人間系	人間系長
人間系	人間総合科学研究科心理学専攻長、(学域代表（系長補佐))
人間系	人間学群長
人間系	教授
医学医療系	看護科学専攻長
医学医療系	看護学類長/保健医療学域長
医学医療系	教授（Office for Global Health Leadership Development 設立準備中）
図書館情報メディア系	図書館情報メディア系長

②ベビーシッター割引券

筑波大学では、内閣府が実施する「ベビーシッター派遣事業」を活用し、ベビーシッター割引券を発行している。仕事と子育ての両立による負担軽減に加え、児童の健全な育成に寄与することを目的とし、サービス利用料金の一部が助成される。年度ごとの利用状況は以下のとおりである。

年度	利用申込者数	申請枚数	利用枚数（利用者数）
平成22年度	7 人	30枚	13枚（5 人）
平成23年度	3 人	15枚	6 枚（1 人）
平成24年度	6 人	50枚	32枚（4 人）
平成25年度	8 人	183枚	147枚（5 人）
平成26年度	7 人	166枚	129枚（6 人）
平成27年度	2 人	20枚	20枚（2 人）
平成28年度	12人	173枚	118枚（12人）
平成29年度	12人	356枚	270枚（12人）
平成30年度	17人	356枚	253枚（17人）

③ライフイベントからの研究復帰支援事業

ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ担当では、平成28年度より、出産・育児・介護等のライフイベントにより研究を中断していた研究者が、円滑に研究現場に復帰するための支援として、必要経費の補助事業を行っている。

平成30年度の補助事業では、前期・後期合わせて13名の研究者への助成を実施した。本助成をうけた研究者の所属・職名は下記の通りである。

ライフイベントからの研究復帰支援事業（必要経費）

所属	職名
人文社会系	助教
システム情報系	助教
システム情報系	助教
生命環境系	准教授
生命環境系	助教
生命環境系	助教
生命環境系	助教

所属	職名
生命環境系	特任助教
体育系	助教
医学医療系	講師
医学医療系	助教
医学医療系	助教
TARA センター	研究員

④ダイバーシティ推進関連企画に対する支援事業

これまではダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門で全体向けのイベント等を企画・提供してきたが、今回は新たに、教職員側が各系やセンターなどにおいて、個人やグループで、ダイバーシティ推進に関するイベントやセミナー等の活動を企画・開催する際に、必要経費の補助を行うという、視点を変えた取り組みを行った。

各系の特徴や問題点を考慮した独自のダイバーシティ推進のための企画・立案が寄せられ、以下に示すとおり計10件を採択し補助を行った。実際の利用者からは、自分達のニーズに合った企画を行えることに喜びと感謝の声が寄せられている。

所属	職名
生命環境系	系長
生命環境系	准教授
システム情報系	系長
システム情報系	系長
体育系	教授

所属	職名
DACセンター	准教授
医学医療系	助教
医学医療系　国際看護学	助教
医学医療系　国際看護学	教授
医学医療系　国際看護学	助教

⑤不妊治療動画の公開

女性研究者へのヒアリングを通して、キャリアを優先し、出産等のライフイベントを引き伸ばしする決断をされる方が多くいることがわかった。また、そのような決断をすることで、不妊に悩む方もいらっしゃることがわかってきた。

そこで、本学の大学病院産婦人科の先生に不妊症に関する講義を行って頂き、Web上で講義動画を公開し情報発信を行った。

⑥ダイバーシティ推進のための取り組み説明会

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	ダイバーシティ推進のための支援制度等の説明会
実施日	2018年４月16日（月）
場所	筑波大学　総合研究Ａ棟107
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・(その他（説明会）) 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））(無)
対象者	一般　(研究者)　学生　(その他（職員）)
来場者	人数：13名（内訳　研究者９名　教職員４名）
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　(HP)　(メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター 業務推進マネージャー　山口　香
内容	春から新たに筑波大で働き始める教職員や、育児や介護に関わる方を対象に、ダイバーシティ推進のための支援制度等の説明会を行いました。 前半部分では、実施予定企画や制度について説明がありました。実際に毎年ベビーシッター券を利用している女性研究者も参加いただき、これまで利用してきた経緯や利点等について、具体的な説明や感想を話していただきました。 後半部分では、キャリアカウンセラーによる制度利用やワークライフバランスに関する相談を受けました。 実際に支援を受けた経験のある方にもお越しいただき、リアルなお話をしていただけたことで、支援を受けることのメリットを感じていただけました。 参加者の方からは、「類似した悩みや体験をもつ方の話が聞けてよかった。」「支援制度を活用したい。」「この活動を続けてほしい。」など感想をいただきました。

⑦学内育児スペース

本学で働く教職員や本学で学ぶ学生が、子育てと研究活動、業務、学業の両立を支援するため、学内に育児スペースの開設を推進してきた。授乳・搾乳・おむつ替え・妊婦の休憩場所等、一時的な育児スペースとして利用できる場所が、オープンした。

平成29年12月ヒューマン・ケア科学専攻（総合研究棟D 7階）に、学内で初めて育児室が開設された。

子育てをしながら大学院に通う女性が多いヒューマン・ケア科学専攻では、学生たちの要望をきっかけに同専攻により設立。備品の寄付や、もうすぐパパになる男子学生がフロアマットを貼るなど、周囲の協力も得て開設された。対象はヒューマン・ケア専攻に所属する教職員と学生。

平成30年９月DACセンターが全学の教職員・学生を対象として開設。

学内で２番目の育児ルームがスチューデントプラザ近くのプレハブ小屋にオープンした。利用者の対象を全学に広げたことで、留学生からの問い合わせも多く、室内の注意書きを、日本語の他英語・中国語・韓国語を用意した。

平成31年３月人文社会系（人文社会系棟B201室）に、人文社会系の教職員・学生を対象としてオープン予定。

※利用方法は、各育児ルーム毎に相違はあるが、事前登録制として、鍵の暗証番号を伝え、各自の責任において利用する方法を採っている。清潔（衛生）、安全・安心を第一に、利用者全員が気持ちよく使えるよう呼び掛けている。

5. 相談事業

①相談室“あう”

平成22年度に開設したワーク・ライフ・バランス相談室“あう”は、平成30年度で９年目を迎えました。本相談室は、主に教職員を対象として、就業上の問題・課題に関する相談、働き方の見直し、家族や個人に関する相談等を受付ける窓口として運営しています。

改訂版リーフレット

平成30年４月１日から平成31年３月31日までの相談利用のべ件数は６件。

[利用実態]

月別の相談延べ件数、月次延べ利用者数及び新規利用者数を図１に示し、相談内容別人数及び相談者の属性を図２、図３に示しました。

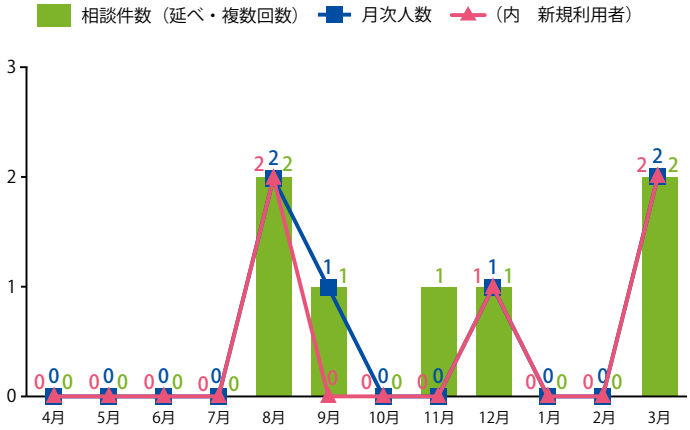


図1　相談月別推移（平成30年度）

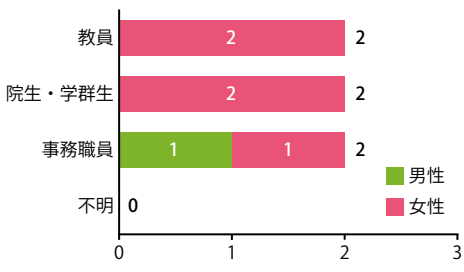


図3　相談者属性別人数

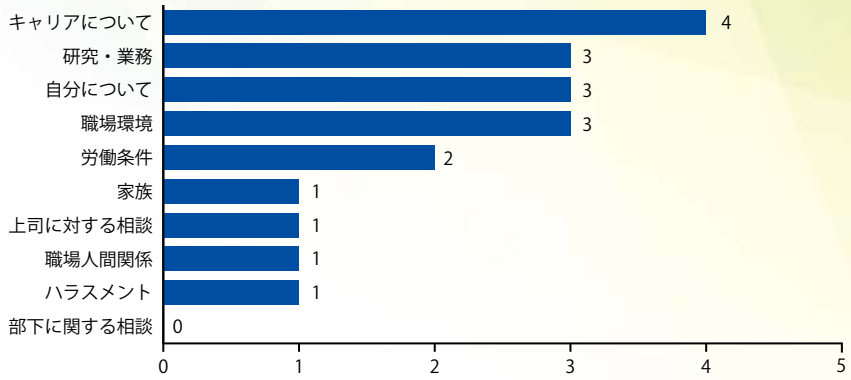


図2　相談内容別人数

［あう相談・対応の特徴］

キャリア相談とあう相談の内容を分けることは難しいものの、来談者ご自身は、ポータルサイトの“両立支援”を経由するか、ハンドブック等で連絡先を調べてアクセスされることが多いようです。

現在のポータルサイトでは、ワークライフ相談室“あう”のURLにたどり着くのはいろいろな下調べをしている対象者に限る状況であるため来談者は一定以上の情報を自ら得て、その上で来談されていると思われます。

相談の内容は子育てに関わることから始まり、その状況から家族の問題や来談者ご自身のメンタリティに関わることにも及びます。来談者ご自身が働いていることからキャリア相談の内容にシフトすることも珍しくありません。

ご家族の課題では、DACセンターが直接関わることが難しいため、来談者の話をできるだけ丁寧に聴くことになりますがご本人が解決を望むほど、外部の情報などにアクセスしていただくことをお勧めすることにならざるを得ません。

来談者が教員の場合は、夏休みなどの期間を利用されることもあり、平日の勤務時間中の相談の難しさを訴える方もいらっしゃいました。

また、昼休みなどを利用して業務に影響がないよう来談される方や、来談自体に慎重になる方も見られました。

プライバシーに配慮していることは口頭でお伝えしているものの、現実的には相談室の場所等から不安感をお持ちの方もみられます。

［あう相談における支援内容］

ライフキャリアの視点で相談に当たっています。制度に関わることも多く情報を確認しながら進めていますが、必要に応じて関係機関の紹介をする場合もあります。昨年までの例では附属病院の産業医と連携して対応に当たったこともありますが、一方で産業医へのアクセスは先方の担当医とご本人の交渉になるため、本部門では紹介が有効であったか把握できていない状況にあります。

その他、ご本人以外の家族に関わることであれば、筑波大学心理相談室の存在をお知らせすることにとどまるケースもあります。

いずれの方も、情報を持っていたり他機関の受診を経ていたりと、より有効な情報を求められており、都度学内の情報を調べるなどして対応しています。そのため、来談日だけでなく後日、こちらが得た情報を学内メールでお伝えすることもあります。

近年、“あう”への相談は減少しているもののLGBTなどのより専門的な窓口を希望される場合にはそちらで対応しており、全体の件数は増加しています。

②キャリア相談

平成27年２月に「キャリア相談」を開設。筑波大学の全教職員および大学院生を対象に、キャリアに関する広範な悩みに対して相談を受け付け、キャリア形成の支援を行う窓口として運営しています。

開設にあたり、相談室リーフレットを作成して学内に配布をし、周知活動に努めました。

開設告知リーフレット

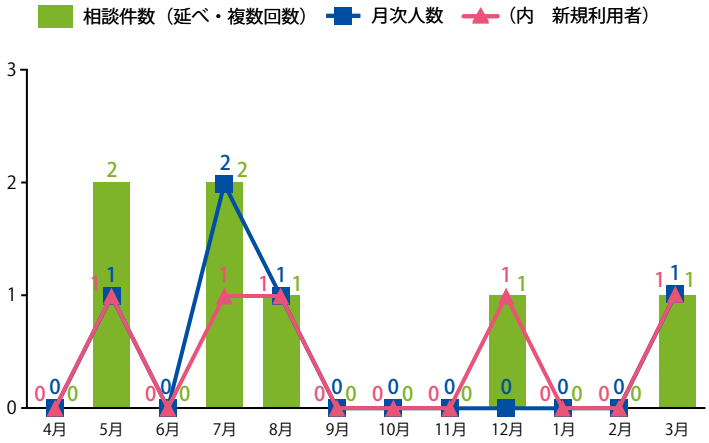


図1　相談月別推移（平成30年度）

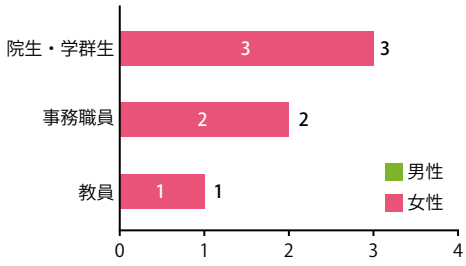


図3　相談者属性別人数

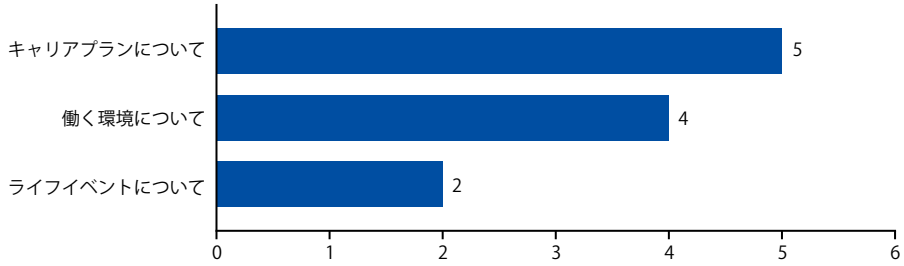


図2　相談内容別人数

［キャリア相談・対応の特徴］

ご自分自身のキャリアについて来談される方は、概ね自己認識についての質問への答えに詰まる方が多いです。転職希望者に限らず、どのように働きたいのか、ご自分を特徴付ける強みは何か、どのような場面で活き活きと仕事ができるのか、といったことは仕事をする上で整理されているほうが働きやすさにつながることについて、多くの方はわかってはいるがこれまであまり考えてこなかったと言われます。

大学以外の職場の経験がないこと、就職活動の経験が少ないことでご自分の能力や特性を客観的に捉えにくく、ご自身のステイタスと社会ニーズについても同様に不安を感じる方も見られます。

キャリア相談では、何をもって自分自身の強みやアピールポイントとなるのか、を丁寧に説明しながら、場合によっては次回までに整理をされるようにお願いし、その作業をもって自己認識や、効力感などを感じていただくような対応もしています。

一方で、能力要件を満たした上で採用されても、職場ではまったく違う仕事を担当したり、職場環境に溶け込むことが難しいと来談される方もあり、そういう場合は、ご自身にとっての働く意味を再考していただくようなアプローチをしています。

本年度は女性の来談者の割合が多く、ご自身のキャリアの転機となる配偶者の転勤や、子育てとの両立とどう直面するかに悩む方や、また将来そうした課題をどうするべきか心配している方も見られました。家庭や子育てと両立できる働き方には、あらゆる年代で関心が高いことがうかがわれます。

また、ダイバーシティ推進のための冊子もお渡しする用意をしていますが、事前に目を通したという方も多く、資料が学内に浸透していることがわかりました。

［キャリア相談における支援内容］

ご自身のキャリア開発を本学ばかりでなく、他の環境にも求める方や任期満了に伴い就職先を探す方に対しては、どのようにして就職をしていくのかといった基本的な流れから説明し、一方で書類作成や面談で伝えるべき、その方自身の特性や強みを対話の中で確認しながら進めています。経歴は記載できるものの、そこから培われたご自身を総括する機会となっているようです。

ダイバーシティ担当としても、これまでのヒアリングから2019年度育児スペースをオープンして、子育て中の教職員や研究者、学生の支援をしていますが、スペースだけでなくマンパワーも必要な託児というかたちでないと授業参加が難しい環境の方もあり、可能な限りの方法をご一緒に考える場合もあります。

また、就業規則などに関わる相談もあり、その場合は所属される支援室にご自身で問い合わせをしていただくこともご案内していますが、直接の問いあわせを躊躇する方もあり、その場合はダイバーシティ担当を経由する例も見られます。

③LGBT相談

平成30年度の相談者は学生からの相談のみで、内訳は学群生２名、大学院生３名、その他の学生３名からの相談が寄せられました。そのうち、相談内容に関しては宿舎関係の相談が最も多く、次いでセクシュアリティの相談（自分のセクシュアリティが分からない等）、セクシュアリティに伴う人間関係（特に恋愛や友人関係）や健康診断の対応についての相談内容が多く寄せられました。そのほか、授業での特別な配慮の相談や、就職活動に際しての不安、氏名変更に関する相談等もありました。一昨年度は全体で３名11件、昨年度は８名９件が、今年度は８名14件の相談がありました。その一方で４月や５月、11月と、学期が始まってから利用者が増加する傾向が認められました。

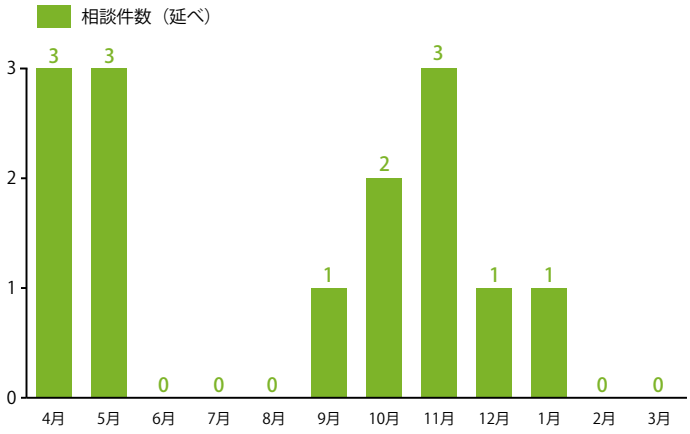


図1　相談月別推移（平成30年度）

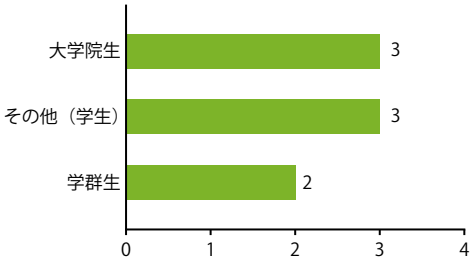


図3　相談者属性別人数

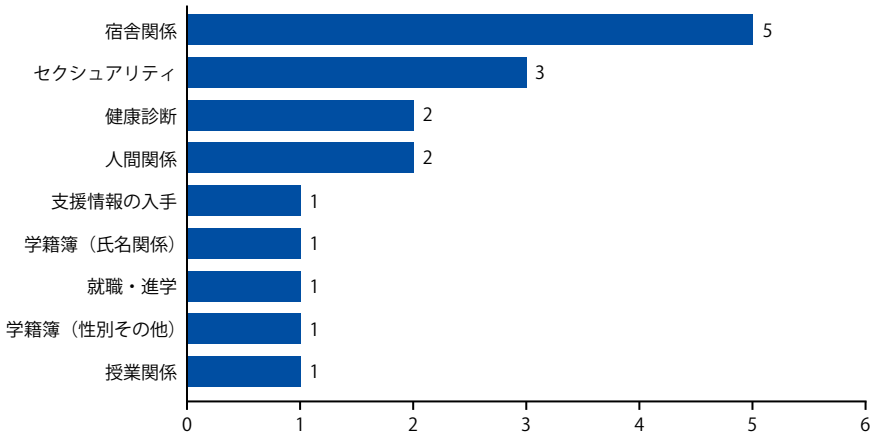


図2　相談内容別人数

* セクシュアル・マイノリティとは、LGB（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル）や、T（トランスジェンダー）および性別に違和をもつ人を含め、多様なセクシュアリティの人を指しています。

セクシュアル・マイノリティ*に関する

筑波大学での学生生活について

相談できます

筑波大学では、平成27年度よりセクシュアル・マイノリティの学生に対して、これまでの個別対応から、大学として支援の取り組みを始めました。

とくにトランスジェンダーや性別に違和を持つ学生には、次のような点についてこれまでも対応しています。

- ○ **氏名の取扱い**
- ○ **使用トイレ**
- ○ **教育実習やインターンシップ**
- ○ **名簿等における性別の取扱い**
- ○ **健康診断**
- ○ **キャリア相談、就職相談　など**

もし何か困ったことや伝えたいことがあれば、下記のダイバーシティ担当の窓口まで相談に来て下さい（電話かメールでの事前受付をしています）

対応可能な内容は個別の状況や大学側の事情にもよるため、必ずしも希望に沿えない場合もありますが、まずはお気軽にご相談下さい。

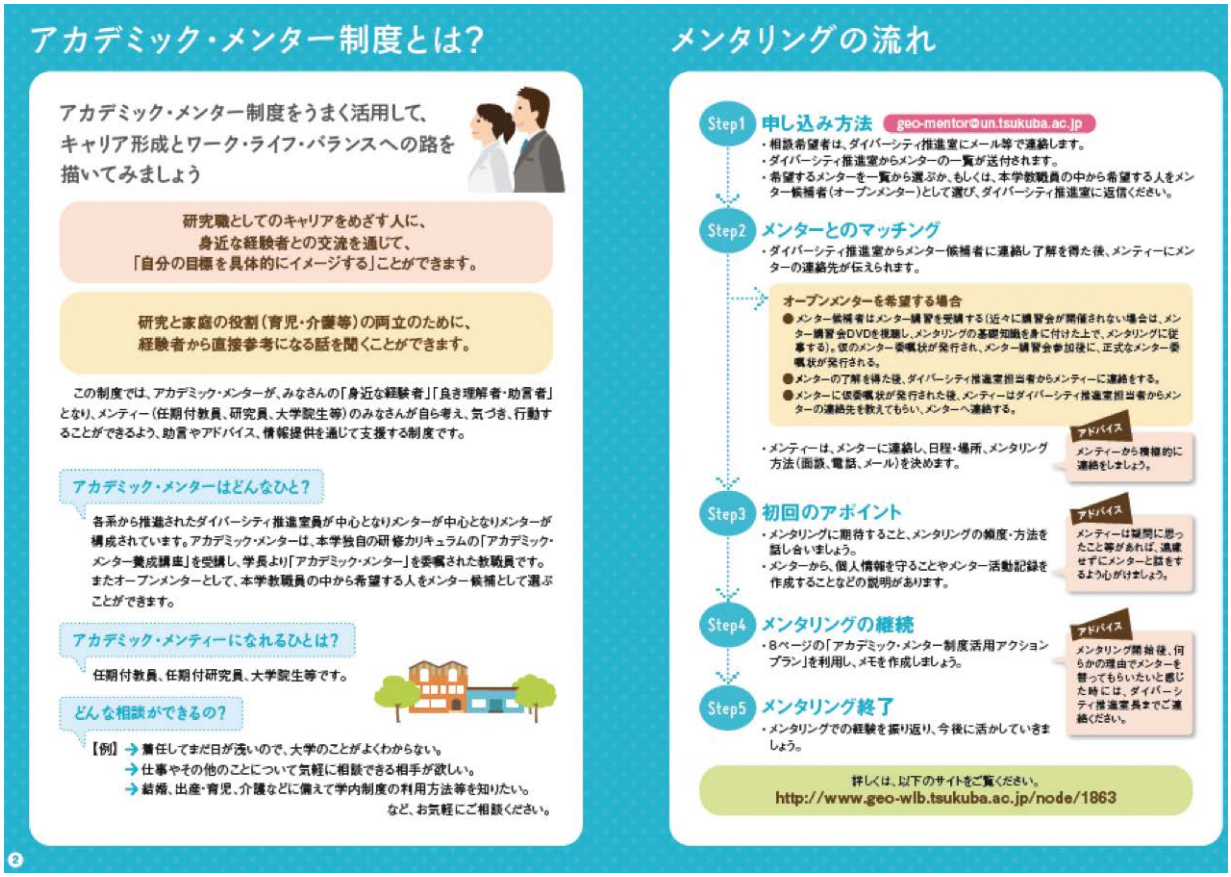
筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター **ダイバーシティ担当**

TEL: **029-853-8504**　E-mail: **diversity-au@un.tsukuba.ac.jp**

URL: **https://diversity.tsukuba.ac.jp/**　または「**筑波大学ダイバーシティ**」で検索

④アカデミック・メンター制度

平成22年度より、アカデミック・メンター制度を実施している。各系から推薦されたダイバーシティ推進室室員を中心に、アカデミック・メンター養成講座を受講した教職員が、メンティー（任期付教員、任期付研究員、博士課程学生等）の研究キャリア継続に関する相談、大学における仕事と家庭役割の両立相談について、アドバイスや情報提供を行っている。平成24年度にはアカデミック・メンター・ハンドブックを作成し、本制度の周知とメンタリング希望者のメンターとのマッチングを実施中である。



アカデミック・メンター・ハンドブック

総合相談窓口
General Consultation Service

対象 Recipient
学生・家族・教職員ほか、どなたでも
Students, faculty member, family of students and anyone else

相談内容 Consultation matters
学生生活に関する何でも相談
Consultation on anything about student life

連絡先 Contact information
スチューデントプラザTel: 029-853-8430
春日エリアTel: 029-859-1207
Student Plaza: 029-853-8430
Kasuga Area: 029-859-1207

学生相談室
Student Counseling Room

対象 Recipient
学生・保護者・教職員
Students, faculty member and family of students

相談内容 Consultation matters
学生生活のさまざまな問題や悩み、困りごとに関する相談
（カウンセリングやコンサルテーション）
Consultation on various problems and troubles about student life (Counseling and consultation)

連絡先 Contact information
受付電話: 029-853-2415
電話相談: 029-853-2406（要予約）
Reception: 029-853-2415
Consultation by telephone: 029-853-2406 (Appointment system)

キャリア・就職相談（学生）
Desk for career counseling (for students)

対象 Recipient
学生・家族
Students and family members

相談内容 Consultation matters
学生のキャリア・進路・就職相談
Career counseling for students

連絡先 Contact information
Tel: 029-853-8444
E-mail: syushokuka@un.tsukuba.ac.jp

キャリア相談（教職員）
Desk for career counseling (for faculty and staff members)

対象 Recipient
教職員
Faculty and staff members

相談内容 Consultation matters
教職員のキャリア・進路相談
（博士課程の学生のキャリア・進路・就職相談も可）
Matter of career development

連絡先 Contact information
Tel: 029-853-8504
E-mail: career-shien@un.tsukuba.ac.jp

相談室「あう」
Work-life balance counseling room "Au"

対象 Recipient
学生・家族・教職員
Students, faculty, staff and family member

相談内容 Consultation matters
ワークライフバランスに関する相談
（ライフイベント等との両立支援や職場環境に関する内容も含む）
Matter of work-life balance and life event support services

連絡先 Contact information
Tel: 029-853-8504
E-mail: diversity-au@un.tsukuba.ac.jp

We're With You いつでも
相談窓口一覧
University of Tsukuba

精神保健相談
Mental Health Care

対象 Recipient
学生・家族
Students and family members

相談内容 Consultation matters
気分の落ち込み、意欲の低下、不安、不眠などメンタルヘルスに関する相談・治療
Matter of Mental Health

連絡先 Contact information
受付電話: 029-853-2415
電話相談: 029-853-2406（要予約）
Tel: 029-853-2415
Telephone counseling: 029-853-2406
(Appointment system)

健康相談
Health Consultation

対象 Recipient
学生・教職員
Students, faculty and staff

相談内容 Consultation matters
からだの健康についての相談・応急診療
Health Consultation, etc.

連絡先 Contact information
Tel: 029-853-2410

LGBT等の相談窓口
Desk for LGBT and other sexual minorities

対象 Recipient
学生・家族・教職員
Students, faculty, staff and family members

相談内容 Consultation matters
LGBT等に関する相談
Matter of LGBT and other sexual minorities

連絡先 Contact information
Tel: 029-853-8504
E-mail: diversity-au@un.tsukuba.ac.jp

障害学生支援の相談窓口
Support service for students with disabilities

対象 Recipient
学生・教職員
Students, faculty and staff

相談内容 Consultation matters
障害のある学生への修学上の支援に関する相談
Study support for students with disabilities

連絡先 Contact information
Tel: 029-853-4584
E-mail: shougai-shien@un.tsukuba.ac.jp

留学生相談室
International Students Consulting Room

対象 Recipient
学生・家族・教職員
Students, their family members, the university staff

相談内容 Consultation matters
留学生に関連するあらゆる問題や悩みごと（留学生の他に受け入れに関わる教職員全般が対象）
Any issues related to international students (open to all staff members as well as international students)

連絡先 Contact information
Tel: 029-853-6240、6766
E-mail: gc-support@un.tsukuba.ac.jp

ハラスメント相談センター
Harassment Counseling Center

対象 Recipient
学生・教職員
Students, faculty and staff

相談内容 Consultation matters
ハラスメントに関する相談
If you observe or been the target of behavior you perceive as harassment, contact us.

連絡先 Contact information
Tel: 029-853-8449
E-mail: stop-harassment@un.tsukuba.ac.jp
or for more information visit university homepage.

6. 裾野拡大・次世代育成事業

①女子中高生向け理系進路選択支援事業

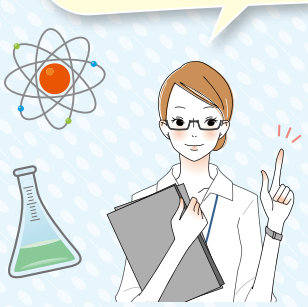
平成30年度では茨城県からの委託契約締結を行い、例年実施しているリケジョ合宿に加え、初日には「中高生理工系進学応援シンポジウム」として男子学生も含めて広く参加者を募りました。さらに近郊の研究機関の協力もいただき、参加者の交流の場や中高生の研究発表の場を新しく設け、より多角的な視点からプログラムを実施いたしました。

企画名	平成30年女子中高生の理系進路選択支援プログラム
タイトル	1．中高生理工系進学応援シンポジウム 2．リケジョサイエンス合宿
実施日	1．平成30年８月20日（月）12:00～16:30 2．平成30年８月20日（月）12:00～８月22日（水）12:00
場所	1．筑波大学　筑波キャンパス　大学会館 2．筑波大学　筑波キャンパス　大学会館・総合研究棟Ｂ棟１階
参加者	1．中高生130名（うち茨城県内SSH ４校・21名）、保護者・教員 2．女子中高生79名（中学生32名、高校生47名）、保護者
内容	1．中高生理工系進学応援シンポジウム（リケジョサイエンス合宿初日含む） ・開会式、基調講演 ・ロールモデル紹介 ・ラウンドテーブルカフェ ・大学・企業・研究所ブース訪問 協力：つくば市役所、産業技術総合研究所、農研機構、物質・材料研究機構、茨城県立医療大学 ・中高生研究発表ブース訪問 SSH：茨城県立水戸第二高等学校、茨城県立竜ケ崎第一高等学校、清真学園高等学校・中学校、茨城県立緑岡高等学校 ・閉会式 2．リケジョサイエンス合宿 ・交流会（筑波大学学生スタッフ企画） ・サイエンス実験体験 ・グループワーク（筑波大学学生スタッフ企画） ・閉会式・集合写真

茨城県　筑波大学 University of Tsukuba

平成30年度女子中高生の理系進路選択支援プログラム

中高生理工系進学応援シンポジウムとリケジョサイエンス合宿に参加しませんか



女子中高生が多様な理系分野の魅力を知り、体験できるプログラムとして「中高生理工系進学応援シンポジウム」と「リケジョサイエンス合宿」を開催します。**初日のシンポジウムは男女問わず合宿に参加しない方も含めて広く参加者を募ります。**理系に興味がある方、進路を決めかねている方、ご参加お待ちしております。

日時　平成30年 **8月20日(月)** 12:00 ～ **22日(水)** 12:00

場所　**筑波大学**　メイン会場：**大学会館ホール他**

2泊3日「サイエンス」環境にたっぷりと浸りながら、仲間や先輩たちとさまざまな企画に参加できるプログラムです!

中高生理工系進学応援シンポジウム

女子・男子・保護者／当日参加可

8/20

参加無料

募集人数 200名

◆**基調講演**　山口 香（筑波大学教授）

◆**ロールモデル紹介**

世界で活躍する女性研究者（ロールモデル）の経歴や取り組んでいる研究を紹介します。

◆**企業や研究機関、大学による展示ブース**

企業や研究機関、大学の研究開発や研究職のキャリアに関する展示ブースです。誰でも自由に参加し、交流することができます。

◆**中高生による研究発表ブース**

中高生の日頃の研究成果を展示するブースです。大学や企業、研究機関の研究者や大学生からさまざまなコメントをもらったり、交流することができます。

女子のみ／事前登録制

ラウンドテーブルカフェ

グループに分かれ、女性研究者を囲んで自由に交流できます。

リケジョサイエンス合宿

女子のみ／事前登録制

募集人数 100名

応募者多数の場合抽選で決定

8/20（シンポジウムを含みます） 8/21 8/22

◆**サイエンス実験体験**

筑波大学の理系分野の研究室における科学実験を体験します。

◆**宿泊交流**

女子大学生スタッフ主催によるゲームや、グループワークで交流します。

◆**グループワーク発表と学生交流会**

グループワークの発表会と学生スタッフとの交流会を行います。

宿泊先　筑波山ホテル青木屋

宿泊費　16,000円

- 宿泊費・朝夕食費込
- 参加確定後、ホテルへ直接支払い頂きます
- 筑波大学までの交通費は自己負担となります
- 同伴者 20 名程度も参加できます

申込締め切り：平成30年7月18日（水）

主催　茨城県・筑波大学

後援　つくば女性研究者支援協議会

詳細は裏面へ!

筑波大学 リケジョ NEWS LETTER

平成30年9月

平成30年度女子中高生の理系進路選択支援プログラム「中高生理工系進学応援シンポジウム」及び「リケジョサイエンス合宿」開催報告

「中高生理工系進学応援シンポジウム」と「リケジョサイエンス合宿」を行いました！

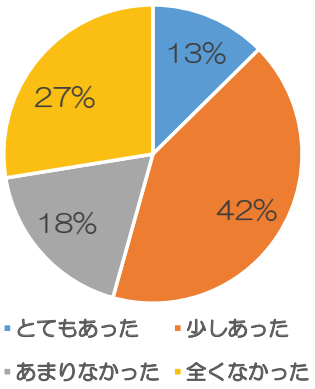
筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ担当では平成25年度より「リケジョ合宿・カフェ」を企画し、女子中高生が多様な理系分野の魅力を知り、体験できるプログラムを実施しています。

今年度からは、例年実施しているリケジョ合宿に加え、初日には「中高生理工系進学応援シンポジウム」として男子学生も含めて広く参加者を募り、さらに近郊の研究機関の協力もいただき、参加者の交流の場や中高生の研究発表の場を新しく設け、より多角的な視点からプログラムを実施いたしました。

8月20日（月）に開催したシンポジウムでは、130名の中高生のうち茨城県内のSSHによる研究発表ブースの4校・21名が参加いただきました。

8/20（月）～22日（水）の2泊3日でのリケジョサイエンス合宿では、全国各地から79名の女子中高生（中学生32名、高校生47名）に参加いただきました。

Q. 理系・文系を選択するうえで悩みや不安がありましたか？



参加した中高生へのアンケート結果から、プログラムに参加する以前は、理系には興味があるがなぜ研究をはじめたのか？研究は何のために行うのか？というような疑問を抱いているようでした。

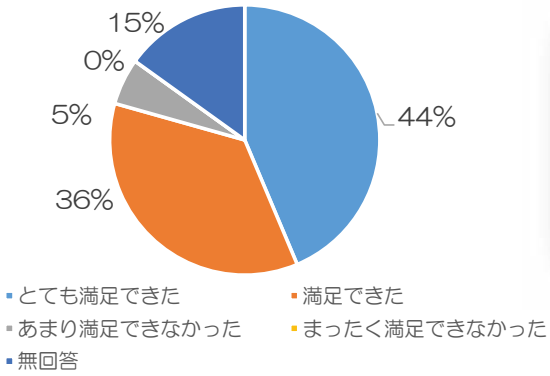
進路選択においても「理系か文系、そして専攻をどのようにどうきめるのか」と悩んでいる中高生も多くみられました。

様々な分野で活躍されている方に相談できる安心感、体験談をもとに感じたことを実践して将来のキャリアに繋げられるよう、筑波大学の大学生や大学院生も輪に入り、宿泊も共にし交流を図りました。新たな関心や不安解消に繋げられたと感じております。

中高生理工系進学応援シンポジウムアンケート調査結果

事後アンケート調査によると、参加者の満足度80%ととても高く、実際に現場で働いている方からありのままの意見が聞けて、とても参考になった、楽しかった。などと、前向きな感想が多く見られまた。

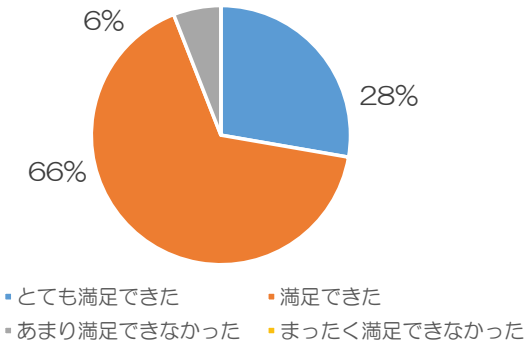
シンポジウムの満足度



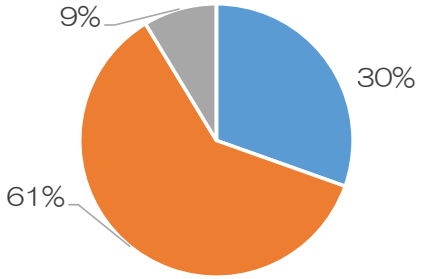
親から聞く話だけでは、よく分からない就活の事や仕事内容など細かい所まで聞けてとても面白かった。

色々な楽しい仕事があると知れた。詳しい事も新しい事も学べて視野が広がった。

中高生のブース出展の満足度



ブース出展を行ってみて



ポスターの作成や今後の研究についてアドバイスをもらった。研究設備の問題もあるが、できるだけやってみたい。

今後の研究に活かしていきたい、意見などを頂いたのが参考になった。

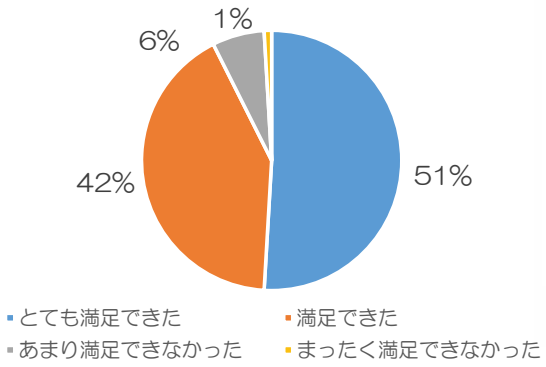
医療機器のデザインをする人が少ないと聞いて、少し驚いた。

研究者とはどういうことをする人なのかを実際の研究者と会って学ぶことができた。また理系の分野には様々な内容の仕事があることを知った。

リケジョサイエンス合宿アンケート調査結果

リケジョサイエンス合宿では、年齢の近い中高生や大学生、先生方など多くの人と交流でき、理系の学習分野について知ることができて、進路選択に役立てたいと思った。など、将来の夢に向かって前向きな感想が多くみられました。

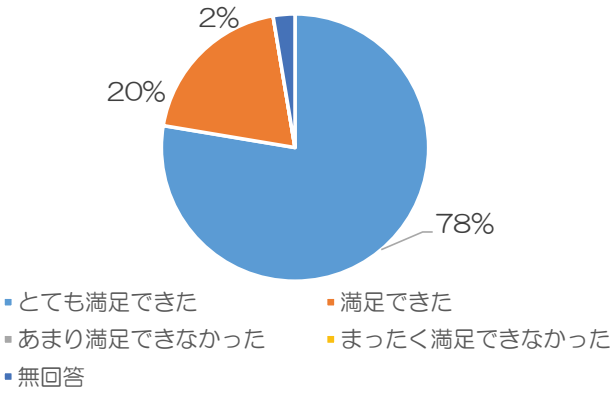
ラウンドテーブルカフェの満足度



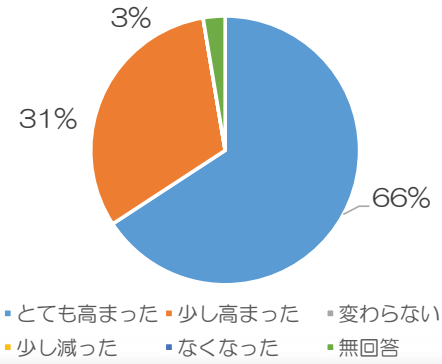
経歴や職業についたきっかけ、理系選択のきっかけなどをきくことができて、とても参考になった。

生活のことや大学に入ってからのこと、進路選択のことなど話してくださったので、新たなことを知ることができとてもよかった。

実験体験の満足度



この合宿で理系や科学技術に関心が高まりましたか？



漠然と研究員になりたいと思っていたが、現実的なことを聞けたりして、進路についてもう一度考えることができた。

音響学というジャンルがあること、また工学系も機械を作るだけでなく社会の知識も必要になることが興味深かった。

マウスの解剖の見学や実験は初めてだったのでとても楽しかった。

ラウンドテーブルカフェ・サイエンス実験体験の講師から一言

中高生の時期はまだまだいろんな経験ができるし、多くの可能性を拡げられるとき。特定の科目が苦手とか、これが得意じゃないとか、否定的な感覚で自分の可能性を狭めるのではなく、これに興味があるとか、こういう経験は面白いとか、前向きな感覚で自分の可能性を拡げていってほしい。自分の進路を決定づけるような因子は、意外と身近に転がっているかもしれません。

ラウンドテーブルカフェで皆さんが将来の夢やこれからの進路に真剣に向き合っている様子に大変感心するとともに，自分自身もよりいっそう頑張らなければと勇気づけられました。将来またどこかでお会いできるのを楽しみにしております。

今自分がやりたいことを思いっきり楽しんでください。勉強や受験ばかりに気を取られずに、今できる趣味や読書を満喫してください。理系でも理数系の勉強ばかりせずに、小説や歴史にも興味をもてたら素敵ですね！

エネルギー問題について少しでも興味を持ってもらえたら，またみなさんが進路を選ぶ参考になれたなら幸いです．ご縁があればまたお会いしましょう。

学生スタッフから一言

これまで数多くの答えのない問いと向き合ってきたでしょう。そして、これからも向き合っていくのだと思います。答えのない問いと向き合う行為には、孤独が伴います。苦悩も伴います。でも、そこから逃げないでください。それらに負けないでください。そして、どうか問い続けてください。答えのない問いの中には、問い続けることに価値がある問いがあると思います。それらと向き合う過程を通じてあなたが成長することを心より楽しみにしています。

好きな事、興味をもったことなど些細なことから自身が極めたいこと、深めていきたいことを探っていってくれると嬉しいです。

理系科目への興味を失わず、勉強頑張ってください。

将来の夢や目標に固執せず、幅広い興味と体験を大事に進んでみてください！

みなさんの頑張りに私も刺激を受けました！この貴重な経験を無駄にすることなく、これからも自分の道を突き進んでいってください！

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
編集・発行　〒305-8577　茨城県つくば市天王台1-1-1
TEL:029-853-8503　FAX:029-853-8505
E-mail: rikejo@un.tsukuba.ac.jp　URL: http://diversity.tsukuba.ac.jp/

②学群総合科目・大学院共通科目

ダイバーシティ担当では、学群生を対象とした学群総合科目を春学期と秋学期に開講しています。また、大学院生を対象とした大学院共通科目を夏季及び春季集中授業として開講しています。平成30年度の受講生数は延べ200人以上を数えました。いずれの授業においても、男女共同参画のほか、障害や文化、LGBT等といった様々な分野でのダイバーシティ推進に関する課題を学生と共有し、その解決に向けて学生が主体的に考え、行動することを目指しています。

授業科目名	ワーク・ライフ学　－男女共同参画とダイバーシティ－		
科目番号	1226011	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	春 AB 木 6
授業内容	**第１回［ガイダンスおよび授業概要］** ワーク・ライフ学を学ぶことの意義、授業全体の概要の説明、受講にあたっての注意点等について説明します。 **第２回［ワーク・ライフ・バランスとは何か］** 近年の社会経済構造の変化と共に、人々の働き方や生活のスタイルの変化を考察します。その上で、ワーク・ライフ・バランス概念を軸に、何が議論されているかを学びます。 **第３回［ワーク・ライフ・バランスと男女共同参画］** 近年の社会経済構造の変化と共に、人々の働き方や生活のスタイルの変化を考察します。その上で、ワーク・ライフ・バランス概念を軸に、とくに男女共同参画の点から考えていきます。 **第４回［ワーク・ライフ・バランスとダイバーシティ］** 近年の社会経済構造の変化と共に、人々の働き方や生活のスタイルの変化を考察します。その上で、とくにLGBTを含めたセクシュアル・マイノリティに関するダイバーシティの観点から考えていきます。 **第５回［ワーク・ライフ・バランス施策の実際 1］** 外部講師をお招きし、企業におけるワーク・ライフ・バランス施策の現状と将来展望について学びます。そして、経営戦略という視点から、「ワーク・ライフ・バランス」を理解します。 **第６回［ワーク・ライフ・バランス施策の実際 2］** 外部講師をお招きし、企業におけるワーク・ライフ・バランス施策の現状と将来展望について学びます。そして、経営戦略という視点から、「ワーク・ライフ・バランス」を理解します。 **第７回［多様化するライフコース/ワークスタイル］** 外部講師をお招きし、近年の新たな事業活動のキー概念ともなりつつある社会貢献型事業活動を展開する企業や個人の事例を学びながら、多様な働き方の中で生き抜く力を養います。 **第８回～第９回［ワーク・ライフ・バランスの実践に向けて 1～2］** これまでの授業を踏まえながら、現代社会のワーク・ライフ・バランスの施策の問題点や、我々のライフコースへの影響についてグループディスカッションを行い、プレゼンテーションとしてまとめます。 **第10回～第11回［ワーク・ライフ・バランスの実践に向けて 3～4］** グループディスカッションを通して得られた成果をプレゼンテーションとして発表するとともに、他のグループと積極的な意見交換を行い、さらに議論を深めます。最後に、本授業を経て、自分の考えがどのように変化したのかを中心としたレポートを課します。		

授業科目名	ダイバーシティスタディーズ入門		
科目番号	1B26101	単位数	1.0 単位
標準履修年次	１・２ 年次	時間割	秋 AB 月 2
授業内容	**第１回［イントロダクション+グローバル化時代のダイバーシティ］** 授業の狙い、ダイバーシティスタディーズの意義などについて概説します。グローバリゼーションの進化に伴って複雑化する、国家や社会の多様性について考察を加えます。 **第２回［ダイバーシティと公共］** 国際的な人の移動の活性化が、どのような公共政策的な課題を生み出しているのかを考えます。 **第３回［実践への導入（２）ダイバーシティと市民社会組織］** ダイバーシティをめぐる諸問題に対する市民社会組織（e.g. NGO）による実践的取り組みを学びます。 **第４回［実践への導入（１）ダイバーシティと企業］** ダイバーシティをめぐる諸問題に対する民間企業の実践的取り組みを学びます。株式会社電通からゲストスピーカーも招きます。 **第５回［ダイバーシティと障害］** ダイバーシティと障害（とくにインクルーシブ教育）との関係、そのための支援や対応のあり方を学びます。 **第６回［ダイバーシティと社会福祉］** ダイバーシティの問題について、社会福祉の観点から、その実践的取り組みを多角的に学びます。 **第７回［ダイバーシティと福祉と経済］** ダイバーシティをめぐる諸問題について、福祉の視点、経済の視点、経営の視点から検討します。 **第８回［ダイバーシティと性］** LGBT など性に関するダイバーシティの課題について理解を深めます。 **第９回［グループディスカッション］** プレゼンテーションの準備作業の一環として、各グループが設定した課題についてグループごとに討議します。 **第10回〜第11回［総括］** 各回講義の内容を結びつけ、体系的な理解を促します。グループごとにプレゼンテーションを行ないます。コメンテーターも置きます。試験に代えてレポートを課します。		

平成30年度 大学院共通科目【01ZZ503】
科目名「ダイバーシティと男女共同参画 I」

学群生も参加歓迎！

※ 学群生の参加の場合は単位は出ません。

ダイバーシティ × ジェンダー

さまざまな可能性（多様性）の中で
働くこと、生きることを知ろう！

9月19日（水）10時～17時30分 @3B棟213

＜前半＞
ワークライフバランスと男女共同参画、ダイバーシティを理解するための講義とグループワークを中心に実施します。
＜後半＞
特に重要なテーマであるセクシュアル・マイノリティ（LGBT/SOGI）に関する講義とグループワークを実施します。

9月22日（土曜）10時～12時@つくば国際会議場

つくば国際会議場で開催される Tsukuba Global Science Week（TGSW2018）のセッションのうち、ダイバーシティ推進をテーマとしたセッションを聴講します。

9月22日（土曜）14時～17時30分@3B棟213

聴講した内容を踏まえ、ダイバーシティ推進に関するグループワークを実施します。

履修登録期間：9月13日(木)まで　担当教員：河野禎之（DACセンター）

履修の問い合わせ：大学院共通科目事務室　ggec@un.tsukuba.ac.jp

★ 学群生の受講希望も上記共通科目事務室にお問い合わせ下さい。
★ 大学院共通科目の単位履修のためには２日間全ての出席を前提とします。

「筑波大学　ダイバーシティ」で検索　または　http://diversity.tsukuba.ac.jp/

平成30年度 大学院共通科目【01ZZ520】

ダイバーシティと男女共同参画 II

ダイバーシティ × ワークライフバランス

学群生も参加歓迎！

セミナーのみ参加も可！

さまざまな違いを価値に変え、新たな可能性を拓こう！

※ 要事前申し込み。詳しくは下記参照。なお、学群生及びセミナーのみの参加の場合は単位は出ません。

2月18日（月）10時～17時 @大学会館 マルチメディアルーム

ワークライフバランスと男女共同参画、ダイバーシティの基礎を理解するための講義とグループワーク1

2月19日（火）10時～14時 @大学会館 マルチメディアルーム

ワークライフバランスと男女共同参画、ダイバーシティの基礎を理解するための講義とグループワーク2

2月20日（水）10時30分～12時 @大学会館3F 特別会議室

＜セミナー＞

講師：熊谷 晋一郎 氏

（東京大学先端科学技術研究センター 准教授
東京大学バリアフリー支援室長）

「知識と支援の共同創造」

履修登録期間：2月14日(木)まで　　**担当**：秋保さやか（DACセンター）

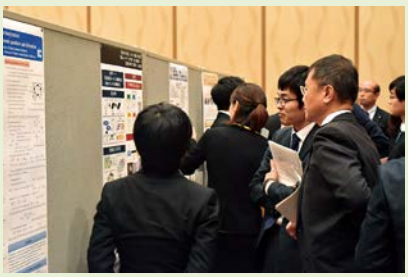
履修の問い合わせ：大学院共通科目事務室　ggec@un.tsukuba.ac.jp

★ 学群生の受講希望やセミナーのみの参加希望はダイバーシティ担当 HPより事前申し込みをお願いします。
★ 大学院共通科目の単位履修のためには3日間の出席を前提とします。

「筑波大学　ダイバーシティ」で検索　または　http://diversity.tsukuba.ac.jp/

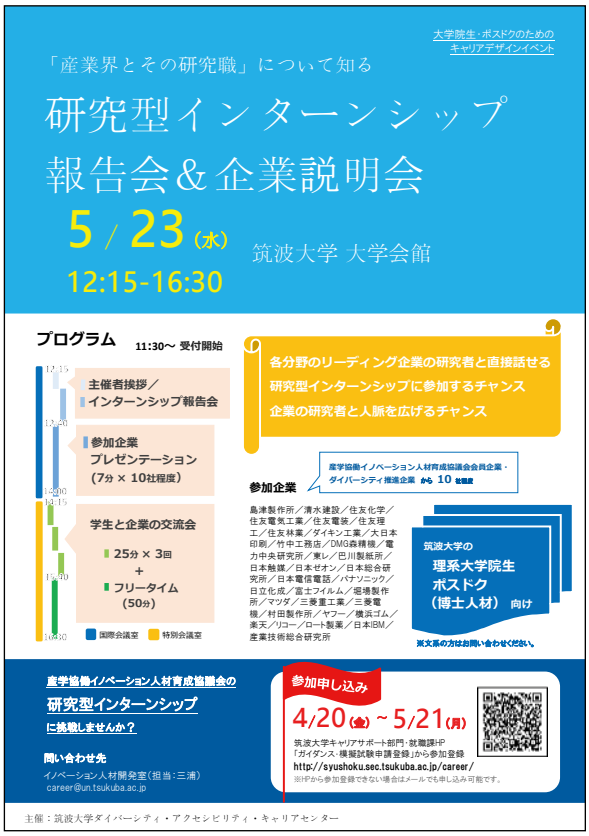
③イノベーション・インターンシッププログラム

課題管理実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	博士・ポスドクのためのキャリアデザインイベント 第１回「大学院修了後を見据えて今できること」 第２回「大学院生・若手博士人材と企業との交流会」
実施日	第１回　2018年10月16日（火）18:10～19:40 第２回　2018年11月28日（水）12:30～16:45
場所	第１回　筑波大学　2H棟201 第２回　オークラフロンティアホテルつくば
形式	一般公開・シンポジウム・(セミナー)・(講演会)・ワークショップ・ その他（ポスター発表・交流会）
	展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　(その他（ポスター）)）　無
対象者	一般　研究者　(学生)　(その他（企業）)
来場者	第１回　90名（学群生18名、大学院生71名、その他１名） 第２回　32名（大学院生32名）
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　(HP)　(メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター 業務推進マネージャー　山口　香
内容 効果	博士・ポスドク及び研究者支援のためのキャリア形成支援に資することを目的に２回に分けてイベントを実施しました。 第１回では、博士ホルダーのOBOGによるご講演として、現在企業でご活躍の方と本学の大学教員の２名からご講演いただきました。企業での働き方や大学教員の仕事を知るとともに現状の多様な可能性を知り、自身の納得のいくキャリアを描くための知見を得る機会のひとつとしてインターンシップへの参加への促進も行いました。 第２回では、３部構成にし、参加いただいた企業様からのプレゼンテーションに加え、希望学生によるポスター発表の後、交流会を開催いたしました。イベントを終えて「企業に対する認識を深めることができた」等の学生も多く、ポスター発表した学生からは「企業様からのフィードバックをいただけたことにより、自身の可能性を広げることができた」と満足度も高い結果となりました。一方で企業様等からは「当社に興味をもった学生に出会うことができ、概要やインターンシップの説明を行うことができた」「様々な分野の学生との交流ができた」「効率的なマッチングを行うことができた」等の感想をいただくことができました。 

課題管理実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	研究型インターンシップを見据えた企業との交流会 第１回「【産業とその研究職】について知る 研究型インターンシップ報告会＆企業説明会」 第２回「企業等訪問会　バスツアー ～企業や研究内容のリアルを知るチャンス!! ～」
実施日	第１回　2018年５月23日（水）12:15～16:30 第２回　①2018年６月21日（木）8:45～17:45 ②2018年６月26日（火）9:40～16:30
場所	第１回　筑波大学　大学会館 第２回　①農研機構・日立化成株式会社 ②NTTアクセスサービス研究所・一般財団法人電力中央研究所
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・ （その他（交流会・バスツアー）） 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））　無
対象者	一般　研究者　（学生）（その他（企業））
来場者	第１回　121名 第２回　20名
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　（HP）（メール発信） その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター 業務推進マネージャー　山口　香
内容 効果	第１回「【産業とその研究職】について知る研究型インターンシップ報告会＆企業説明会」では大学院生・ポスドク自身の視野を広げるべく、企業や研究機関と交流を深め研究型インターンシップへの挑戦の促進を行いました。長期研究型インターンシップ経験者からインターンシップの流れや経験から得られたこと等の報告会も行うことで、より具体的にインターンシップのイメージをもってもらうことができました。また参加企業様や研究機関様からのプレゼンテーションや交流会を通して、インターンシップの内容や研究職を知る機会となりました。 第２回「企業等訪問会バスツアー～企業や研究内容のリアルを知るチャンス!! ～」では、直接企業様や研究所等を見学し、人事担当者や研究者から業務内容や研究内容を話ししていただきました。また本学OBOGとの交流もあり、企業や研究機関で活躍されている方からお話しいただくことで、学生は今後の自身の研究やインターンシップ、就職活動へ繋げる機会となりました。


大学院生・ポスドクのための
キャリアデザインイベント
「産業界とその研究職」について知る
研究型インターンシップ
報告会＆企業説明会
5 / 23 (水)
筑波大学 大学会館
12:15-16:30
プログラム
11:30～ 受付開始
主催者挨拶／
インターンシップ報告会
参加企業
プレゼンテーション
(7分 × 10社程度)
学生と企業の交流会
25分 × 3回
+
フリータイム
(50分)
国際会議室
特別会議室
各分野のリーディング企業の研究者と直接話せる
研究型インターンシップに参加するチャンス
企業の研究者と人脈を広げるチャンス
参加企業
産学協働イノベーション人材育成協議会会員企業・
ダイバーシティ推進企業 から 10 社程度
島津製作所／清水建設／住友化学／
住友電気工業／住友電装／住友理
工／住友林業／ダイキン工業／大日本
印刷／竹中工務店／DMG森精機／電
力中央研究所／東レ／巴川製紙所／
日本触媒／日本ゼオン／日本総合研
究所／日本電信電話／パナソニック／
日立化成／富士フイルム／堀場製作
所／マツダ／三菱重工業／三菱電
機／村田製作所／ヤフー／横浜ゴム／
楽天／リコー／ロート製薬／日本IBM／
産業技術総合研究所
筑波大学の
理系大学院生
ポスドク
(博士人材) 向け
※文系の方はお問い合わせください。
産学協働イノベーション人材育成協議会の
研究型インターンシップ
に挑戦しませんか？
問い合わせ先
イノベーション人材開発室(担当：三浦)
career@un.tsukuba.ac.jp
参加申し込み
4/20(金) ~ 5/21(月)
筑波大学キャリアサポート部門・就職課HP
「ガイダンス・模擬試験申請登録」から参加登録
http://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/
※PCから参加登録できない場合はメールでも申し込み可能です。
主催：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター

参加費
無料！！
各日
先着２０名様
限定！
両コース
参加可能！
企業訪問会　バスツアー
～企業や研究内容のリアルを知るチャンス！！～
企業や研究機関を訪問し、仕事内容や研究内容、またインターンシップ情報
などを、直接社員や研究員の方から聞くことができます。
昨年度から実施し、このバスツアーをきっかけに、インターンシップや就職
活動につながった参加者もいます。
自身の視野を広げ、企業や研究所のリアルを知る絶好のチャンスです！
日時：　６月２１日（木）８：４５～（８：３５集合）
※１７：４５頃筑波大学到着予定
訪問先：
〈午前〉国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
（農研機構）
〈午後〉日立化成株式会社　（下館事業所（五所宮））
※日立化成にて昼食予定。昼食代実費負担。
集合：　筑波大学本部棟　（貸切バスで移動）
対象：　理系大学院生、ポスドク　※文系学生はお問い合わせください。
日時：　６月２６日（火）９：４０～（９：３０集合）
※１６：３０頃筑波大学到着予定
訪問先：
〈午前〉ＮＴＴｱｸｾｽｻｰﾋﾞｽｼｽﾃﾑ研究所（筑波研究開発センタ）
〈午後〉一般財団法人電力中央研究所　（我孫子地区）
※電中研にて昼食予定。昼食代実費負担。
集合：　筑波大学本部棟　（貸切バスで移動）
対象：　理系大学院生、ポスドク　※文系学生はお問い合わせください。
※詳しい行程は、申し込み後ご連絡いたします。
▼申し込み方法
筑波大学キャリアサポート部門・就職課HP
「ガイダンス・模擬試験申請登録」から参加登録
http://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career
※募集期間　5/22(火)～6/12(火)
※バス及び研究所の定員の関係で両日ともに先着20名まで。
※訪問する企業は産学協働イノベーション人材育成協議会
及びつくば女性研究者支援協議会に登録しています。
問合せ先：筑波大学 ﾀﾞｲﾊﾞｰｼﾃｨ･ｱｸｾｼﾋﾞﾘﾃｨ･ｷｬﾘｱｾﾝﾀｰ（担当：三浦・大園）
電話：029-853-8503　E-mail：career@un.tsukuba.ac.jp

事前予約制
研究者を目指す人のための
キャリアデザインイベント
～大学院修了後を見据えて今できること～
◆大学院修了後のキャリアって？　◆企業で働くって、どんな感じ？　◆「学振」って何？
◆研究者を目指すうえで知っておくべきことは？　◆「博士号」ってどんな意味があるの？
◆目的をもって大学院生活を送るために今できることを考える！
自分自身にぴったりなキャリアを描くために、ぜひご参加ください！
大学院進学を考えている学群生にもオススメです。
日時：2018年10月16日（火）18：10～19：40
場所：　２Ｈ棟２０１
【第１部】　博士ホルダーのOBOGによるご講演
18：15～18：40　企業での働き方について
（みずほフィナンシャルグループ　みずほ情報総研株式会社）
18：40～19：05　大学教員の仕事を知る
（生命環境系　豊福雅典　助教）
19：05～19：20　質疑応答
【第２部】　昨年度の交流会参加者による体験報告
19：20～19：35　体験報告
対象：　全学群生、全大学院生（前期・後期）、そのほかご興味がある方
★予約期間:9/18～10/15★
当日受付にてお渡しします。
★事前予約された方へ書籍プレゼント！★（先着50名限定）
書籍：アカリク『大学院生、ポストドクターのための就職活動マニュアル 改訂新版』
申込先：就職情報提供システム（ http://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/ ）
※就職情報提供システム内の「ガイダンス等及び模擬試験登録・申請」より入力。
システム使用できない方は、イノベーション人材開発室(E-mail: career@un.tsukuba.ac.jp)まで
メールにて申請してください。
問合せ先：ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター(029-853-5706)

自らの手で
チャンスをつかんでみませんか？
参加者
募集中！
大学院生・若手博士人材と
企業との交流会
2018年 11月 28日（水） 12:30～16:45
会場：オークラフロンティアホテルつくば
産業界や自分自身について知る絶好のチャンスです！
☑ 各分野のリーディング企業の研究者や人事担当者と直接話すチャンス
☑ インターンシップに参加するチャンス
☑ ポスター制作過程において自己理解を深めるチャンス
（DACセンターが万全の体制でポスター制作をサポート！）
☑ ポスター発表で企業に自分を売り込むチャンス
☑ 女性活躍推進企業の情報を得るチャンス
大学院進学を予定している学群４年生も大歓迎！
<ポスター発表に対するサポート>
作成にあたっての個別相談や印刷はDACセンターがお手伝いします
プログラム
第１部（12:30～）企業によるプレゼンテーション
第２部（13:45～）学生による自己PR(ポスター発表)
第３部（15:20～）企業と学生の交流会（各社ブースにて）
※軽食付き
参加対象
◆第１部・第３部：学群４年生、大学院生（前期・後期）、ポスドク　70名
◆第２部：学群４年生、大学院生（前期・後期）、ポスドク　30名
※事前申込制です。申込時に参加希望の部をお知らせください。
参加企業
産学協働イノベーション人材育成協議会会員企業、ダイバーシティ推進企業（産業技術総合研究所、農研機構など）から10社程度
<産学協働イノベーション人材育成協議会会員企業>　※このなかから複数社参加予定です。
（株）ABEJA、オムロン（株）、花王（株）、京セラ（株）、JNC（株）、シスメックス（株）、（株）島津製作所、清水建設（株）、住友電気工業（株）、住友電装（株）、住友理工（株）、住友林業（株）、ダイキン工業（株）、（株）ダイセル、大日本印刷（株）、（株）竹中工務店、（株）タダノ、DMG森精機（株）、（財）電力中央研究所、東レ（株）、（株）巴川製紙所、日東電工（株）、（株）日本触媒、日本ゼオン（株）、（株）日本総合研究所、日本電信電話（株）、パナソニック（株）、日立化成（株）、日立金属（株）、富士フイルム（株）、（株）堀場製作所、三菱重工業（株）、三菱電機（株）、（株）村田製作所、ヤマハ発動機（株）、楽天（株）、（株）リコー、ロート製薬（株）、ローム（株）、（株）ソニー、産業技術総合研究所、農研機構　など
申込締切　ポスター発表（第２部）　11/5　予約〆切
ポスター発表以外（第１部・３部）　11/21 予約〆切
http://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/
筑波大学キャリアサポート部門・就職課ＨＰ「ガイダンス・模擬試験申請登録」から参加登録
問合せ先：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
電話：029-853-5706　E-mail：career@un.tsukuba.ac.jp

7. LGBT等への対応

筑波大学では、平成27年度よりLGBT等[1]のセクシュアル・マイノリティの学生に対して、これまでの個別対応から、大学として支援の取組を始めました。具体的には下記のような取組を開始しています。

●相談窓口の設置
●授業やセミナー、学内FD等での啓発
●基本理念と対応ガイドラインの作成
●アライグッズの作成　等

とくにトランスジェンダーや性別に違和を持つ学生には、次のような点についてこれまでも対応しています。
○ 氏名の取扱い　○ 名簿等における性別の取扱い
○ 使用トイレ　　○ 健康診断
○ 教育実習やインターンシップ　○ キャリア相談、就職相談など

■授業・セミナー・FD実績

LGBT等に関するテーマを取り扱う授業として、学群総合科目「ワーク・ライフ学　－男女共同参画とダイバーシティ－」（春学期）や学群総合科目「ダイバーシティスタディーズ入門」（秋学期）、大学院共通科目「ダイバーシティと男女共同参画Ⅰ」（夏期集中）を実施しました。

また、平成30年３月に改訂した「LGBT等に関する筑波大学の基本理念と対応ガイドライン」の周知や、LGBT等に関する意識啓発のため、全学FD研修会（６月６日）やシンポジウム（10月26日）のほか、就職課／DACセンター（４月26日）にて講演会を実施しました。また、Diversity Week 2018では、昨年度から引き続き学生企画の意見交換会「Blending Colors 2」を実施したほか、認定NPO法人グッド・エイジング・エールズとの共催で「OUT IN JAPAN @ 筑波大学」を附属中央図書館にて開催しました。さらに学外での活動として、浦安市（５月28日）、筑波技術大学（９月21日）、和光大学（11月１日）、津田塾大学（11月22日）、日本学生相談学会（12月11日）、日本学生支援機構（12月14日）、龍谷大学（12月12日）、全国大学生活協同組合連合会（12月20日）、名古屋市立大学（２月１日）にて本学の取組について講演を行い、積極的な情報発信と情報共有に努めました。

そのほか、日本学生支援機構が12月に公表した「大学等における性的指向・性自認の多様な在り方の理解増進に向けて」の作成に協力しました。

これらの活動について、LGBTに関するダイバーシティ・マネジメントの促進と定着を支援する任意団体work with Prideにより策定された「PRIDE指標2018」において、昨年に引き続きGOLD評価を受賞しました。大学として２年連続での受賞は初めての快挙になりました。

[1] LGBT等とは、Lesbian（レズビアン）・Gay（ゲイ）・Bisexual（バイセクシュアル）・Transgender（トランスジェンダー）及び性別に違和をもつ人を含め、多様なセクシュアリティの人を指しています。

実施報告書

プログラム	筑波大学第２回全学FD研修会
課題名	SOGI（性指向・性自認）/LGBT+と大学
実施日	2018年６月６日（水）15:00～17:00
場所	筑波大学　総合研究棟Ａ　110公開講義室
形式	一般公開・シンポジウム・(セミナー)・講演会・ワークショップ・その他（　　）
対象者	(一般) (研究者) (学生（大学院生）) (その他（　　）)
来場者	人数：79名
内容	五十嵐浩也ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター長の挨拶から始まり、平成30年３月に改定した「対応ガイドライン」についての説明が行われました。その後、基調講演として、三橋順子氏（性社会・文化史研究者／明治大学文学部非常勤講師）をお招きし、「SOGI（性指向・性自認）／LGBT+と大学」と題した講演を行いました。その後、質疑応答があり、稲垣敏之副学長の閉会の挨拶で終了しました。教職員だけではなく、多くの学生の参加があり、質疑応答でも学生からの積極的な発言がありました。また、学外からの参加者やマスメディアの取材も入り、本学の取組に対する関心の高さがうかがえました。

筑波大学第２回全学FD研修会　主催：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター

SOGI（性指向・性自認）/LGBT+と大学

2018年６月６日（水）15時00分～17時00分
筑波大学　総合研究棟A 110公開講義室　※参加費無料

基調講演　「SOGI（性指向・性自認）/LGBT+と大学」

三橋 順子 氏　性社会・文化史研究者／明治大学文学部非常勤講師

1955年埼玉県生まれ。性社会・文化史研究者。明治大学、都留文科大学、関東学院大学非常勤講師。専門は日本におけるジェンダー＆セクシュアリティの歴史、とりわけトランスジェンダー（性別越境）の社会・文化史、買売春の社会史。2000年、中央大学文学部兼任講師として日本初のトランスジェンダーの大学教員となる。2005年には、お茶の水女子大学で日本初の「トランスジェンダー論」の専論講座を担当。著書に『女装と日本人』（講談社現代新書）、共編著に『性欲の研究　東京のエロ地理編』（平凡社）など。主な論文に「性と愛のはざまー近代的ジェンダー・セクシュアリティ観を疑うー」（『講座 日本の思想 第５巻 身と心』岩波書店）など。

15:00～15:20　開会挨拶／ガイドラインの改訂について
　　五十嵐浩也　ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター長
15:20～16:55　基調講演　三橋順子 氏　性社会・文化史研究者／明治大学文学部非常勤講師
16:55～17:00　閉会挨拶　稲垣敏之　副学長（総務・人事担当）

申　込：　下記のWebページにある申し込みフォーム、QRコードにて
締　切：　6月4日（月）当日参加歓迎（会場準備の都合により事前予約をお願いしています）
対象者：　筑波大学教職員、大学院生、大学生、一般の方（学外者は締切までにご登録をお願いします）

★ 会場までのアクセス例（詳細は大学HPにてご確認ください）
つくば駅（つくばセンター）より、バス乗り場６番から「筑波大学中央行き」か「筑波大学循環バス（左回り・右回り）」に乗り「筑波大学中央」で下車。バス停から案内板に従って西へ進んでください

問い合わせ先

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
TEL: 029-853-8504　FAX: 029-853-8505　E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp
URL: http://diversity.tsukuba.ac.jp　または「筑波大学　ダイバーシティ」で検索

申し込みフォームへ！

実施報告書

プログラム	筑波大学第９回全学FD研修会
課題名	いま大学で対応するSOGI（性指向・性自認）/LGBT+
実施日	2018年10月26日（金）13:30～16:00
場所	筑波大学　東京キャンパス　文京校舎 134
形式	一般公開・(シンポジウム)・セミナー・講演会・ワークショップ・その他（　　）
対象者	(一般) (研究者) (学生（大学院生）) (その他（　　）)
来場者	人数：136名
内容	SOGI/LGBT+に関して組織的な対応を実施している先進的な大学４校（早稲田大学、お茶の水女子大学、関西学院大学、大阪府立大学）から取組の中心人物を招き、本学の取組とともに各大学の具体的な支援事例を紹介しました。また、なぜそれらの支援に取り組むのか、各大学の理念も共有することで、SOGI/LGBT+に関する理解を一層深めることにつながりました。パネルディスカッションでは、今後大学間での連携を一層充実させていくことで、個々の大学では解決できない課題に対処が可能となっていくこと、そのためにも何らかの連携体制の必要性が確認されました。

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリア（DAC）センター主催シンポジウム

いま大学で対応する SOGI（性指向・性自認）/LGBT＋

なぜ大学はセクシュアル・マイノリティの支援に取り組むのか？

2018年 10月 26日（金）13時30分～16時00分
筑波大学 東京キャンパス文京校舎 134　※参加費無料
東京都文京区大塚3-29-1（丸ノ内線「茗荷谷駅」出口1より徒歩5分程度）

第一部「各大学の取組の紹介」

河野禎之 氏（筑波大学DACセンター助教）
関口八州男 氏（早稲田大学学生部学生生活課長/GSセンター課長）
三浦 徹 氏（お茶の水女子大学理事・副学長）
武田 丈 氏（関西学院大学人権教育研究室室長/人間福祉学部社会起業学科教授）
田間泰子 氏（大阪府立大学ダイバーシティ研究環境研究所 前所長/地域保健学域教授）

第二部「パネルディスカッション」

モデレーター：土井裕人 氏（筑波大学人文社会系助教）
※16:00～17:00に大学関係者を対象とした情報交換会を予定しています

セクシュアル・マイノリティを巡る課題に対して、組織として取組を進めている大学の事例紹介を通じて、各大学の理念と具体的な支援方法について共有します。そして、なぜ大学がセクシュアル・マイノリティへの支援に取り組むのかについて話し合います。

申　込： 要事前申込み（下記のWebページにある申込みフォーム、QRコードにて）
締　切： 10月22日（月）先着150名
対象者： 大学関係者（学生、教職員）、一般の方　※マスメディアで取材を希望される方は事前に必ずご連絡ください

本シンポジウムは筑波大学第9回全学FD研修会として開催します。
また、筑波キャンパス スチューデントプラザ2F 就職課会議室にて遠隔中継します（事前申込み必須）

問い合わせ先
筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
TEL: 029-853-8504　E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp
URL: http://diversity.tsukuba.ac.jp

申し込みフォームへ！

筑波大学
University of Tsukuba

LGBT+

等*に関する
筑波大学の基本理念と
対応ガイドライン

*LGBT等とは、Lesbian・Gay・Bisexual・Transgender及び他のセクシュアリティを含む総称とします。
これらカテゴリーに直接当てはまらない当事者もいますが、本基本理念とガイドラインにおいては包摂しています。

本基本理念やガイドラインに関してご不明な点、ご要望、ご意見等がありましたら、
下記までお問い合わせ下さい。

Center for Diversity, Accessibility and Career Development
University of Tsukuba

国立大学法人 筑波大学
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（ダイバーシティ）
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1 スチューデントプラザ2階　Tel：029-853-8504
E-mail：diversity@un.tsukuba.ac.jp　https://diversity.tsukuba.ac.jp/

平成29年3月初版
平成30年3月改訂

Printed by ISEBU Co., Ltd.

CONTENTS

04 Ⅰ 筑波大学におけるLGBT等の性自認及び性的指向を理由とした差別の禁止及び解消に関する基本理念
Basic principles on prohibition and resolution of discrimination based on sexual orientation and gender identity of LGBT+ at University of Tsukuba

07 Ⅱ LGBT等に関する概要と本学での支援体制

08 Ⅲ 現状での具体的対応と方針
08 凡例
08 1 相談について
08 ① 相談窓口
09 ② 相談の流れ
09 ③ 学生相談及び保健管理センター（精神科）等との連携
10 2 氏名・性別の情報とその管理について
10 ① 氏名の変更
10 ② 性別の変更
11 ③ 性別情報の取り扱い
12 ④ 大学の発行する証明書の性別記載
12 ⑤ 大学に提出する諸書類における性別情報の記入
13 3 授業について
13 ① 体育実技の履修、更衣室、用具の配慮
13 ② 学外実習（教育実習等）の履修
13 ③ 授業におけるグループ分け
13 ④ 授業等における呼称
14 4 学生生活について
14 ① 定期健康診断
14 ② 学生宿舎
14 ③ 多目的トイレ
14 ④ 入学式・卒業式の服装と身なり
15 5 就職活動・キャリア支援について
15 ① 就職活動・インターンシップへの支援体制
15 ② LGBT等当事者にとっての就職活動
15 ③ 本学におけるLGBT等当事者へのキャリア支援
16 6 周囲の対応、特にカミングアウトについて
16 ① カミングアウトとは
16 ② 自己決定と情報のコントロール
16 ③ カミングアウトとアウティング
17 ④ カミングアウトが必要なときには
17 ⑤ カミングアウトされたときには
17 ⑥ 周囲の対応について

18 Ⅳ 対応項目一覧

21 Ⅴ おわりに

23 付録　ツールボックス
23 (1) 相談の際に
23 (2) 自分を見つめてみる
24 (3) 卒業・修了後の証明書発行における氏名の変更について
24 (4) 学外に提出する書類の性別記載について
24 (5) マイナンバーカードについて
25 (6) 体育の授業における男女別要素について
25 (7) 多目的トイレについて
25 (8) 就職活動の前に
26 (9) 就職活動について：LGBTフレンドリー企業等の指標
26 (10) 自分を偽るというつらさ
27 (11) カミングアウトしない生き方～クロゼット～
27 (12) カミングアウトを強要しないで
28 (13) カミングアウトの前に
28 (14) カミングアウトされたときに
29 (15) メディアや作品により作られるステレオタイプ
29 (16) 当事者を支援したいという方へ

30 巻末資料（相談窓口一覧・LGBT等の相談窓口ポスター）

別冊　ワークシート（CARIO-NEXT Lワークシート群）

※印刷版は1D棟スチューデントプラザ２階のキャビネットで配布しています。電子ファイルは、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（ダイバーシティ）のウェブサイトで公開しています。（https://diversity.tsukuba.ac.jp/）

CARIO-NEXT 活用ガイド

つくば Career Portfolio

CARIO-NEXT Lワークシート

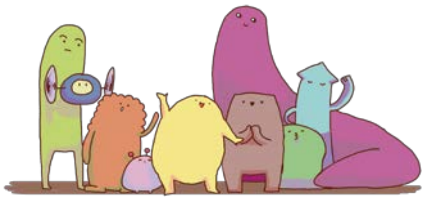
「あなただけの、あなたの強さ。」

CARIO-NEXT Lワークシートとは？

筑波大学はあらゆる面で「開かれた大学」という理念のもと、多様性と柔軟性とを持った新しい教育・研究を目指しています。本来違いを持つ学生及び教職員がすべて尊重されるよう、本学では様々な取り組みを進めてきました。その中で2017年3月に策定されたのが、「LGBT等に関する筑波大学の基本理念と対応ガイドライン」です。

この大学に入学したあなたは、他の誰でもない「あなた」です。どんな人も他の人との「違い」を持っていますが、それは力になることも時にハードルになることもあるでしょう。そこで、もし困難に直面していたら助けとなり、あなたならではの能力が存分に発揮されるよう、CARIOに新しく「CARIO-NEXT」を設けました。その第1弾が、ガイドラインに対応しLGBT等当事者を主な対象とした「Lワークシート」です。

これは、使う人をLGBT等に限定したワークシートではありません。大きな「違い」を持った人に向けたツールだからこそ、そうでない人にも大きな役割を果たしてくれるはずです。



Career Portfolio Worksheet L-11

困っていること整理シート

記入日　年　月　日

このシートは上から順番に書き、必要に応じて複数枚作成します。チェックは複数可で、必要ない事項は記入しません。

(1)この困りごとはどれに関係する？（複数チェック）	(a)	□①性的指向（どういう性を愛するか）　□②性自認（自分はどういう性か） □③社会的な性の表現（服装など）　□④恋愛指向（どういう性に心ときめくか）
	(b)	□①身体的要因　□②性格的要因　□③精神的要因（メンタルなど）
	(c)	□①自分自身に対してで　□②誰か相手との関係で　□③集団や社会との関係で
	(d)	□①自分の気持ちを伝えたいのにうまく伝えられていない □②自分がわからない／整理できない □③適切でない行動をしてしまう　□④行動自体が取れない □⑤自分がどうすればよいかわからない
	(e)	□①相手から意図的に困ったことをされる □②相手は意図していないようだが私には困ることをされる □③相手は善意のつもりで私には困ることをされる □④相手の意図や心がわからない □⑤組織や集団の制度や構造の上で、私が困ることが起きている
	(f)	□①ストレスを感じる　□②恐怖を感じる　□③危険を感じる □④漠然と心配がある　□⑤違和感やモヤモヤしたものを感じる
(2)困っていることの内容は？（キーワードで可）		
(3)いつから？		□①ここ１ヶ月以内　□②ここ半年以内　□③ここ１年以内 □④入学以降（　　年入学）　□⑤高校生以降　□⑥中学生以降　□⑦ずっと □⑧わからない　□⑨その他（　　）
(4)いつまでに解決したい？		□①いま　□②できるだけ早く　□③特には決めないが必要な時に □④一定の時間が経ってから（どんな時？→　　） □⑤その他（　　）
(5)どこまで解決したい？		□①完全に問題が解決するまで　□②問題が概ね解決するまで □③半分程度の解決でもよい　□④多少なりとも解決されればよい □⑤解決に向かえば／問題提起できればよい　□⑥別に解決されなくてもよい □⑦解決する意図は特にない　□⑧よくわからない □⑨その他（　　）
(6)これが関係する人は？		□①友人　□②知人　□③クラスメイトや研究室メンバー　□④家族 □⑤同僚　□⑥指導・担当する学生　□⑦特にいない　□⑧伝えたくはない □⑨その他（　　）
(7)補足、メモ		

© University of Tsukuba All Rights Reserved.

Diversity Week 2018

OUT IN JAPAN @筑波大学

2018年 10月 10日（水）～12日（金）
筑波大学中央図書館 2F 入口すぐ　常設展示

- 認定NPO法人グッド・エイジング・エールズと共催
- プロジェクトを担当した写真家レスリー・キーによる写真のうち、30枚の当事者の写真とメッセージを展示
- 多様なセクシュアリティの当事者の「姿」と「思い」に触れることのできる機会です

問い合わせ先

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
TEL: 029-853-8504　FAX: 029-853-8505　E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp
URL: http://diversity.tsukuba.ac.jp　または「筑波大学　ダイバーシティ」で検索

詳細はこちらから

主催：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
共催：認定NPO法人グッド・エイジング・エールズ

good aging yells

「アライ」とは、英語で「同盟、支援」を意味するallyが語源です。私たちは、LGBT（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー）だけでなく、いわゆるストレートを含む多様なセクシュアリティの存在を認識し、共にいること／在ることを表明する人を、当事者・非当事者を問わず指す言葉として使います。同時にアライは、私たち全てが一人ひとりオリジナルなセクシュアリティを有するかけがえのない存在であることを尊重します。

筑波大学
University of Tsukuba

全ての人を包み込む寛容な光を、
偏見が消える、その日まで

制作：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1丁目1-1
E-mail：diversity@un.tsukuba.ac.jp
協力：NPO法人Ubdobe

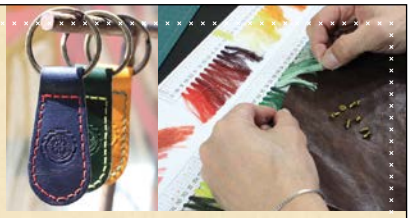
アライシンボルマークが持つ3つの要素

このマークには「太陽」、「波紋」、「紫陽花」の3つのシンボルが描かれています。それぞれに込められた意味を融合しアライシンボルマークが完成しました。

太陽
太陽は全ての生命と色の源であり、あらゆる人々を照らし、世界に彩りを与えます。このマークに描かれた太陽も全ての人々を平等に照らし、多様な輝きを生む光を放ちます。

波紋
水面に小石を投げると綺麗な波紋がゆるやかに広がり、消えていくように、小さな一歩でもセクシュアリティへの偏見を少しずつ消していき、いつしかマイノリティが特別な存在ではなくなるイメージを表現しています

紫陽花
白く潔白な美しさを持った白い紫陽花の花言葉は「寛容」を意味します。ありのままの多様なセクシュアリティについて、自分に対しても他者に対しても寛容であることを表します。



アライシンボル制作者について

このアライシンボルは、筑波大学と学生の協働によって、「アライ」に対する理解や普及を広げるために制作されました。

※アライシンボルをつけていることで、セクシュアル・マイノリティ当事者であるということを表しているわけではありません。

筑波大学
University of Tsukuba

平成３０年１０月１９日

報道関係者各位

国立大学法人　筑波大学

２年連続でPRIDE指標GOLDを受賞

本学のLGBT等に関する取組みが、LGBTに関するダイバーシティ・マネジメントの促進と定着を支援する任意団体 work with Pride（以下、「wwP」という。）により策定された「PRIDE指標2018」において、昨年に引き続きGOLD評価を受賞しました。大学として２年連続での受賞は初めての快挙になります。

本学は、建学の理念である「開かれた大学」を掲げ、様々な属性を持った多様な人材の活躍こそがイノベーションの創出であると強く認識しており、今後も引き続きLGBT等を含むダイバーシティ推進に取り組んでいきます。

work with Pride
wwP Gold 2018

PRIDE指標2018について

2016年にwwPが日本で初めて策定した職場におけるLGBTなどのセクシャル・マイノリティへの取組みに係る評価指標。PRIDE指標2018は、「Policy（行動宣言）」、「Representation（当事者コミュニティ）」、「Inspiration（啓発活動）」、「Development（人事制度・プログラム）」、「Engagement/Empowerment（社会貢献・渉外発動）」の５指標について評価項目を設定し、2017年10月１日～2018年９月30日においての取組みが評価されます。

※指標についての詳細はwwpのホームページをご参照下さい。
http://workwithpride.jp/

本学の取組みの評価について

上記5つの指標では、各指標内に更に詳細に評価項目が設けられている。各指標あたり２項目以上を満たしていれば１点が付与される。本学の取組みは、5つの指標全ての得点を獲得し５点満点としてGOLD評価がされました。

本学の取組みについて

本学では、平成30年３月に「LGBT等に関する筑波大学の基本理念と対応ガイドライン」を改訂・公表しました。この改訂版は他大学から高い評価を受け、その後に策定された複数の大学のガイドラインのロールモデルとなっています。また、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（以下、「DACセンター」という。）と学生との協働により、ダイバーシティ推進に関する意識啓発活動の一環としてアライ・シンボルマークを作成しました。これらのことが評価され、今回の２年連続のGOLD評価受賞につながりました。

○LGPT等に関する筑波大学の基本理念と対応ガイドライン
http://www.tsukuba.ac.jp/wp-content/uploads/lgbt_guidline.pdf

○アライ・シンボルマーク
ここでの「アライ」とは、LGBTだけでなく、いわゆるストレートを含む多様なセクシャリティの存在を認識し、ともにいること／在ることを表明する人を、当事者・非当事者を問わず指しています。そのシンボルマークをDACセンターと学生との協働により2018年３月に作成しました。本シンボルマークはLGBT等に関する意識啓発活動などにおいて活用されています。

作成したアライ・シンボルマーク

8. 他機関・他部局との連携

ダイバーシティ担当では、常に学内外の機関・部局との連携を図りながら活動を展開しています。学内では、他部局が実施する活動への協力やFD研修での情報提供等を行いました。また、学外で開催されるシンポジウム等についても積極的に参加し、講演やポスター展示を実施することで、情報交換とともに積極的な情報発信に努めています。具体的には、下記のような取組を実施しました。

7月17日　ダイバーシティセミナーⅠ：伝わるデザインセミナー（URA研究戦略推進室）
7月20日　第1回女性職員活躍セミナー（組織・職員課）
7月27日　Collaboration Jam（生命環境系）
8月20日　平成30年度中高生理工系進学応援シンポジウム（茨城県）
8月27日　第2回女性職員活躍セミナー（組織・職員課）
9月4日　International Conference on Respectful Childbirth Care：ロビン・リム氏講演（医学医療系）
9月6日　Global Health & Diversity Seminar：外国人女性研究者に優しいお産＆子育て支援（医学医療系）
9月25日　第1回子育てカフェ（DACセンターキャリアサポート担当）
9月22日　TGSW 2018（Tsukuba Global Science Week）シンポジウム「Beyond the border」
9月22日　TIDEシンポジウム研究シーズ交換会（アサヒビール）
9月26日　Faculty Development Seminar 2018：国際学術協定校との教育交流を活かしたモンゴルにおける看護のキャパシティビルディング（医学医療系）
10月10日～12日　ダイバーシティ week（DACセンター）
【10日】パラスポーツ/アダプテッド・スポーツの楽しさを知ろう
（日本財団パラリンピックサポートセンター、学生団体 ADD JUST）（前掲）
【12日】世界の文化に触れる（グローバル・コモンズ機構）（前掲）
【期間中常設展示】「OUT IN JAPAN」写真展・Book Fair @ 中央図書館
（認定NPO法人グッド・エイジング・エールズ）（前掲）
10月24日　イクボスコンペティション・ランチミーティング（システム情報系）
12月1日　つくばミンナのつどい 2018（つくば市）ポスター発表
12月6日　第2回子育てカフェ（DACセンターキャリアサポート担当）
2月13日　イクボスコンペティション表彰式・ランチミーティング（システム情報系）
2月18日　ダイバーシティセミナーⅢ：よりよく伝わるデザインのすすめ（URA研究戦略推進室）
3月8日　2018年度研究成果発表会／2019年度研究テーマ提案会（システム情報系）（前掲）
3月17日　なないろスポーツフェスタ（体育系）

筑波大学とつくば女性研究者支援協議会による女子中高生のリケジョサイエンス合宿の取組

筑波大学 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター

合宿の目的

筑波大学や近隣の研究所、企業で働く女性研究者との交流や実験体験を通じて、

① 女子中高生に理系の魅力を伝え、理系への進路選択の悩みや不安を減らす

② 女子中高生が身近に「リケジョの未来」をイメージできることを目的とする

❖ 平成25年度より６年間継続的に実施*

合宿の概要

- ２泊３日の合宿形式によるプログラム
- 体験型メニューを用意することにより、多彩な理系の魅力を直に伝える（表1）
- 大学生スタッフとの「タテのつながり」を作り、身近なロールモデルを提示する
- 女子中高生同士の「ヨコのつながり」を促し、理系を目指す仲間を作る

1日目	
午後	**ロールモデル紹介**
	16名の女性研究者による、研究や生活との両立に関する話題の紹介
	ラウンドテーブルカフェ（女子中高生）
	16名の女性研究者とグループ単位での座談会による交流
	研究機関/大学と学生のブース展示
	つくば市内の５つの研究機関や大学がブース展示を通して理系の進路について個別相談を実施。また、高校生による研究発表のブースも設置し、現役の研究者との意見交換を実施
夜	**大学生企画の交流会**
	宿泊施設で大学生が企画したゲームを通して参加者と大学生とが交流

2日目	
午前	**サイエンス実験体験（1）**
	多彩な理系分野（数理系、理工系、医学系、情報系等）の13研究室が企画したサイエンス実験を体験
午後	**サイエンス実験体験（2）**
	午前と異なる研究室にて実験を体験
夜	**大学生企画のグループワーク**
	2日間の体験を通じて得たことを大学生とともにグループでまとめ
3日目	
午前	**グループワーク発表と大学生との交流会**
	グループワークの成果を発表。その後合宿を通じての疑問や進学後の生活、受験等について大学生と交流しながら相談

合宿の様子

ロールモデル紹介とラウンドテーブルカフェ

サイエンス実験体験

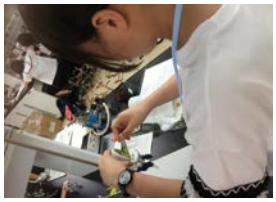
運動栄養学研究室

無機系エネルギー・環境材料研究室

ゲノム情報生物学研究室

作物生産システム学研究室

認知システムデザイン研究室


食品機能化学研究室

光合成・光治療研究室

生産システム工学研究室

施設見学

グループワークと発表

筑波大学 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター

〒305-8577　茨城県つくば市天王台1-1-1　筑波大学スチューデントプラザ2階　E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp
URL: http://diversity.tsukuba.ac.jp　TEL: 029-853-8504　FAX: 029-853-8505

②コラボレーションイベントポスター

筑波大学第15回全学FD研修会

第４回

ダイバーシティセミナー

大学の未来を考える

知識と支援の共同創造

参加費無料

近年、障害や病気の当事者がグループで経験を分かち合い、自身の困りごとを研究対象とする「当事者研究」が注目されています。
第15回全学FD／ダイバーシティセミナーⅣでは、研究の第一人者でご自身も脳性まひの当事者である、小児科医の熊谷晋一郎氏より"当事者が拓く新たな研究領域とそれによって生み出される新たな支援"についてご講演いただきます。
多様化する社会の中で、大学がいかなる組織文化を生み出していけるか、いかなる役割を担えるのか、といった大学の未来についても多くの示唆をいただけるご講演です。
一緒に、ダイバーシティと大学の未来について考えてみませんか？

日時
2019年2月20日（水）
10:30−12:30
定員 先着100名
対象 筑波大学の教職員、研究員、院生、学類生、つくば女性研究者支援協議会関係者、関連機関の方
会場 筑波大学大学会館特別会議室
（茨城県つくば市天王台1−1−1）

講師：熊谷晋一郎 先生
（東京大学 先端科学技術研究センター准教授
東京大学バリアフリー支援室長）

1977年山口県生まれ。新生児仮死の後遺症で、脳性まひに。以後患いすでの生活となる。東京大学医学部医学科卒業後、千葉西病院小児科、埼玉医科大学小児心臓科での勤務、東京大学大学院医学系研究科博士課程での研究生活を経て、現職。主な著作に、『リハビリの夜』（医学書院、2009年）、共著『当事者研究』（医学書院、2008年）、共著『つながりの作法』（NHK出版、2010年）、共著『傷みの哲学』（青土社、2013年）、編著『みんなの当事者研究』（金剛出版、2017年）、編著『当事者研究と専門知』（金剛出版、2018年）など。

お問い合わせ・お申し込みは
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ担当
URL https://diversity.tsukuba.ac.jp/ MAIL diversity@un.tsukuba.ac.jp
TEL：029-853-6418

お申込みはこちらから

平成30年度 女性職員活躍セミナー

＜日時＞
1回目 平成30年7月20日（金） 10:30〜12:10
2回目 平成30年8月27日（月） 13:30〜15:10
※第1回と第2回の内容は同じです。

＜場所＞
本部アネックス棟1階会議室1〜3
※テレビ会議システムの接続は第2回（8/27）のみ
（東京キャンパス文京校舎 337会議室）

＜対象者＞
事務系女性職員（年俸制職員、非常勤職員を除く）
※各回40名程度 ※事前申込制

＜内容＞
●ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター長挨拶
●講話「管理職・魅力と面白さ」
施設部 齋藤 禎美 部長
●管理職との交流 ※管理職 5〜6名
（グループに分かれて意見交換：2セッション）
●全体共有

＜問い合わせ先＞
学生部就職課／ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
TEL： 029-853-5706
Email： dac_office@un.tsukuba.ac.jp

事務職員向け ランチ持参

ランチ懇談会

申込不要！

平成29年度女性職員活躍セミナーで実施したアンケート結果から、「仕事と育児や介護等の両立などワークライフバランス」に関する意見も多かったことから、今回は、悩みの共有、年齢や役職を越えた職場内でのネットワークの形成などを目的に、事務職員向けのランチ懇談会を開催いたします。ぜひご参加ください。

◆対象者：事務職員（常勤職員・非常勤職員問わず）、男女問わず

第１回 キックオフ！ 途中入退室OK！
日時：平成30年9月7日（金） 12:25〜13:05
場所：就職課会議室（スチューデントプラザ2階）

第２回
日時：平成30年10月18日（木）12:25〜13:05
場所：就職課会議室（スチューデントプラザ2階）
※育児や介護に関する制度説明の予定です。

育児中の職員とのつながりが欲しい。
ベビーシッター券は利用できる？
部署や年齢を超えた先輩方からの経験談を聞きたい！
介護中の職員とのつながりが欲しい。
イクメン仲間募集！
制度を知りたい！

＜問い合わせ先＞
学生部就職課／ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
TEL： 029-853-5706
Email： dac_office@un.tsukuba.ac.jp

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
Tel：029-853-6418 Mail：diversity@un.tsukubai.ac.jp HP：https://diversity.tsukuba.ac.jp/wordpress2017/
平成28年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業（ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型））

第１回 —研究者のための—

子育てカフェ Parenting cafe

育児に携わっている教員・研究者等で子育てに関する情報の共有、育児の疑問や不安を解消できる場として開催します！

どなたでも安心して何でも話し合える場です お誘いあわせの上 皆様のご参加をお待ちしております

9月25日（火）
11：45〜12：45
参加費無料
お茶菓子をご用意します。ランチ持参可能。

場所：１A棟２階
スチューデント・コモンズ
対象：育児に携わっている（今後携わる予定の）教員・研究者
興味関心のある方々、老若男女問わず大歓迎です

第２回はゲスト参加予定！育児スペース９月中旬オープン予定！
詳細が決定次第HPにてご案内いたします♪

お申込みはこちらから（当日参加も可能です）>>>

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
Tel：029-853-6418 Mail：diversity@un.tsukubai.ac.jp HP：https://diversity.tsukuba.ac.jp/wordpress2017/
平成28年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」
—研究者のための—
第2回
子育てカフェ
Parenting cafe
育休後の働き方を考える
~当事者・同僚・上司・組織がそれぞれできること~
講師　山口 理栄 氏（育休後コンサルタント、本学OG）
両立に関する最近の動向を知り、それぞれの立場から育休後の仕事で気を付けることを学ぶことで、一人ひとりのキャリアや人材育成について一緒に考えてみませんか？
今回は講師の方をお招きします。お誘いあわせの上ご参加ください♪
12月3日（月）
11：30～13：30
参加費無料
場所：総合交流会館ラウンジ（筑波大学会館内）
対象：子育てと仕事の両立に関して興味関心のある教職員
子育て中の部下がいる管理職の方など
備考：出入り自由、昼食持参OK
お申込みはこちらから（当日参加も可能です）>>>

システム情報系若手融合研究プロジェクト
2018年度研究成果発表会・
2019年度研究テーマ提案会
プログラム
1. 系長あいさつ　加藤和彦　系長
2. 2018年度研究成果発表会（各テーマ15分程度）
[継続課題]
(1)今倉暁　保国恵一　高安亮紀
「精度保証および耐障害技術に基づく周回積分型固有値解法のリスク回避」
(2)新宅勇一　高橋徹　高安亮紀
「高性能・高寿命モータの開発のための総合評価シミュレーション」
(3)山口友之　八十島章　澁谷長史
「コンクリート構造物の統合的な安全性診断技術の研究」
(4)川崎真弘　安東弘泰　合原一究　善甫啓一　前田祐佳
「脳磁気刺激を用いたマインドフルネス誘発システムの開発ー生理学、数理モデル、情報工学の融合アプローチー」
[新規課題]
(5) 伊達央　山本亨輔　澁谷長史
「モンテカルロモデル予測制御によるレシリエントな制御」
(6)佐野幸恵　橋本悠希　Tran Lam Anh Duong
「乳幼児の活動量を測定するウェアラブルデバイスの開発」
3. 2019年度研究テーマ提案会（各テーマ15分程度）
2019年
3月8日（金）
15:00-18:00
総合研究棟 B112
対象:本学教職員、学生、一般学外者
協賛:ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
ダイバーシティ部門
当日はお茶菓子をご用意しております。
本企画はダイバーシティ推進に賛同し、女性教員・女性研究者(院生含む)のネットワークづくりをかねております。
本件連絡先:システム情報系 URA 室谷
muroya.wakana.gb@un.tsukuba.ac.jp 内線(6078)

International Conference
on Respectful Childbirth Care
『現代のマザーテレサ』ロビン・リム氏　初来日
日本語通訳あり
日時　2018年9月4日（火）13:00-16:00
場所　筑波大学東京キャンパス文京校舎134
事前登録　下記URLあるいはQRコードよりお願いします（予約優先、当日参加可）
第1部：基調講演
女性が大切にされる出産ケア ～人権としての医療～
Respectful Childbirth Care, as a Human Right　ロビン・リム氏（ブミ・セハット国際助産院・院長）
第2部：パネルディスカッション
WHO新ガイドライン『肯定的な出産体験のための分娩期ケア』を実現するために
森臨太郎氏（国立成育医療センター研究所・政策科学研究部長）
ロビン・リム氏（ブミ・セハット国際助産院・院長）
ダヴァツェレン・ムンヘツェツェゲ氏（モンゴル国立医科大学・産婦人科学科長）
チュナガスレン・バダマハンダ氏（アムガラン産科病院・助産師長）
グェン・タァオ・クェン氏（ホーチミン市医科薬科大学・助産学講師）
事前登録URL：http://www.kokuchpro.com/event/robintsukubo/
交通案内　丸ノ内線茗荷谷駅下車「出口1」徒歩3分程度　（住所　〒112-0012　東京都文京区大塚3-29-1）
主催　筑波大学医学群看護学類＆大学院人間総合科学研究科看護科学専攻
共催　一般社団法人アースカンパニー、ドゥーラシップジャパン
後援　筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
事務局　筑波大学国際看護学教室　メール　tsukuba.ghn@gmail.com
EARTH COMPANY
筑波大学 University of Tsukuba

筑波大学生命環境系
Faculty of Life and Environmental Sciences University of Tsukuba
Collaboration Jam
2018年7月27日（金）
15:00 - 17:00 @ 2C204
生命環境以外の方でもご参加いただけます
今回のSDG
15 陸の豊かさも守ろう
生物圏資源科学専攻
石賀康博先生
植物ー微生物相互作用
X
国際地縁技術開発科学専攻
山下祐司先生
粘土腐植複合体
お問い合わせ
生命環境系URA　大村・高田
seimei-ura@ml.cc.tsukuba.ac.jp
協賛

筑波大学 University of Tsukuba

Faculty Development Seminar 2018

国際学術協定校との学術教育交流を活かした モンゴルにおける 看護のキャパシティビルディング

第1部：基調講演

ボローチメグ・ムンクバーター
モンゴル国立医科大学看護学部教員

第2部：パネルディスカッション
「モンゴルでの学術交流から得てきた女性研究者のコラボレーションへの期待」

橋爪祐美・小澤典子
筑波大学大学院人間総合科学研究科教員
籠島政江
筑波大学大学院人間総合科学研究科博士課程

その後、茶話会があります　ご参加ください！

日時：2018年9月26日（水）14:00-15:30

会場：筑波大学 医学キャンパス
共同利用棟B 103号室

参加無料 事前登録不要
どなたでもお越しください

ファシリテーター：竹熊カツマタ麻子（筑波大学医学医療系教授）

主催：筑波大学医学医療系国際看護学研究室
後援：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
事務局：カツマタ（asakotk@md.tsukuba.ac.jp）

茨城県 × 筑波大学 University of Tsukuba
平成30年度女子中高生の理系進路選択支援プログラム

中高生理工系進学応援シンポジウム と リケジョサイエンス合宿 に参加しませんか

女子中高生が多様な理系分野の魅力を知り、体験できるプログラムとして「中高生理工系進学応援シンポジウム」と「リケジョサイエンス合宿」を開催します。
初日のシンポジウムは男女問わず合宿に参加しない方も含めて広く参加者を募ります。理系に興味がある方、進路を決めかねている方、ご参加お待ちしております。

日時　平成30年 8月20日(月) 12:00 ～ 22日(水) 12:00
場所　筑波大学 メイン会場：大学会館ホール他

2泊3日「サイエンス」環境にたっぷりと浸りながら、仲間や先輩たちとさまざまな企画に参加できるプログラムです！

中高生理工系進学応援シンポジウム　8/20

女子・男子・保護者／当日参加可
参加無料　募集人数 200名

◆基調講演　山口 香（筑波大学教授）
◆ロールモデル紹介
世界で活躍する女性研究者（ロールモデル）の経歴や取り組んでいる研究を紹介します。
◆企業や研究機関、大学による展示ブース
企業や研究機関、大学の研究開発や研究職のキャリアに関する展示ブースです。誰でも自由に参加し、交流することができます。
◆中高生による研究発表ブース
中高生の日頃の研究成果を展示するブースです。大学や企業、研究機関の研究者や大学生からさまざまなコメントをもらったり、交流することができます。

女子のみ／事前登録制
ラウンドテーブルカフェ
グループに分かれ、女性研究者を囲んで自由に交流できます。

リケジョサイエンス合宿　8/20 8/21 8/22

女子のみ／事前登録制
募集人数 100名　応募者多数の場合抽選で決定

◆サイエンス実験体験
筑波大学の理系分野の研究室における科学実験を体験します。
◆宿泊交流
女子大学生スタッフ主催によるゲームや、グループワークで交流します。
◆グループワーク発表と学生交流会
グループワークの発表会と学生スタッフとの交流会を行います。

宿泊先　筑波山ホテル青木屋
宿泊費　16,000円
・宿泊費・朝夕食費込
・参加確定後、ホテルへ直接支払い願います
・筑波大学までの交通費は自己負担となります
・同伴者 20 名程度も参加できます

申込締め切り：平成30年7月18日（水）

主催　茨城県・筑波大学
後援　つくば女性研究者支援協議会

詳細は裏面へ！

平成30年度 大学院共通科目【01ZZ503】
科目名「ダイバーシティと男女共同参画 I」

学群生も参加歓迎！
※学群生の参加の場合は単位は出ません。

ダイバーシティ × ジェンダー

さまざまな可能性（多様性）の中で
働くこと、生きることを知ろう！

9月19日（水）10時～17時30分 @3B棟213
＜前半＞
ワークライフバランスと男女共同参画、ダイバーシティを理解するための講義とグループワークを中心に実施します。
＜後半＞
特に重要なテーマであるセクシュアル・マイノリティ（LGBT/SOGI）に関する講義とグループワークを実施します。

9月22日（土曜）10時～12時@つくば国際会議場
つくば国際会議場で開催される Tsukuba Global Science Week（TGSW2018）のセッションのうち、ダイバーシティ推進をテーマとしたセッションを聴講します。

9月22日（土曜）14時～17時30分@3B棟213
聴講した内容を踏まえ、ダイバーシティ推進に関するグループワークを実施します。

履修登録期間：9月13日(木)まで　担当教員：河野禎之（DACセンター）
履修の問い合わせ：大学院共通科目事務室　ggec@un.tsukuba.ac.jp
★ 学群生の受講希望も上記共通科目事務室にお問い合わせ下さい。
★ 大学院共通科目の単位履修のためには２日間全ての出席を前提とします。
「筑波大学　ダイバーシティ」で検索　または　http://diversity.tsukuba.ac.jp/

平成30年度 大学院共通科目【01ZZ520】
ダイバーシティと男女共同参画 II

ダイバーシティ × ワークライフバランス

学群生も参加歓迎！
セミナーのみ参加も可！

さまざまな違いを価値に変え、
新たな可能性を拓こう！

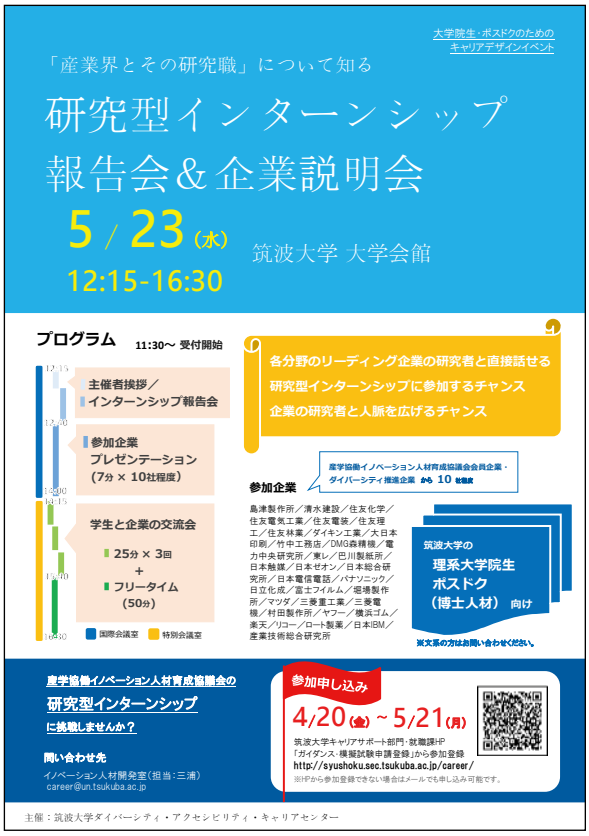
※要事前申し込み。詳しくは下記参照。なお、学群生及びセミナーのみの参加の場合は単位は出ません。

2月18日（月）10時～17時 @大学会館 マルチメディアルーム
ワークライフバランスと男女共同参画、ダイバーシティの基礎を理解するための講義とグループワーク1

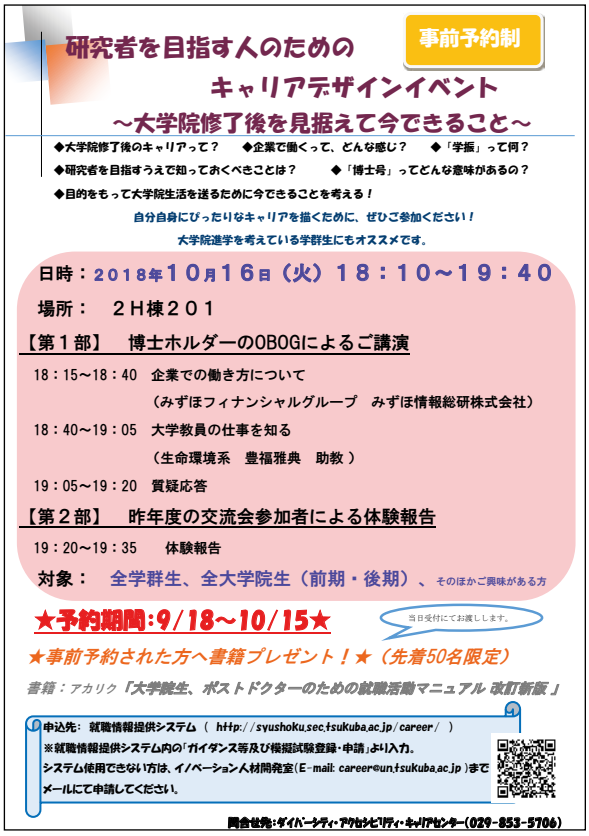
2月19日（火）10時～14時 @大学会館 マルチメディアルーム
ワークライフバランスと男女共同参画、ダイバーシティの基礎を理解するための講義とグループワーク2

2月20日（水）10時30分～12時 @大学会館3F 特別会議室
＜セミナー＞
講師：熊谷 晋一郎 氏
（東京大学先端科学技術研究センター 准教授
東京大学バリアフリー支援室長）
「知識と支援の共同創造」

履修登録期間：2月14日(木)まで　担当：秋保さやか（DACセンター）
履修の問い合わせ：大学院共通科目事務室　ggec@un.tsukuba.ac.jp
★ 学群生の受講希望やセミナーのみの参加希望はダイバーシティ担当 HPより事前申し込みをお願いします。
★ 大学院共通科目の単位履修のためには3日間の出席を前提とします。
「筑波大学　ダイバーシティ」で検索　または　http://diversity.tsukuba.ac.jp/


大学院生・ポスドクのための
キャリアデザインイベント
「産業界とその研究職」について知る
研究型インターンシップ
報告会＆企業説明会
5 / 23 (水)
筑波大学 大学会館
12:15-16:30
プログラム
11:30～ 受付開始
主催者挨拶／
インターンシップ報告会
参加企業
プレゼンテーション
(7分 × 10社程度)
学生と企業の交流会
25分 × 3回
＋
フリータイム
(50分)
国際会議室
特別会議室
各分野のリーディング企業の研究者と直接話せる
研究型インターンシップに参加するチャンス
企業の研究者と人脈を広げるチャンス
参加企業
産学協働イノベーション人材育成協議会会員企業・
ダイバーシティ推進企業 から 10 社程度
島津製作所／清水建設／住友化学／
住友電気工業／住友電装／住友理
工／住友林業／ダイキン工業／大日本
印刷／竹中工務店／DMG森精機／電
力中央研究所／東レ／巴川製紙所／
日本触媒／日本ゼオン／日本総合研
究所／日本電信電話／パナソニック／
日立化成／富士フイルム／堀場製作
所／マツダ／三菱重工業／三菱電
機／村田製作所／ヤフー／横浜ゴム／
楽天／リコー／ロート製薬／日本IBM／
産業技術総合研究所
筑波大学の
理系大学院生
ポスドク
(博士人材) 向け
※文系の方はお問い合わせください。
産学協働イノベーション人材育成協議会の
研究型インターンシップ
に挑戦しませんか？
問い合わせ先
イノベーション人材開発室(担当：三浦)
career@un.tsukuba.ac.jp
参加申し込み
4/20(金) ～ 5/21(月)
筑波大学キャリアサポート部門・就職課HP
「ガイダンス・模擬試験申請登録」から参加登録
http://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/
※HPから参加登録できない場合はメールでも申し込み可能です。
主催：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター

参加費
無料！！
各日
先着２０名様
限定！
両コース
参加可能！
企業訪問会　バスツアー
～企業や研究内容のリアルを知るチャンス！！～
企業や研究機関を訪問し、仕事内容や研究内容、またインターンシップ情報
などを、直接社員や研究員の方から聞くことができます。
昨年度から実施し、このバスツアーをきっかけに、インターンシップや就職
活動につながった参加者もいます。
自身の視野を広げ、企業や研究所のリアルを知る絶好のチャンスです！
日時：　６月２１日（木）８：４５～（８：３５集合）
※１７：４５頃筑波大学到着予定
訪問先：
〈午前〉国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
（農研機構）
〈午後〉日立化成株式会社　（下館事業所（五所宮））
※日立化成にて昼食予定。昼食代実費負担。
集合：　筑波大学本部棟　（貸切バスで移動）
対象：　理系大学院生、ポスドク　※文系学生はお問い合わせください。
日時：　６月２６日（火）９：４０～（９：３０集合）
※１６：３０頃筑波大学到着予定
訪問先：
〈午前〉ＮＴＴｱｸｾｽｻｰﾋﾞｽｼｽﾃﾑ研究所（筑波研究開発センタ）
〈午後〉一般財団法人電力中央研究所　（我孫子地区）
※電中研にて昼食予定。昼食代実費負担。
集合：　筑波大学本部棟　（貸切バスで移動）
対象：　理系大学院生、ポスドク　※文系学生はお問い合わせください。
※詳しい行程は、申し込み後ご連絡いたします。
▼申し込み方法
筑波大学キャリアサポート部門・就職課HP
「ガイダンス・模擬試験申請登録」から参加登録
http://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career
※募集期間　5/22(火)～6/12(火)
※バス及び研究所の定員の関係で両日ともに先着20名まで。
※訪問する企業は産学協働イノベーション人材育成協議会
及びつくば女性研究者支援協議会に登録しています。
問合せ先：筑波大学 ﾀﾞｲﾊﾞｰｼﾃｨ・ｱｸｾｼﾋﾞﾘﾃｨ・ｷｬﾘｱｾﾝﾀｰ（担当：三浦・大園）
電話：029-853-8503　E-mail：career@un.tsukuba.ac.jp


研究者を目指す人のための
キャリアデザインイベント
事前予約制
～大学院修了後を見据えて今できること～
◆大学院修了後のキャリアって？　◆企業で働くって、どんな感じ？　◆「学振」って何？
◆研究者を目指すうえで知っておくべきことは？　◆「博士号」ってどんな意味があるの？
◆目的をもって大学院生活を送るために今できることを考える！
自分自身にぴったりなキャリアを描くために、ぜひご参加ください！
大学院進学を考えている学群生にもオススメです。
日時：2018年10月16日（火）18：10～19：40
場所：　２Ｈ棟２０１
【第１部】　博士ホルダーのOBOGによるご講演
18：15～18：40　企業での働き方について
（みずほフィナンシャルグループ　みずほ情報総研株式会社）
18：40～19：05　大学教員の仕事を知る
（生命環境系　豊福雅典　助教）
19：05～19：20　質疑応答
【第２部】　昨年度の交流会参加者による体験報告
19：20～19：35　体験報告
対象：　全学群生、全大学院生（前期・後期）、そのほかご興味がある方
★予約期間:9/18～10/15★
当日受付にてお渡しします。
★事前予約された方へ書籍プレゼント！★（先着50名限定）
書籍：アカリク『大学院生、ポスドクターのための就職活動マニュアル 改訂新版』
申込先：就職情報提供システム（ http://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/ ）
※就職情報提供システム内の「ガイダンス等及び模擬試験登録・申請」より入力。
システム使用できない方は、イノベーション人材開発室（E-mail: career@un.tsukuba.ac.jp ）まで
メールにて申請してください。
問合せ先：ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（029-853-5706）

自らの手で
チャンスをつかんでみませんか？
参加者
募集中！
大学院生・若手博士人材と
企業との交流会
2018年 11月 28日（水） 12:30～16:45
会場：オークラフロンティアホテルつくば
産業界や自分自身について知る絶好のチャンスです！
☑ 各分野のリーディング企業の研究者や人事担当者と直接話すチャンス
☑ インターンシップに参加するチャンス
☑ ポスター制作過程において自己理解を深めるチャンス
（DACセンターが万全の体制でポスター制作をサポート！）
☑ ポスター発表で企業に自分を売り込むチャンス
☑ 女性活躍推進企業の情報を得るチャンス
大学院進学を
予定している
学群４年生も
大歓迎！
<ポスター発表に対するサポート>
作成にあたっての個別相談や
印刷はDACセンターが
お手伝いします
プログラム
第１部（12:30～）企業によるプレゼンテーション
第２部（13:45～）学生による自己PR(ポスター発表)
第３部（15:20～）企業と学生の交流会（各社ブースにて）
※軽食付き
参加対象
◆第１部・第３部：学群４年生、大学院生（前期・後期）、ポスドク　70名
◆第２部：学群４年生、大学院生（前期・後期）、ポスドク　30名
※事前申込制です。申込時に参加希望の部をお知らせください。
参加企業
産学協働イノベーション人材育成協議会会員企業、ダイバーシティ推進企業（産業技術総合研究所、農研機構など）から10社程度
<産学協働イノベーション人材育成協議会会員企業>　※このなかから複数社参加予定です。
（株）ABEJA、オムロン（株）、花王（株）、京セラ（株）、JNC（株）、シスメックス（株）、（株）島津製作所、
清水建設（株）、住友電気工業（株）、住友電装（株）、住友理工（株）、住友林業（株）、ダイキン工業（株）、
（株）ダイセル、大日本印刷（株）、（株）竹中工務店、（株）タダノ、DMG森精機（株）、（財）電力中央研究所、
東レ（株）、（株）巴川製紙所、日東電工（株）、（株）日本触媒、日本ゼオン（株）、（株）日本総合研究所、
日本電信電話（株）、パナソニック（株）、日立化成（株）、日立金属（株）、富士フイルム（株）、
（株）堀場製作所、三菱重工業（株）、三菱電機（株）、（株）村田製作所、ヤマハ発動機（株）、楽天（株）、
（株）リコー、ロート製薬（株）、ローム（株）、（株）ソニー、産業技術総合研究所、農研機構　など
申込締切　ポスター発表（第２部）　11/5　予約〆切
ポスター発表以外（第１部・３部）　11/21 予約〆切
http://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/
筑波大学キャリアサポート部門・就職課ＨＰ「ガイダンス・模擬試験申請登録」から参加登録
問合せ先：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
電話：029-853-5706　E-mail：career@un.tsukuba.ac.jp

筑波大学第２回全学FD研修会　主催：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター

SOGI（性指向・性自認）/LGBT+と大学

2018年６月６日（水）15時00分～17時00分
筑波大学　総合研究棟A 110公開講義室　※参加費無料

基調講演　「SOGI（性指向・性自認）/LGBT+と大学」

三橋 順子 氏　性社会・文化史研究者／明治大学文学部非常勤講師

1955年埼玉県生まれ。性社会・文化史研究者。明治大学、都留文科大学、関東学院大学非常勤講師。専門は日本におけるジェンダー＆セクシュアリティの歴史、とりわけトランスジェンダー（性別越境）の社会・文化史、買売春の社会史。2000年、中央大学文学部兼任講師として日本初のトランスジェンダーの大学教員となる。2005年には、お茶の水女子大学で日本初の「トランスジェンダー論」の専論講座を担当。著書に『女装と日本人』（講談社現代新書）、共編著に『性欲の研究　東京のエロ地理編』（平凡社）など。主な論文に「性と愛のはざま―近代的ジェンダー・セクシュアリティ観を疑う―」（『講座 日本の思想 第５巻 身と心』岩波書店）など。

15:00～15:20　開会挨拶／ガイドラインの改訂について
五十嵐浩也　ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター長
15:20～16:55　基調講演　三橋順子 氏　性社会・文化史研究者／明治大学文学部非常勤講師
16:55～17:00　閉会挨拶　稲垣敏之　副学長（総務・人事担当）

申　込：　下記のWebページにある申し込みフォーム、QRコードにて
締　切：　6月4日（月）当日参加歓迎（会場準備の都合により事前予約をお願いしています）
対象者：　筑波大学教職員、大学院生、大学生、一般の方（学外者は締切までにご登録をお願いします）

★会場までのアクセス例（詳細は大学HPにてご確認ください）
つくば駅（つくばセンター）より、バス乗り場６番から「筑波大学中央行き」か「筑波大学循環バス（左回り・右回り）」に乗り「筑波大学中央」で下車。バス停から案内板に従って西へ進んでください

問い合わせ先
筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
TEL: 029-853-8504　FAX: 029-853-8505　E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp
URL: http://diversity.tsukuba.ac.jp　または「筑波大学　ダイバーシティ」で検索

申し込みフォームへ！

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（DAC）センター主催シンポジウム

いま大学で対応する SOGI（性指向・性自認）/LGBT+

なぜ大学はセクシュアル・マイノリティの支援に取り組むのか？

2018年 10月 26日（金）13時30分～16時00分
筑波大学 東京キャンパス文京校舎 134　※参加費無料
東京都文京区大塚3-29-1（丸ノ内線「茗荷谷駅」出口1より徒歩5分程度）

第一部「各大学の取組の紹介」
河野禎之 氏（筑波大学DACセンター助教）
関口八州男 氏（早稲田大学学生部学生生活課長/GSセンター課長）
三浦 徹 氏（お茶の水女子大学理事・副学長）
武田 丈 氏（関西学院大学人権教育研究室室長/人間福祉学部社会起業学科教授）
田間泰子 氏（大阪府立大学ダイバーシティ研究環境研究所 前所長/地域保健学域教授）

第二部「パネルディスカッション」
モデレーター：土井裕人 氏（筑波大学人文社会系助教）
※16:00～17:00に大学関係者を対象とした情報交換会を予定しています

セクシュアル・マイノリティを巡る課題に対して、組織として取組を進めている大学の事例紹介を通じて、各大学の理念と具体的な支援方法について共有します。そして、なぜ大学がセクシュアル・マイノリティへの支援に取り組むのかについて話し合います。

申　込：　要事前申込み（下記のWebページにある申込みフォーム、QRコードにて）
締　切：　10月22日（月）先着150名
対象者：　大学関係者（学生、教職員）、一般の方　※マスメディアで取材を希望される方は事前に必ずご連絡ください

本シンポジウムは筑波大学第9回全学FD研修会として開催します。
また、筑波キャンパス スチューデントプラザ2F 就職課会議室にて遠隔中継します（事前申込み必須）

問い合わせ先
筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
TEL: 029-853-8504　E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp
URL: http://diversity.tsukuba.ac.jp

申し込みフォームへ！

Diversity Week 2018

OUT IN JAPAN @筑波大学

2018年 10月 10日（水）～12日（金）
筑波大学中央図書館 2F 入口すぐ　常設展示

- 認定NPO法人グッド・エイジング・エールズと共催
- プロジェクトを担当した写真家レスリー・キーによる写真のうち、30枚の当事者の写真とメッセージを展示
- 多様なセクシュアリティの当事者の「姿」と「思い」に触れることのできる機会です

問い合わせ先
筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
TEL: 029-853-8504　FAX: 029-853-8505　E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp
URL: http://diversity.tsukuba.ac.jp　または「筑波大学　ダイバーシティ」で検索

詳細はこちらから

主催：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
共催：認定NPO法人グッド・エイジング・エールズ

good aging yells

筑波大学 University of Tsukuba

Diversity Week 2018
～多様性がひらく未来～

ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターでは、学生・教職員との協働により多様性を受け入れる共生キャンパスを目指し、ダイバーシティ関連イベントを開催します。

全企画 申込不要 入場無料

期　間　10/10(水) ～12(金)

【時間】11:25～13:00 ※途中入退出自由
【場所】筑波大学1A棟２階 スチューデント・コモンズ

知ってほしい！身近なDiversity

10/10(水)　パラスポーツ/アダプテッド・スポーツの楽しさを知ろう
共催：日本財団パラリンピックサポートセンター　ADD JUST（学生団体）

10/11(木)　「来て・見て・触って　障害学生支援」

10/12(金)　「世界の文化に触れる」“Sharing the World Culture”
共催：グローバル・コモンズ機構

10/10(水)、11(木)
東京2020オリンピック・パラリンピックのボランティアに興味のある方！
上記イベント中に大会ボランティアに関する説明会及び授業科目「障害者スポーツボランティア実践講座」のご案内を行います。興味がある方は、是非イベントへご参加下さい！

※期間中 常設展示
中央図書館でもイベントを開催！
・「OUT IN JAPAN」写真展
・「BOOK FAIR」
（場所：中央図書館）

10/10(水) 15:15～16:30（場所：1D棟201）
※途中入退出自由
WOWOW上映会　パラリンピック・ドキュメンタリーシリーズ
「WHO I AM -これが自分だ！という輝き-」
アスリートたちの迫力ある映像とともに、番組制作プロデューサーが“ここでしか聞けない”取材秘話も紹介してくれます！
共催：WOWOW

【主催】筑波大学 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
【問い合わせ先】TEL：029-853-5948　E-mail：dac_office@un.tsukuba.ac.jp　HP：http://dac.tsukuba.ac.jp/

筑波大学エクステンションプログラム
筑波大学
University of Tsukuba
講座のご案内
～障害者スポーツボランティアとビジネスリーダーから学ぶ～
ダイバーシティ&
インクルージョン集中講座
近年ますます注目の高まるダイバーシティ・マネジメントについて、これまで先進的な研究・取り組みを行ってきた筑波大学を中心とするアカデミックと、様々な企業・業界で磨かれた実践知の双方の視点からの学びの機会を提供します。
「ダイバーシティ＆インクルージョン」に関する基礎から、企業における実践事例まで、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に伴いクローズアップされる障害者スポーツボランティアへの関わりとともに学ぶプログラムとして開講します。
2018年 10月2日(火)/10月23日(火)/11月6日(火)
全5日間 11月21日(水)/12月6日(木)
開催場所：筑波大学東京キャンパス文京校舎
本講座の受講を通じて日本スポーツボランティアネットワーク認定の「スポーツボランティア・リーダー」資格が取得できます。今後スポーツイベント等に関わる企業ボランティア実践の中核となるご担当者様の受講をお待ちしております。
落合 陽一 准教授 筑波大学図書館情報メディア系准教授・学長補佐
メディアアーティスト、博士(学際情報学)、2015年東京大学博士課程修了、2015年より筑波大学図書館情報メディア系助教
デジタルネイチャー研究室主宰、2017年12月「デジタルネイチャー推進戦略研究基盤」を筑波大学内に設立、准教授として着任。
専門はCGH、HCI、VR、視覚聴覚触覚ディスプレイ、デジタルファブリケーション。
大日方邦子 氏
平昌2018パラリンピック冬季
競技大会 日本代表選手団 団長
麓幸子 氏
日経BP社 日経BP総研フェロー
日経ウーマン元編集長
山口 香 教授
筑波大学 体育系
五十嵐浩也 教授
筑波大学 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター長
受講対象者: 企業における人事・ダイバーシティ推進担当者、オリンピック・パラリンピック関連担当者、ダイバーシティ・マネジメントに関心のある方
受講人数: 定員50名 先着順（最少催行人数：15名）
受講費用: 50,000円(税込) ※スポーツボランティアリーダーのライセンス取得代(4,500円)を含む
申込み方法・期限: 筑波大学エクステンションプログラムHPより：2018年9月25日(火)まで
主 催：国立大学法人 筑波大学
事務局：筑波大学エクステンションプログラム
～障害者スポーツボランティアとビジネスリーダーから学ぶ～
ダイバーシティ＆インクルージョン集中講座
お申し込みHP・お問い合わせはメールにて
http://extention.sec.tsukuba.ac.jp
ext_pro16@un.tsukuba.ac.jp

筑波大学
University of Tsukuba
Diversity
Global Health & Diversity Seminar
外国人女性研究者に優しい
お産＆子育て支援
グェン・タァオ・クェン氏
ホーチミン市医科薬科大学・助産学講師
ディン・ティ・フォン・トラ氏
筑波大学生命科学動物資源センター・研究員
玉置利香氏
アイナ助産院・助産師
藤田美貴子氏&朝岡和名氏
ホームスタートつくば
オーガナイザー&ホームビジター
日時 2018年9月6日（木）14:00-16:00
会場：筑波大学 医学キャンパス 臨床講義室A
Access: http://www.tsukuba.ac.jp/access/gmap/gmap.php?i=202020
参加無料 事前登録不要 どなたでもお越しください
日本語通訳付き
ファシリテーター：杉本 敬子（筑波大学医学医療系助教）
主催：筑波大学医学医療系国際看護学研究室
共催：筑波大学人間総合科学研究科看護科学専攻&医学群看護学類、ウィメンズヘルス看護学・助産学NPO法人kosodate はぐはぐ
後援：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
事務局：杉本 (ksugim3@md.tsukuba.ac.jp)

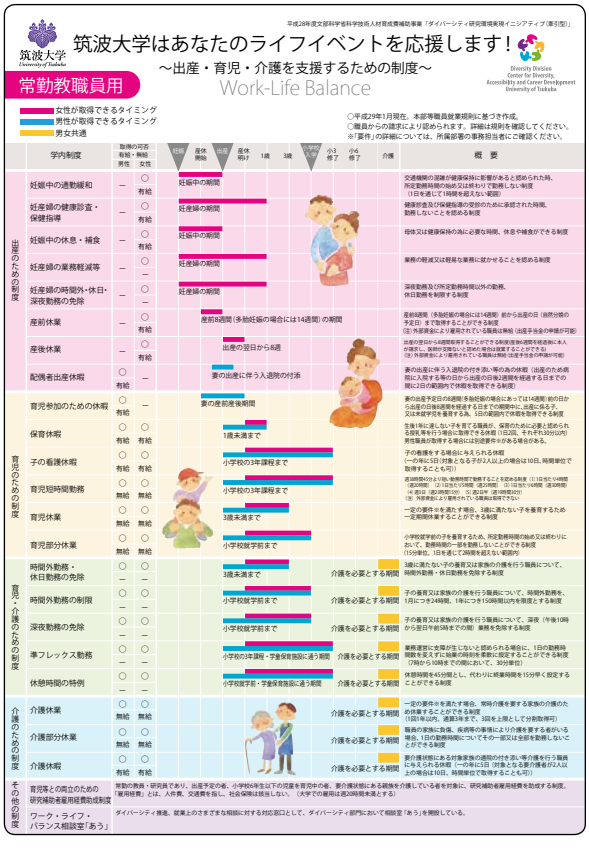
国や文化、障がいを超えて、オトナもコドモも
みんなでスポーツを楽しもう！
リレーマラソン
なないろ駅伝
ファミリーラン
教育プログラム
4選べる つの プログラム
なないろ
スポーツフェスタ
2019.3.17日 つくば市 洞峰公園
SEKISHO SINCE1908
カスミ
セレスポ
大会公式サイト http://nanairo-festa.world
なないろスポーツフェスタ
エントリー締切 2019年2月18日（月）

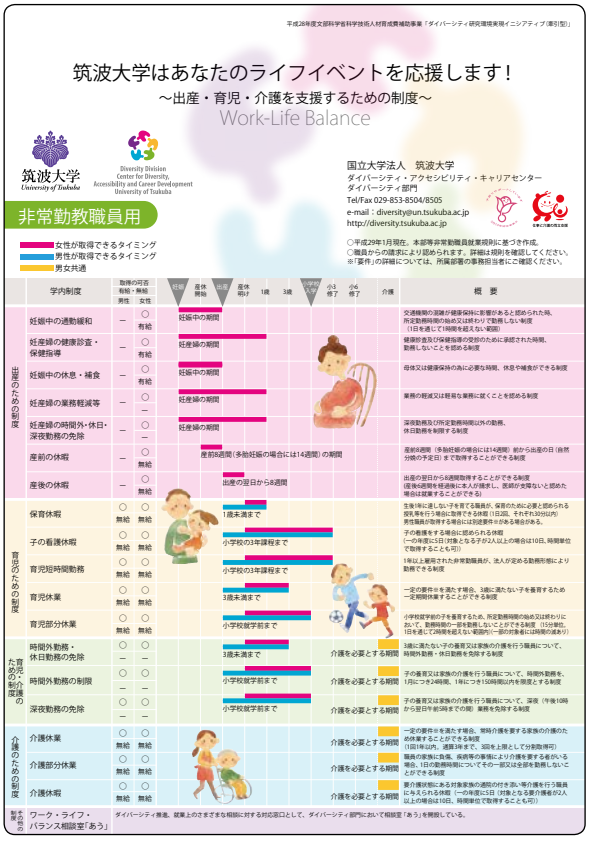
Ⅲ

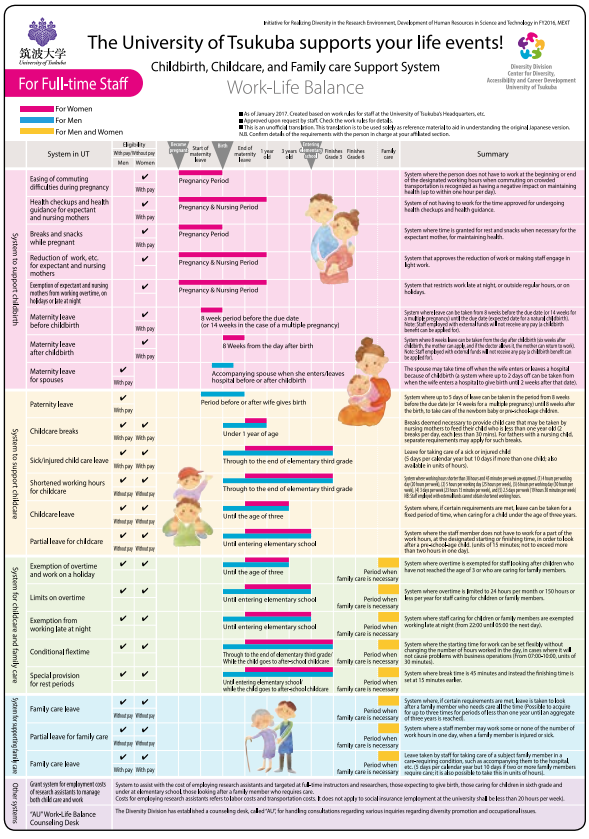
参考資料

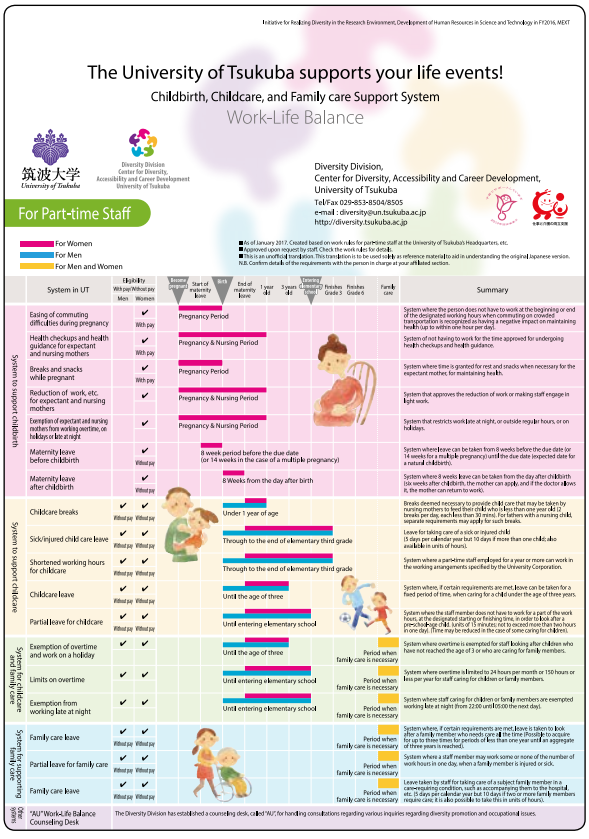
参考資料

①ワークライフ支援ガイド（下敷き形）

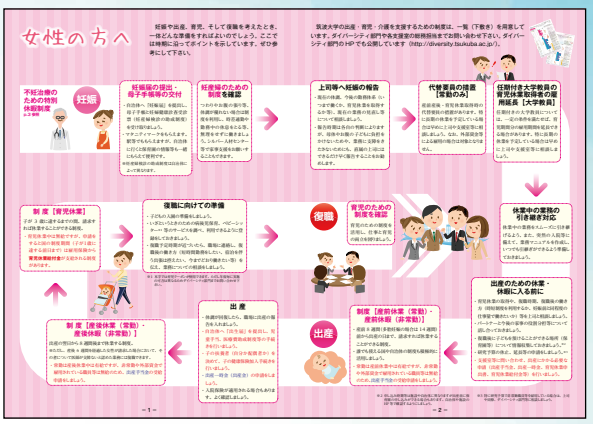


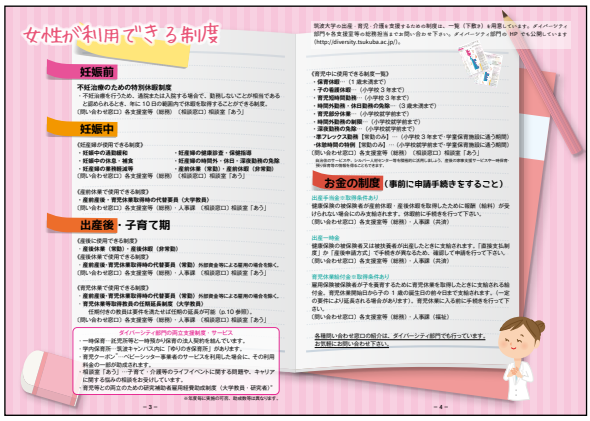


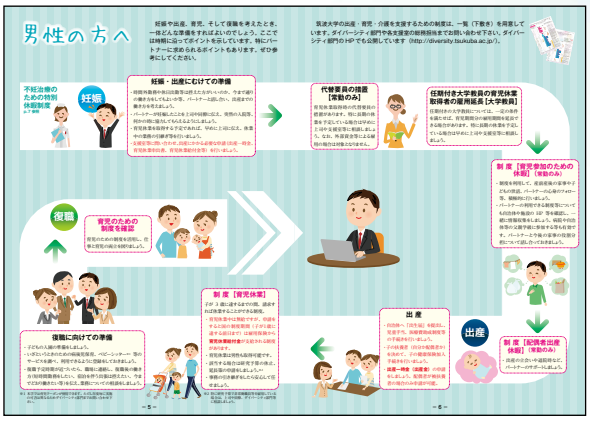


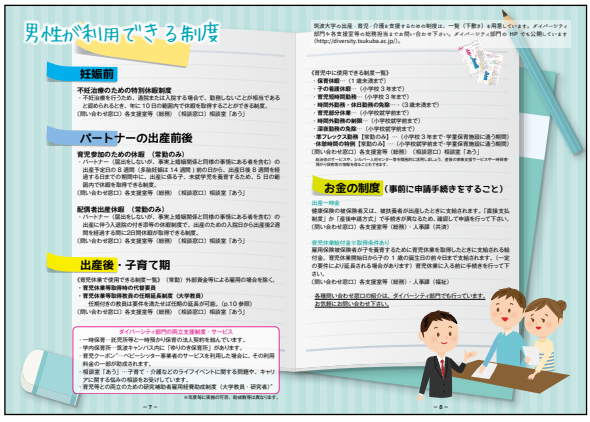


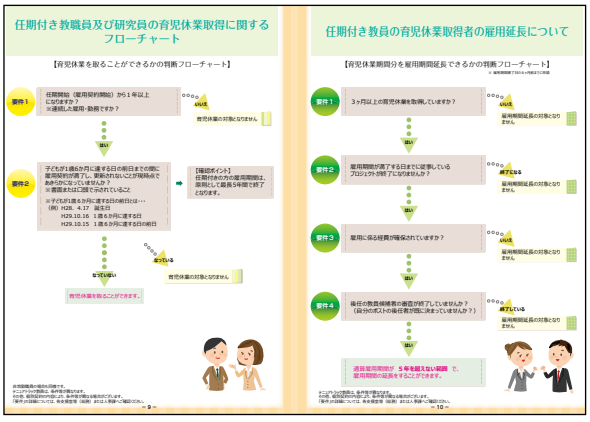
②育児休業制度利用の手引き

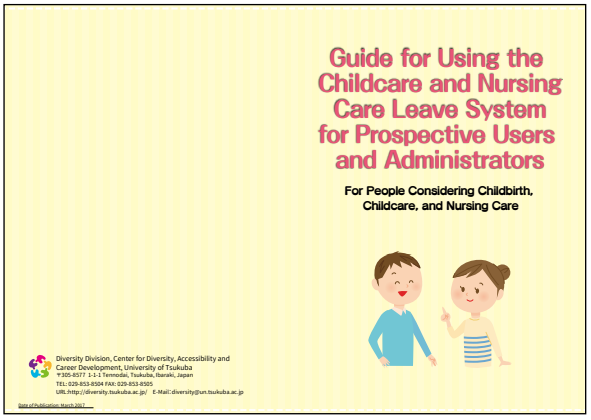


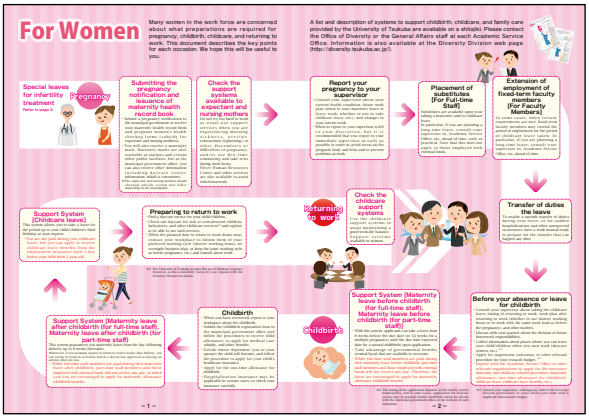


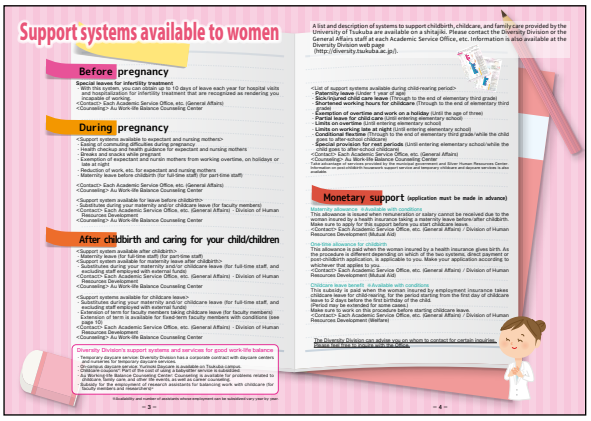


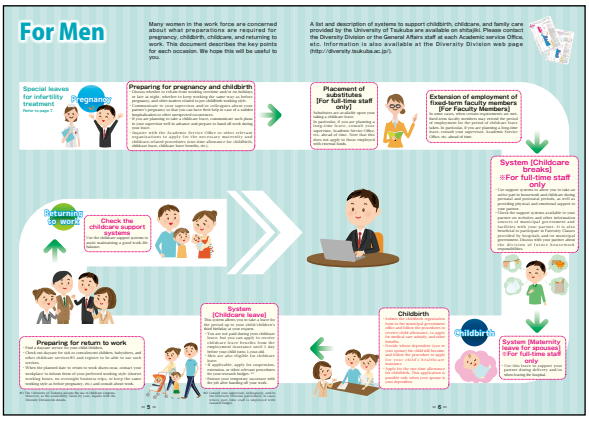


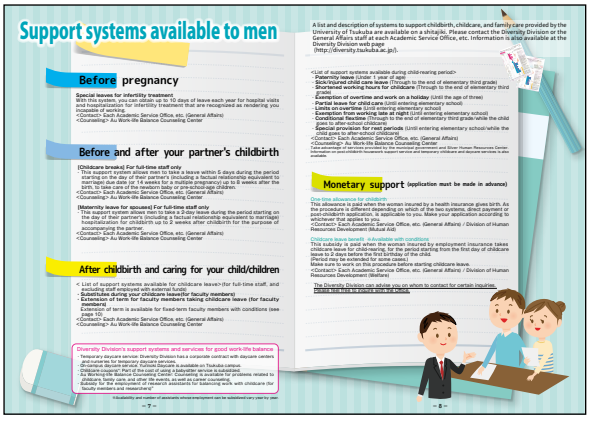


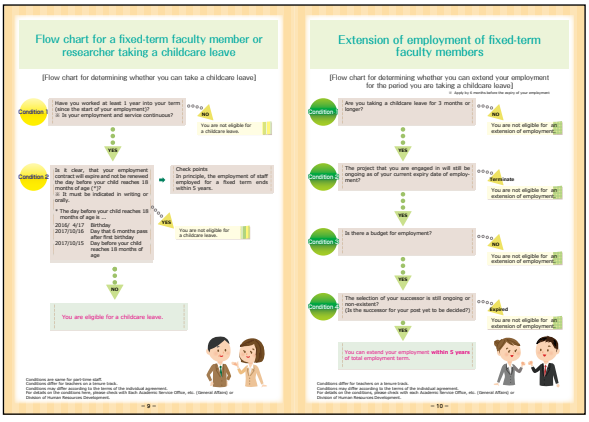

Guide for Using the Childcare and Nursing Care Leave System for Prospective Users and Administrators
For People Considering Childbirth, Childcare, and Nursing Care
Diversity Division, Center for Diversity, Accessibility and Career Development, University of Tsukuba
〒305-8577 1-1-1 Tennodai, Tsukuba, Ibaraki, Japan
TEL: 029-853-8504 FAX: 029-853-8505
URL:http://diversity.tsukuba.ac.jp/ E-Mail:diversity@un.tsukuba.ac.jp
Date of Publication: March 2017


For Women
Many women in the work force are concerned about what preparations are required for pregnancy, childbirth, childcare, and returning to work. This document describes the key points for each occasion. We hope this will be useful to you.
A list and description of systems to support childbirth, childcare, and family care provided by the University of Tsukuba are available on a shitajiki. Please contact the Office of Diversity or the General Affairs staff at each Academic Service Office. Information is also available at the Diversity Division web page (http://diversity.tsukuba.ac.jp/).
Special leaves for infertility treatment
Pregnancy
Submitting the pregnancy notification and issuance of maternity health record book
Check the support systems available to expectant and nursing mothers
Report your pregnancy to your supervisor
Placement of substitutes [For Full-time Staff]
Extension of employment of fixed-term faculty members [For Faculty Members]
Support System [Childcare leave]
Preparing to return to work
Returning to work
Check the childcare support systems
Transfer of duties the leave
Childbirth
Childbirth
Support System [Maternity leave before childbirth (for full-time staff), Maternity leave before childbirth (for part-time staff)]
Before your absence or leave for childbirth
Support System [Maternity leave after childbirth (for full-time staff), Maternity leave after childbirth (for part-time staff)]
– 1 –
– 2 –

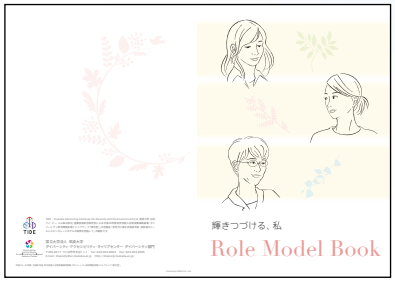

Support systems available to women
A list and description of systems to support childbirth, childcare, and family care provided by the University of Tsukuba are available on a shitajiki. Please contact the Diversity Division or the General Affairs staff at each Academic Service Office, etc. Information is also available at the Diversity Division web page (http://diversity.tsukuba.ac.jp/).
Before pregnancy
Special leaves for infertility treatment
During pregnancy
After childbirth and caring for your child/children
Monetary support (application must be made in advance)
Diversity Division's support systems and services for good work-life balance
– 3 –
– 4 –


For Men
Many women in the work force are concerned about what preparations are required for pregnancy, childbirth, childcare, and returning to work. This document describes the key points for each occasion. We hope this will be useful to you.
A list and description of systems to support childbirth, childcare, and family care provided by the University of Tsukuba are available on shitajiki. Please contact the Diversity Division or the General Affairs staff at each Academic service Office, etc. Information is also available at the Diversity Division web page (http://diversity.tsukuba.ac.jp/).
Special leaves for infertility treatment
Pregnancy
Preparing for pregnancy and childbirth
Placement of substitutes [For full-time staff only]
Extension of employment of fixed-term faculty members [For Faculty Members]
System [Childcare breaks] ※For full-time staff only
Returning to work
Check the childcare support systems
System [Childcare leave]
Childbirth
Childbirth
System [Maternity leave for spouses] ※For full-time staff only
Preparing for return to work
– 5 –
– 6 –


Support systems available to men
A list and description of systems to support childbirth, childcare, and family care provided by the University of Tsukuba are available on a shitajiki. Please contact the Diversity Division or the General Affairs staff at each Academic Service Office, etc. Information is also available at the Diversity Division web page (http://diversity.tsukuba.ac.jp/).
Before pregnancy
Special leaves for infertility treatment
Before and after your partner's childbirth
After childbirth and caring for your child/children
Monetary support (application must be made in advance)
Diversity Division's support systems and services for good work-life balance
– 7 –
– 8 –


Flow chart for a fixed-term faculty member or researcher taking a childcare leave
[Flow chart for determining whether you can take a childcare leave]
Condition
Have you worked at least 1 year into your term (since the start of your employment)?
※ Is your employment and service continuous?
NO
You are not eligible for a childcare leave.
YES
Condition
Is it clear, that your employment contract will expire and not be renewed the day before your child reaches 18 months of age (*)?
※ It must be indicated in writing or orally.
* The day before your child reaches 18 months of age is ...
2016/ 4/17 Birthday
2017/10/16 Day that 6 months pass after first birthday
2017/10/15 Day before your child reaches 18 months of age
Check points
In principle, the employment of staff employed for a fixed term ends within 5 years.
YES
You are not eligible for a childcare leave.
NO
You are eligible for a childcare leave.
Extension of employment of fixed-term faculty members
[Flow chart for determining whether you can extend your employment for the period you are taking a childcare leave]
※ Apply by 6 months before the expiry of your employment
Condition
Are you taking a childcare leave for 3 months or longer?
NO
You are not eligible for an extension of employment.
YES
Condition
The project that you are engaged in will still be ongoing as of your current expiry date of employment?
Terminate
You are not eligible for an extension of employment.
YES
Condition
Is there a budget for employment?
NO
You are not eligible for an extension of employment.
YES
Condition
The selection of your successor is still ongoing or non-existent?
(Is the successor for your post yet to be decided?)
Expired
You are not eligible for an extension of employment.
YES
You can extend your employment within 5 years of total employment term.
– 9 –
– 10 –

③ロールモデル集


輝きつづける、私
Role Model Book

女性研究者・技術者支援が
拓く未来に向けて
Role Model Book
Contents

大鹿 綾さん
自分の手術をきっかけに
医薬品の可能性に着目
岡 宏聡さん

坂口 綾さん
放射性核種で
地球を観る
三好 由華さん

永田 純子さん
仕事と家庭と趣味の
ベストバランス
子どもがいても、
全力で働く!
涌水 理恵さん

井出 里咲子さん
役割と責任を明確に、
支えられて生きる
自由な場所も、
自由なワークスタイル
文 連子さん

馬 冬梅さん
研究成果を役立てたい
研究はカンコツ、
楽しくは超プラス思考で
國久 美由紀さん

三橋 薫さん
目標を持って
学び、働きつづける
小野 恭子さん

山本（前田）万里さん
商品開発にチャレンジ
夢は自分で拓く!
浅川 恵理さん

山岸 裕美さん
キャロライン・ベントンさん

御手洗 容子さん
研究以外の仕事も
いつか自分の糧に立つ
加納 尚美さん

大島 慎子さん
日本と自分を知るために
若いときに世界へ出よう
磯田 博子さん

イノベーション創出へ
女性研究者・技術者の潮流を起こす

自分らしく生き生きと

④掲載記事

2018年９月30日　つくば市男女共同参画室だより

Newsletter of Gender Equality Office,City of Tsukuba　　September Issue(No.2),2018

平成30年度　第2号

男女共同参画室だより

「自分にも　人にもおくろう　優しい気持ち」
平成２9年度“愛ことば”最優秀賞（一般の部）

平成30年9月30日発行
編集・発行：つくば市男女共同参画室

夢・あこがれ・志！ 未来ひろがる

中高生理工学系進学応援シンポジウム ＆リケジョサイエンス合宿が開催されました

8/20～22

筑波大学では、平成25年度より「リケジョ合宿・カフェ」を企画し、女子中高生が多様な理系分野の魅力を知り、体験できるプログラムを実施しています。

今年度は、例年実施しているリケジョ合宿に加え、近郊の研究機関の協力を得て、20日の初日に「中高生理工系進学応援シンポジウム」を開催し、男子学生も参加しました。

参加者の交流の場や中高生の研究発表の場を新しく設けたシンポジウムでは、130名の中高生が参加しました。参加者からは、「研究者とはどういうことをする人なのかを実際の研究者と会って学ぶことができた。」等、前向きな感想が寄せられました。

▲シンポジウムでの基調講演

また、20日～22日の2泊3日で行われたリケジョ合宿には、全国各地から79名の女子中高生（中学生32名、高校生47名）が参加し、サイエンス実験体験や、他の参加者・大学生・先生方との交流、グループワーク等を行いました。参加者からは、「マウスの解剖の見学や実験は初めてだった。」や「経歴や職業についたきっかけ、理系選択のきっかけなどを聞くことができて、とても参考になった。」等の感想が多くみられました。

▲女性研究者との交流の場≪ラウンドテーブルカフェ≫

▶ つくば市展示ブース

今回、つくば市は、初日のシンポジウムの展示ブースに出展し、市内で活躍している女性研究者や、市役所で働くリケジョ職員の紹介を実施しました。市役所でも、土木職や建築職で活躍する女性職員を紹介することで、理工系の職業選択の幅を伝えることができました。

女性研究者やリケジョ職員の紹介は、市のウェブサイトにも掲載していますので、ぜひご覧ください。

（科学技術振興課）

▲市の女性研究者紹介サイト

▲リケジョ合宿に参加された皆さん

平成 29 年 3 月 1 日

筑波大学ニュース＆トピックス

永田恭介学長が「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言に賛同しました

国立大学法人筑波大学学長の永田恭介は、内閣府が支援する「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言に賛同しましたので、お知らせいたします。

本学学長の永田恭介は、この「行動宣言」に賛同し、筑波大学の学生及び教職員を含めた全ての女性の活躍のさらなる推進を通じて、あらゆる面で「開かれた大学」という建学の理念のもと、世界が直面する問題の解決に主体的に貢献する人材の創出を目指した教育研究を充実･強化していくことを、改めて表明します。

■「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言について

平成 26 年 3 月 28 日に首相官邸で開催された「輝く女性応援会議」を契機に、輝く女性・輝こうとする女性たちを応援する各界のリーダーたちによるムーブメントが拡がっています。

このような中、女性の活躍推進に積極的に取り組んでいる企業の男性リーダーによる「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言が取りまとめられました。

※「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言ホームページ
http://www.gender.go.jp/policy/sokushin/male_leaders.html

■国立大学法人筑波大学の女性活躍推進施策について

筑波大学では、平成 9 年に女性研究者の有志による「筑波大学女性教官懇話会（仮称）」が発足し、学内保育所や男女共同参画推進室の設置、育児・介護支援、各種相談体制の確立等を進めるとともに、平成 20 年に「筑波大学男女共同参画の推進に係る基本理念・基本方針」、平成 24 年には「ダイバーシティ基本理念・基本方針」を策定する等、これまで一貫して女性活躍のための環境整備・意識啓発等の支援に取り組んできました。平成 28 年、これらの取組は多様化する学生及び教職員への包括的な支援を目的とした「ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター」に引き継がれ、さらなる女性の活躍を後押しするべく、現在も取組を加速させています。

■本学の施策に関する詳細

・ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター　ダイバーシティ部門 HP
・女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画

※筑波大学は、平成 28 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の採択を受け、一層の女性活躍推進に取り組んでいきます。

■本件問い合わせ先

ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター　ダイバーシティ部門
TEL: 029-853-8504　E-mail : diversity@un.tsukuba.ac.jp

IMAGINE
THE
FUTURE.

国立大学法人　筑波大学
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター　ダイバーシティ担当

〒305-8577 つくば市天王台1-1-1
Tel/Fax：029-853-8504/8505
e-mail：diversity@un.tsukuba.ac.jp
https://diversity.tsukuba.ac.jp

Diversity Division
Center for Diversity,
Accessibility and Career Development
University of Tsukuba